

令和2（2020）年度

栃木県政世論調査

調査報告書（概要版）

令和2（2020）年10月

栃木県

目 次

I	調査の概要	1
II	調査の結果	2
1	暮らしの変化について	
	(1) 暮らしの変化	2
	(1-1) 暮らしが悪くなった理由	3
	(2) 暮らしの満足度	4
	(3) 今後の暮らしの状況	5
	(4) 今後の暮らしで力を入れる点	6
2	県政への要望について	
	(1) 県政への要望	7
3	日常生活について	
	(1) 文化・芸術活動について	10
	(2) スポーツ活動について	11
	(3) 住んでいる地域について	12
	(4) 社会貢献活動について	13
	(5) 県政情報の入手方法について	15
4	栃木県への愛着と誇りについて	
	(1) 栃木県に対する愛着	16
	(1-1) 栃木県に愛着を感じる理由	17
	(1-2) 栃木県に愛着を感じない理由	18
	(2) 「VERY GOOD LOCAL とちぎ」の認知度	19
5	第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」及び第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」の開催について	
	(1) 「いちご一会とちぎ国体」「いちご一会とちぎ大会」の認知度	20
	(1-1) 両大会が栃木県で開催されることを知った方法	21
	(2) 両大会に参加・協力できる方法	22
6	地域防災について	
	(1) 災害に対する備え	23
	(2) 災害の際に必要な情報について知っていること	24
	(3) 防災訓練の参加状況	25
7	青少年の健全育成について	
	(1) 「家庭の日」「とちぎの子ども育成憲章」の認知度	26
	(2) 青少年が携帯電話(スマートフォン)を介したトラブルに巻き込まれないための取組	27
8	男女平等意識について	
	(1) 社会全体の中での男女の地位の平等感	28
	(2) 働く場での男女の地位の平等感	29
	(3) 固定的な性別役割分担意識	30

9 とちぎの元気な森づくり県民税について	
(1) 重要と考える森林の働き	31
(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの	32
10 とちぎのがん対策等について	
(1) がんについて知っていること	33
(2) がん検診を受診しない人が多い理由	34
(3) がんの治療・検査のために通院しながら働き続ける社会の環境	35
(3-1) がんの治療・検査のために通院しながら働き続けるための妨げになること	36
11 食の安全・安心について	
(1) 食品の安全性に対する不安	38
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの	39
12 食品ロスの削減について	
(1) 食品ロスの問題の認知度	40
(2) 食品ロスが発生させないための取組で知っていること	41
(3) 食品ロスが発生させないために現在取り組んでいること	42
13 食に関する意識と実践について	
(1) 食事の際「いただきます」を言っているか	43
(2) 農業体験をした経験	44
14 農村地域における協働活動について	
(1) 農村地域における協働活動への参加経験・参加意向	45
(1-1) 今後参加してみたい協働活動	46
(2) 農村地域における協働活動に参加するために必要な情報	47
15 新技術を活用した公共交通について	
(1) 日常生活における交通手段	48
(2) 路線バスに対する不満	49
(3) 自動運転システムが導入された路線バスの利用意向	50
(4) 路線バスに自動運転システムを導入することへの不安	51
16 生涯学習について	
(1) 最近1年間に行った生涯学習の種類	52
(1-1) 生涯学習を行った理由	53
(1-2) 生涯学習を行った場所・形態	54
17 犯罪と治安対策について	
(1) 県内の治安状況の変化	55
(2) 不安を感じる犯罪	56
(3) 交通事故を抑止するための対策	57

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考とすることを目的とする。

2 調査項目

- | | |
|--|------------------------|
| (1) 暮らしの変化について* | (9) とちぎの元気な森づくり県民税について |
| (2) 県政への要望について* | (10) とちぎのがん対策等について |
| (3) 日常生活について* | (11) 食の安全・安心について |
| (4) 栃木県への愛着と誇りについて | (12) 食品ロスの削減について |
| (5) 第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」及び第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」の開催について | (13) 食に関する意識と実践について |
| (6) 地域防災について | (14) 農村地域における協働活動について※ |
| (7) 青少年の健全育成について | (15) 新技術を活用した公共交通について※ |
| (8) 男女平等意識について | (16) 生涯学習について |
| | (17) 犯罪と治安対策について |
- (*印は時系列調査、※印は新規調査)

3 調査設計

- | | |
|----------|----------------------|
| (1) 調査地域 | 栃木県全域 |
| (2) 調査対象 | 満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 2,000 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収） |
| (6) 調査時期 | 令和2（2020）年6月15日～7月7日 |

4 調査機関

株式会社エスピー研

5 回収結果

回収数（率） 1,307（65.4%）

6 報告書の見方

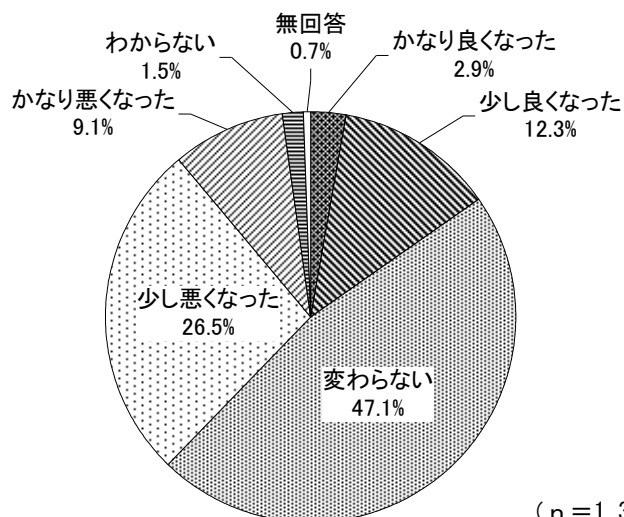
- (1) 各調査項目について、全体、性別、性／年齢別及び過去の調査結果との比較（一部項目のみ）を掲載した。
- (2) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (3) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (4) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (5) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (6) 性／年齢別の分析の説明では、男性18～19歳の回答者は19人、女性18～19歳の回答者は17人と少ないため、他の性／年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、一律にふれていない。

II 調査の結果

1 暮らしの変化について

(1) 暮らしの変化

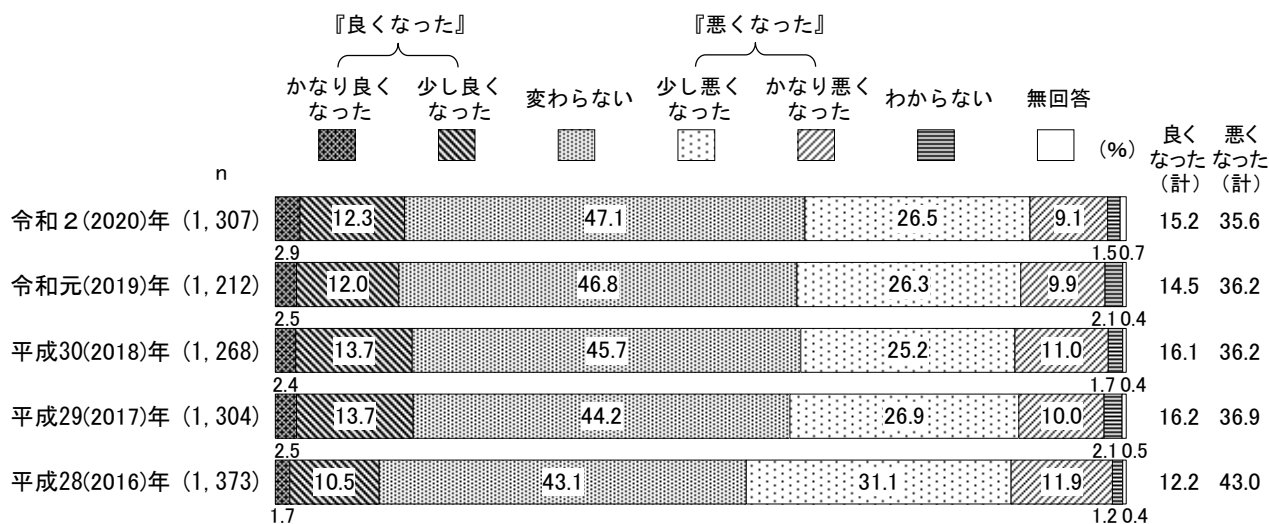
問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,307]



・全体で見ると、「かなり良くなった」(2.9%)と「少し良くなった」(12.3%)の2つを合わせた『良くなった』(15.2%)が1割半ばとなっている。一方、「少し悪くなった」(26.5%)と「かなり悪くなった」(9.1%)の2つを合わせた『悪くなった』(35.6%)が3割半ばとなっている。また、「変わらない」(47.1%)が5割近くとなっている。

・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

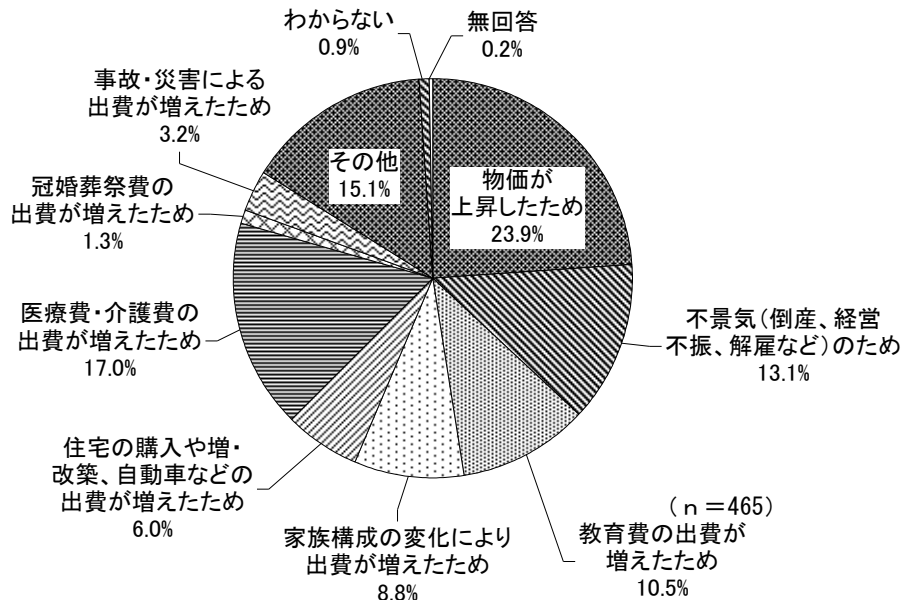
・性/年齢別で見ると、『良くなった』では〈女性30歳代〉が39.0%、〈男性20歳代〉が36.8%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性65～69歳〉が46.8%と高くなっている。



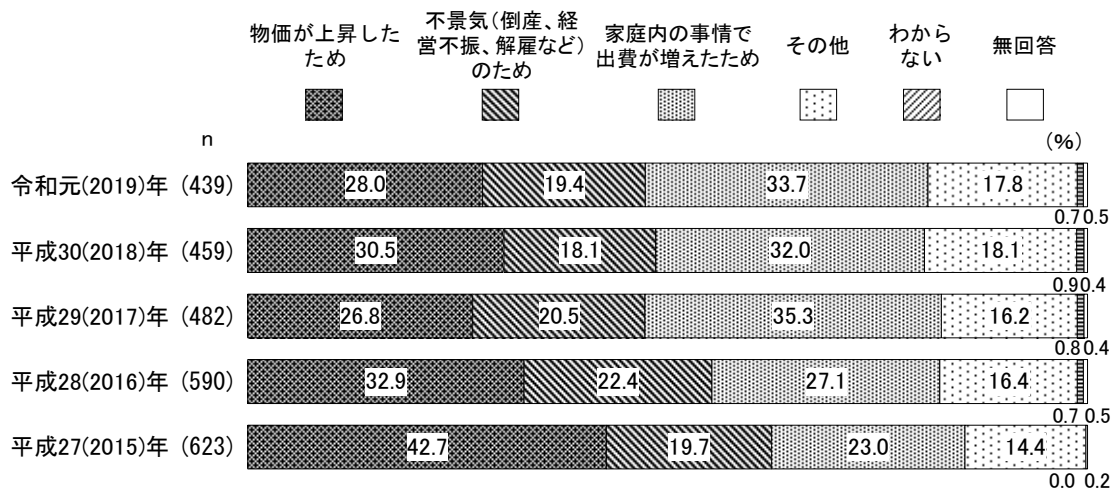
・過去の調査結果と比較すると、平成29(2017)年以降大きな傾向の違いはみられない。

(1-1) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)
 問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。 [n=465]

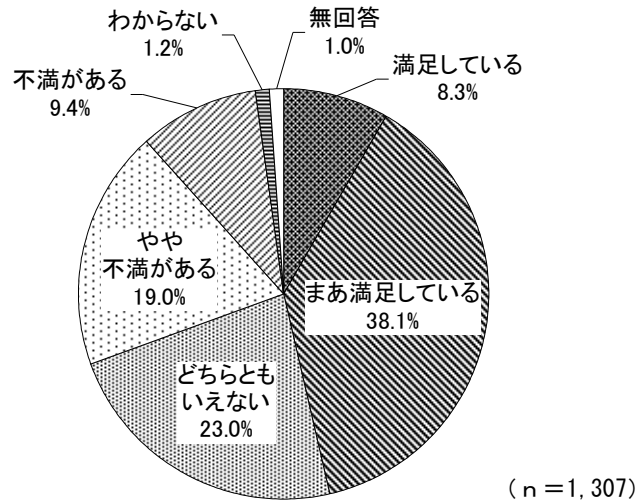


- 全体で見ると、「物価が上昇したため」(23.9%)が2割を超えて最も高く、次いで「医療費・介護費の出費が増えたため」(17.0%)、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」(13.1%)、「教育費の出費が増えたため」(10.5%)の順となっている。
- 性別で見ると、「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈男性〉(20.5%)が〈女性〉(14.0%)より6.5ポイント高くなっている。「物価が上昇したため」では〈女性〉(26.4%)が〈男性〉(21.0%)より5.4ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「物価が上昇したため」では〈女性65~69歳〉が45.9%と高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈女性40歳代〉が27.0%と高くなっている。「教育費の出費が増えたため」では〈女性40歳代〉が27.0%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈男性65~69歳〉が32.3%、〈男性70歳以上〉が27.5%、〈女性70歳以上〉が27.1%と高くなっている。
- 過去の調査結果との比較は、選択肢を今回調査で大幅に見直したため、比率を直接比較することができないことから、参考として過去の調査結果を示す。

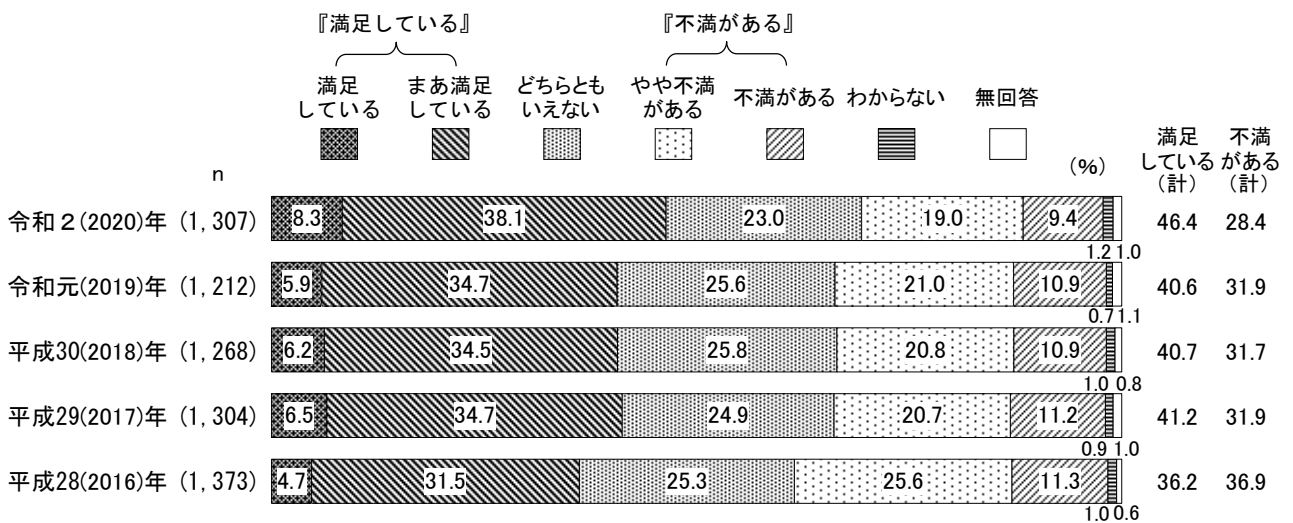


(2) 暮らしの満足度

問2 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。
[n=1,307]



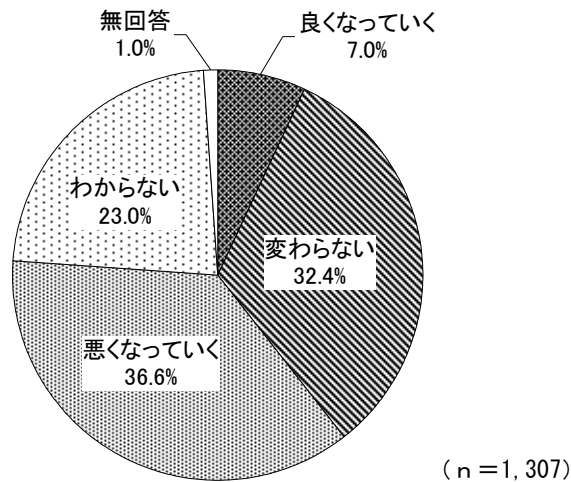
- ・全体で見ると、「満足している」(8.3%)と「まあ満足している」(38.1%)の2つを合わせた『満足している』(46.4%)が4割半ばとなっている。一方、「やや不満がある」(19.0%)と「不満がある」(9.4%)の2つを合わせた『不満がある』(28.4%)が3割近くとなっている。また、「どちらともいえない」(23.0%)が2割を超えている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『満足している』では〈女性30歳代〉が65.0%と高くなっている。



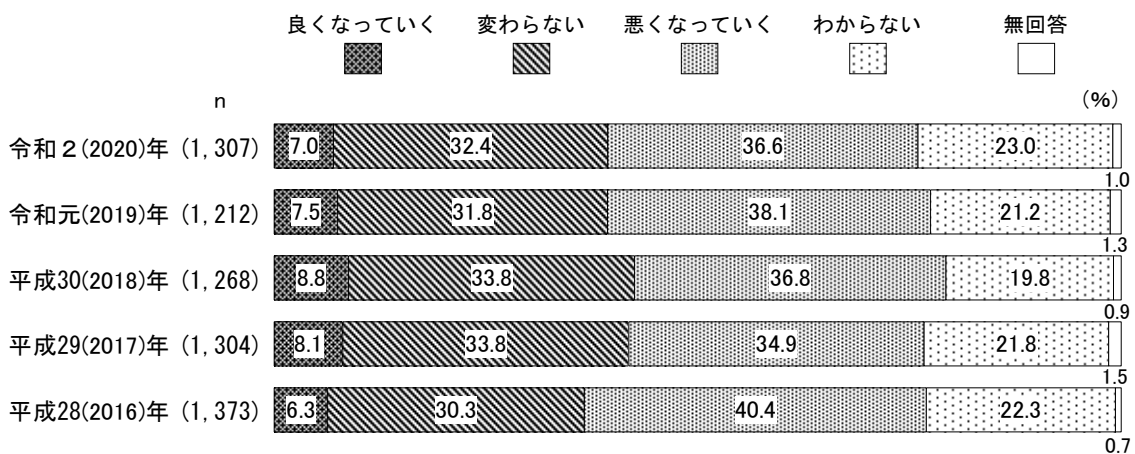
- ・過去の調査結果と比較すると、『満足している』が令和元(2019)年より5.8ポイント増加している。一方、『不満がある』が令和元(2019)年より3.5ポイント減少している。

(3) 今後の暮らしの状況

問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。
[n=1,307]



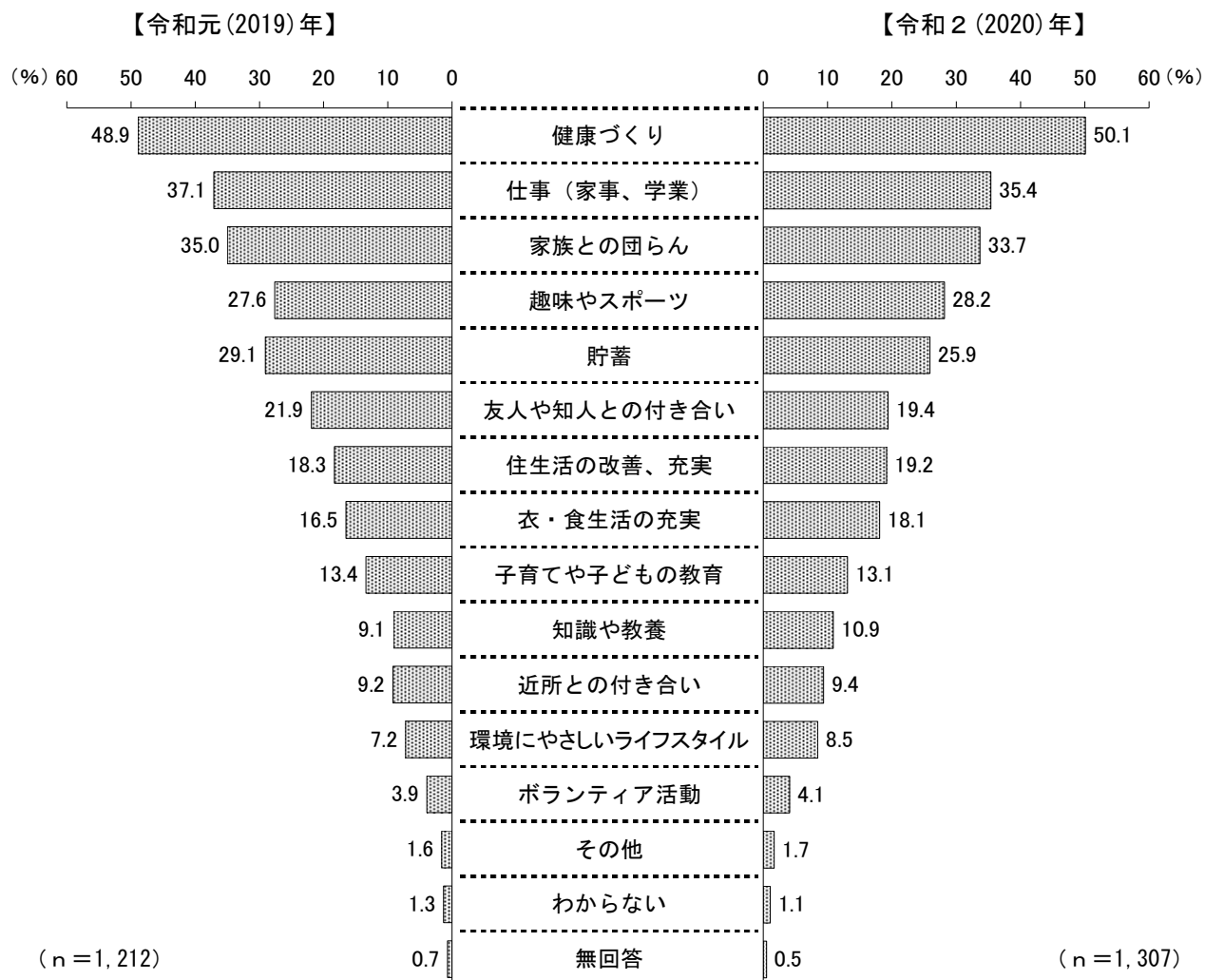
- ・全体で見ると、「良くなっていく」(7.0%)が1割近くとなっている。「変わらない」(32.4%)は3割を超えており、「悪くなっていく」(36.6%)は4割近くとなっている。
- ・性別で見ると、「悪くなっていく」では〈男性〉(39.7%)が〈女性〉(34.0%)より5.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈女性30歳代〉が18.2%、〈女性20歳代〉が17.4%となっている。「変わらない」では〈男性65～69歳〉が43.7%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈男性70歳以上〉が50.7%、〈男性50歳代〉が48.1%、〈男性65～69歳〉が47.9%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、令和元(2019)年と大きな傾向の違いはみられない。

(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。 [n=1,307]

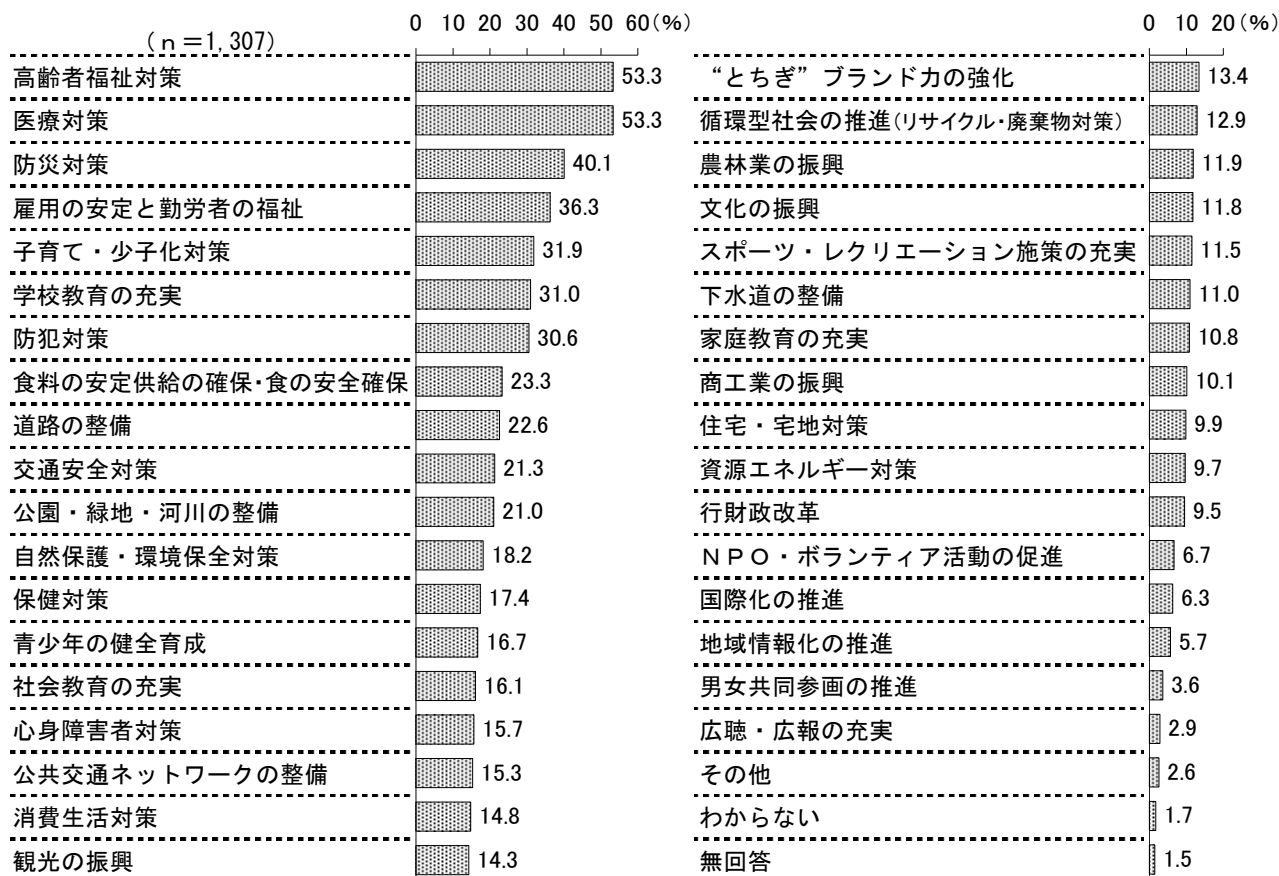


- ・全体で見ると、「健康づくり」(50.1%)が5割で最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(35.4%)、「家族との団らん」(33.7%)、「趣味やスポーツ」(28.2%)、「貯蓄」(25.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(36.0%)が〈女性〉(21.8%)より14.2ポイント高くなっている。「健康づくり」では〈女性〉(54.0%)が〈男性〉(45.4%)より8.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康づくり」では〈女性65~69歳〉が78.5%、〈女性60~64歳〉が75.0%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉が63.2%、〈男性40歳代〉が61.0%と高くなっている。「家族との団らん」では〈男性30歳代〉が50.9%、〈女性30歳代〉が50.6%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性30歳代〉が50.9%、〈男性20歳代〉が50.0%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性20歳代〉が54.3%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が46.8%、〈女性40歳代〉が39.6%、〈男性30歳代〉が38.6%と高くなっている。
- ・令和元(2019)年の調査結果と比較すると、「貯蓄」が3.2ポイント減少している。

2 県政への要望について

(1) 県政への要望

問5 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な “とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,307]



- ・全体で見ると、「高齢者福祉対策」と「医療対策」(53.3%)がともに5割を超えて高く、次いで「防災対策」(40.1%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(36.3%)、「子育て・少子化対策」(31.9%)、「学校教育の充実」(31.0%)、「防犯対策」(30.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉(27.9%)が〈男性〉(17.9%)より10.0ポイント高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈女性〉(41.0%)が〈男性〉(31.5%)より9.5ポイント高くなっている。「高齢者福祉対策」では〈女性〉(56.6%)が〈男性〉(48.9%)より7.7ポイント高くなっている。「医療対策」では〈女性〉(56.4%)が〈男性〉(49.2%)より7.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢者福祉対策」では〈女性70歳以上〉が71.0%、〈女性65～69歳〉が65.8%、〈男性70歳以上〉が64.4%と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈女性50歳代〉が54.9%、〈女性30歳代〉が50.6%と高くなっている。「子育て・少子化対策」では〈男性30歳代〉が61.4%、〈女性30歳代〉が57.1%と高くなっている。「学校教育の充実」では〈女性30歳代〉が55.8%、〈女性40歳代〉が48.6%、〈男性20歳代〉が47.4%と高くなっている。「道路の整備」では〈男性20歳代〉が47.4%と高くなっている。

[過去の調査結果一年齢別]

(上位5項目)

年齢	年	順位				
		1位	2位	3位	4位	5位
全体	令和2(2020)年 (n=1,307)	高齢者福祉対策/医療対策 53.3%		防災対策 40.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.3%	子育て・少子化対策 31.9%
	令和元(2019)年 (n=1,212)	高齢者福祉対策 59.1%	医療対策 50.7%	子育て・少子化対策 37.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.5%	防犯対策 34.7%
	平成30(2018)年 (n=1,268)	高齢者福祉対策 58.4%	医療対策 49.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.7%	子育て・少子化対策 34.5%	防犯対策 30.9%
	平成29(2017)年 (n=1,304)	高齢者福祉対策 58.8%	医療対策 50.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 37.0%	子育て・少子化対策の充実(※) 34.1%	学校教育の充実 31.1%
	平成28(2016)年 (n=1,373)	高齢者福祉対策 60.6%	医療対策 50.4%	雇用の安定と勤労者の福祉 40.9%	子育て・少子化対策の充実(※) 38.7%	防犯対策 34.2%
20歳 ～ 39歳	令和2(2020)年 (n=218)	子育て・少子化対策 52.3%	医療対策 46.8%	学校教育の充実 46.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.3%	防災対策 37.2%
	令和元(2019)年 (n=234)	子育て・少子化対策 56.4%	医療対策 49.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 44.9%	学校教育の充実 42.3%	交通安全対策 41.5%
	平成30(2018)年 (n=229)	子育て・少子化対策 53.3%	医療対策 48.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.7%	学校教育の充実 37.6%	高齢者福祉対策 37.1%
	平成29(2017)年 (n=253)	子育て・少子化対策の充実(※) 56.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 49.8%	医療対策 46.6%	学校教育の充実 41.1%	高齢者福祉対策/ 防犯対策 34.8%
	平成28(2016)年 (n=249)	子育て・少子化対策の充実(※) 58.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.2%	医療対策 45.0%	学校教育の充実 43.8%	防犯対策 36.9%
40歳 ～ 59歳	令和2(2020)年 (n=449)	医療対策 55.0%	高齢者福祉対策 49.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.3%	防災対策 43.4%	学校教育の充実 34.7%
	令和元(2019)年 (n=392)	高齢者福祉対策 54.8%	医療対策 51.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 42.1%	子育て・少子化対策 39.0%	防犯対策 35.5%
	平成30(2018)年 (n=411)	高齢者福祉対策 57.2%	医療対策 51.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 48.4%	子育て・少子化対策 34.3%	学校教育の充実 33.3%
	平成29(2017)年 (n=389)	高齢者福祉対策 55.8%	医療対策 55.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 42.7%	学校教育の充実 36.5%	子育て・少子化対策の充実(※) 35.2%
	平成28(2016)年 (n=436)	高齢者福祉対策 57.3%	医療対策 51.4%	雇用の安定と勤労者の福祉 50.5%	子育て・少子化対策の充実(※) 39.7%	防犯対策 36.2%
60歳 ～ 69歳	令和2(2020)年 (n=271)	高齢者福祉対策 62.7%	医療対策 55.4%	防災対策 43.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 30.3%	防犯対策 26.9%
	令和元(2019)年 (n=258)	高齢者福祉対策 67.4%	医療対策 52.7%	防災対策 33.7%	子育て・少子化対策/防犯対策	32.9%
	平成30(2018)年 (n=267)	高齢者福祉対策 64.0%	医療対策 50.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 33.3%	子育て・少子化対策 31.8%	防犯対策 29.2%
	平成29(2017)年 (n=301)	高齢者福祉対策 65.1%	医療対策 48.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 34.9%	子育て・少子化対策の充実(※) 30.9%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保/防災対策 29.6%
	平成28(2016)年 (n=331)	高齢者福祉対策 69.8%	医療対策 51.4%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.3%	子育て・少子化対策の充実(※) 36.9%	防災対策 36.6%
70歳 以上	令和2(2020)年 (n=315)	高齢者福祉対策 67.9%	医療対策 54.3%	防災対策 34.6%	防犯対策 28.6%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 26.0%
	令和元(2019)年 (n=299)	高齢者福祉対策 75.6%	医療対策 49.2%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 33.4%	交通安全対策 32.4%	防犯対策 30.1%
	平成30(2018)年 (n=320)	高齢者福祉対策 71.9%	医療対策 49.1%	防犯対策 30.0%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 27.2%	学校教育の充実/青少年の健全育成 25.3%
	平成29(2017)年 (n=323)	高齢者福祉対策 78.0%	医療対策 51.7%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 32.5%	交通安全対策 31.0%	防犯対策 27.9%
	平成28(2016)年 (n=333)	高齢者福祉対策 75.7%	医療対策 52.6%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 35.7%	防犯対策 31.8%	防災対策 30.3%

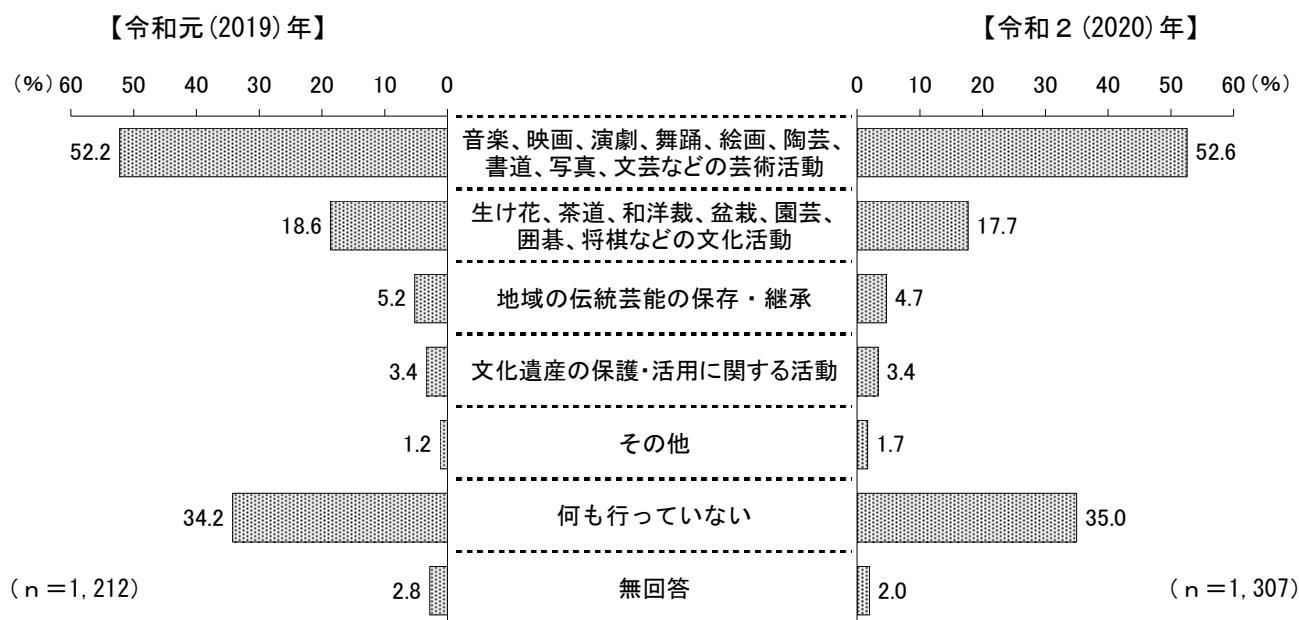
(※)「子育て・少子化対策」は、平成29(2017)年調査以前では「子育て・少子化対策の充実」としていた。

- ・ 上位 5 項目について、全体及び 4 区分した年齢層別に過去の調査結果と比較すると、全体では、平成 28 (2016) 年以降「高齢者福祉対策」が同率も含めて 1 位となっている。「医療対策」は平成 28 (2016) 年から令和元 (2019) 年まで 2 位であったが、今回調査では同率の 1 位となっている。「防災対策」は令和元 (2019) 年では 7 位であったが、今回調査では 3 位となっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」は令和元 (2019) 年に引き続き 4 位となっている。
- ・ 20～39歳では、「子育て・少子化対策」が平成 28 (2016) 年以降 1 位となっている。「医療対策」は平成 30 (2018) 年以降 2 位となっている。「学校教育の充実」は平成 28 (2016) 年から令和元 (2019) 年まで 4 位であったが、今回調査では 3 位となっている。
- ・ 40～59歳では、平成 28 (2016) 年から令和元 (2019) 年まで 2 位であった「医療対策」が今回調査では 1 位となり、平成 28 (2016) 年から令和元 (2019) 年まで 1 位であった「高齢者福祉対策」が今回調査では 2 位となっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」は平成 28 (2016) 年以降 3 位となっている。
- ・ 60～69歳では、平成 28 (2016) 年以降「高齢者福祉対策」が 1 位、「医療対策」が 2 位となっている。「防災対策」は令和元 (2019) 年に引き続き 3 位となっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」は令和元 (2019) 年では 6 位であったが、今回調査では 4 位となっている。
- ・ 70歳以上では、平成 28 (2016) 年以降「高齢者福祉対策」が 1 位、「医療対策」が 2 位となっている。「防災対策」は令和元 (2019) 年では 6 位であったが、今回調査では 3 位となっている。「防犯対策」は令和元 (2019) 年では 5 位であったが、今回調査では 4 位となっている。

3 日常生活について

(1) 文化・芸術活動について

問6 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,307]

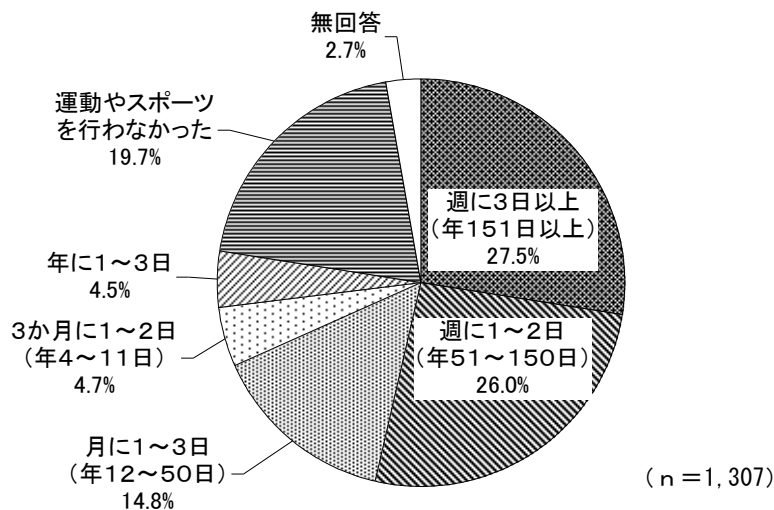


- ・全体で見ると、「音楽、映画、演劇、舞踊、絵画、陶芸、書道、写真、文芸などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」(52.6%)が5割を超えて最も高く、次いで「生け花、茶道、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」(17.7%)が2割近くとなっている。一方、「何も行っていない」(35.0%)が3割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『芸術活動』では〈女性〉(58.5%)が〈男性〉(46.1%)より12.4ポイント高くなっている。『文化活動』では〈女性〉(22.3%)が〈男性〉(12.2%)より10.1ポイント高くなっている。「何も行っていない」では〈男性〉(40.5%)が〈女性〉(29.9%)より10.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『芸術活動』では〈女性20歳代〉が76.1%、〈女性30歳代〉が71.4%、〈女性40歳代〉が69.4%と高くなっている。『文化活動』では〈女性70歳以上〉が32.5%、〈女性65～69歳〉が31.6%、〈女性60～64歳〉が28.3%と高くなっている。「何も行っていない」では〈男性50歳代〉が45.2%と高くなっている。
- ・令和元(2019)年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

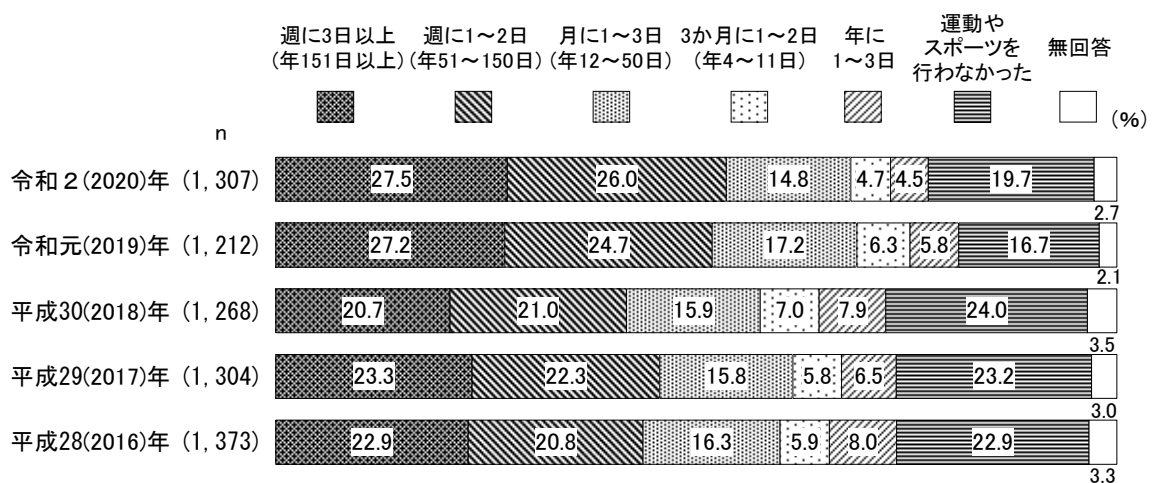
(2) スポーツ活動について

問7 あなたは、この1年間にどの程度運動やスポーツ(※)を行いましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,307]

※ 運動やスポーツには、ウォーキング(散歩、ぶらぶら歩き、一駅歩きなど)、階段昇降(2アップ3ダウンなど)、ジョギング、水泳、体操(ラジオ体操、エアロビクスなど)、室内運動器具を使ってする運動、レクリエーションスポーツ(フライングディスク、スポーツチャンバラなど)、ゲートボール、登山、ゴルフ、釣り、サイクリングのほか、子どもとの体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすことなどを含みます。



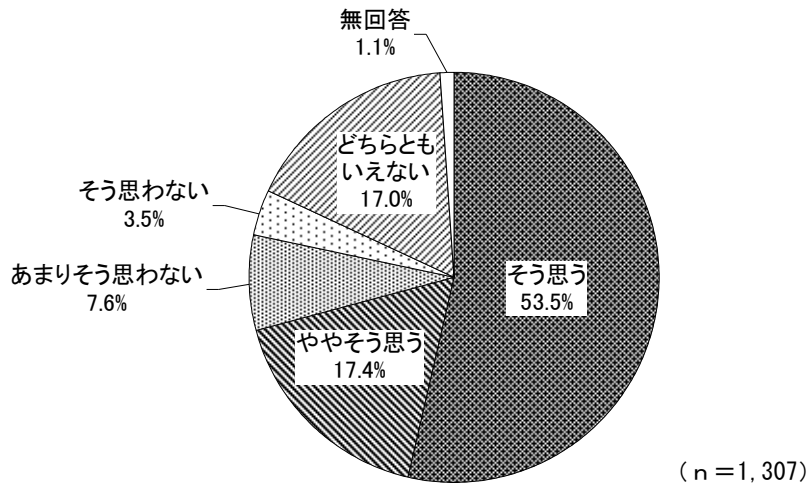
- ・全体で見ると、「週に3日以上(年151日以上)」(27.5%)が3割近くで最も高く、次いで「週に1~2日(年51~150日)」(26.0%)、「月に1~3日(年12~50日)」(14.8%)の順となっている。一方、「運動やスポーツを行わなかった」(19.7%)が2割となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「週に3日以上(年151日以上)」では〈男性70歳以上〉が43.8%と高くなっている。「週に1~2日(年51~150日)」では〈男性30歳代〉が38.6%と高くなっている。「月に1~3日(年12~50日)」では〈女性30歳代〉が31.2%と高くなっている。「運動やスポーツを行わなかった」では〈女性50歳代〉が27.1%と高くなっている。



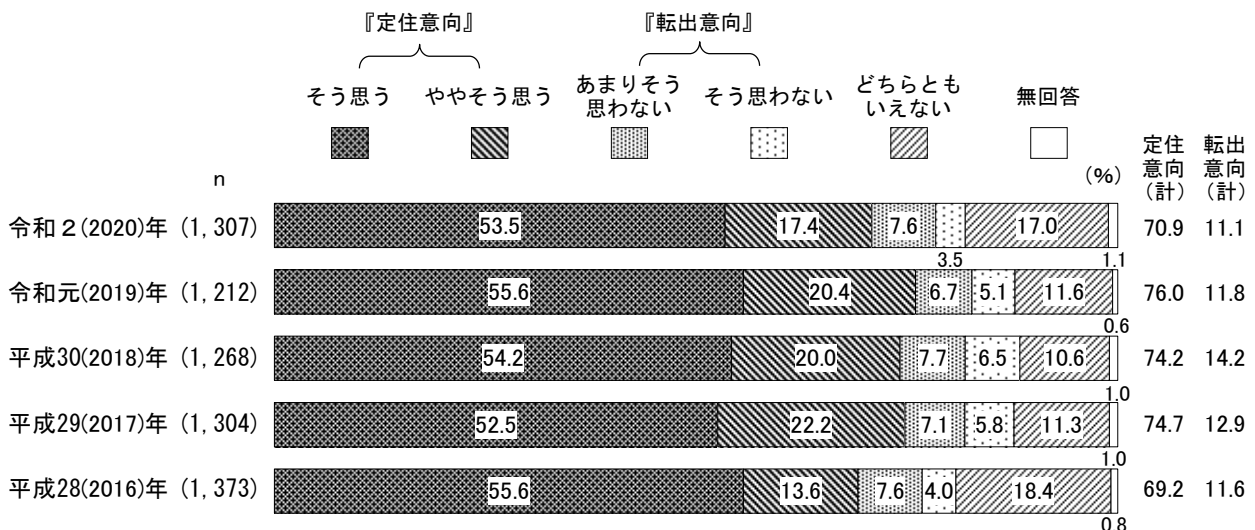
- ・過去の調査結果と比較すると、「運動やスポーツを行わなかった」が令和元(2019)年より3.0ポイント増加している。なお、平成30(2018)年以前の調査では、質問文中の「運動やスポーツ」の注釈(※)の文言が異なるため、比率を直接比較することができないことから、参考として示す。

(3) 住んでいる地域について

問8 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,307]



- ・全体で見ると、「そう思う」(53.5%)と「ややそう思う」(17.4%)の2つを合わせた『定住意向』(70.9%)がほぼ7割と高くなっている。一方、「あまりそう思わない」(7.6%)と「そう思わない」(3.5%)の2つを合わせた『転出意向』(11.1%)が1割を超えている。
- ・性別で見ると、『定住意向』では〈男性〉(72.2%)が〈女性〉(69.2%)より3.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『定住意向』では〈男性70歳以上〉が83.6%と高くなっている。一方、『転出意向』では〈女性50歳代〉が18.8%となっている。

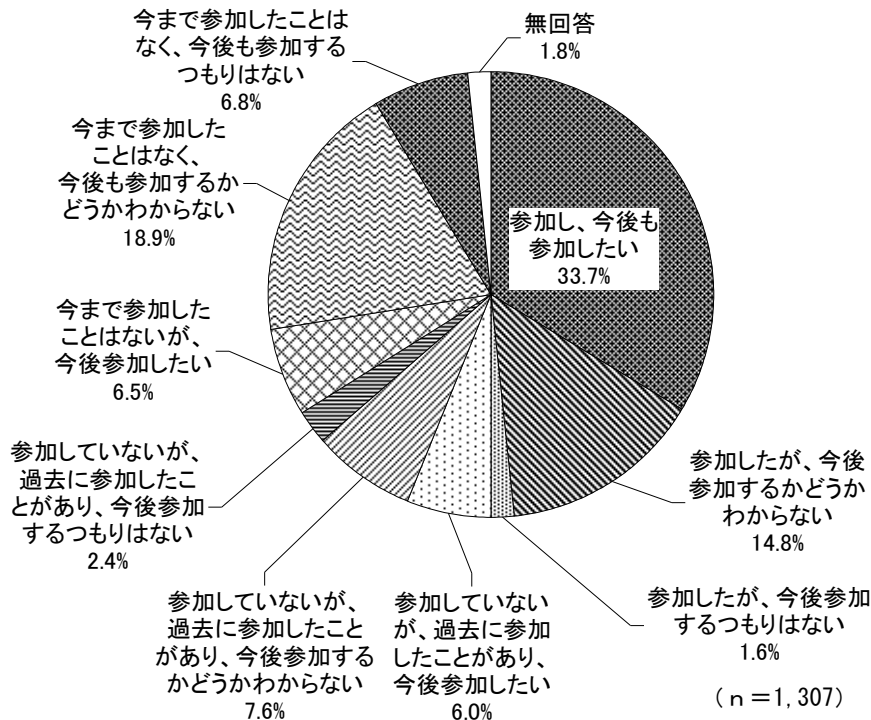


- ・過去の調査結果と比較すると、『定住意向』が令和元(2019)年より5.1ポイント減少している。一方、「どちらともいえない」が令和元(2019)年より5.4ポイント増加している。

(4) 社会貢献活動について

問9 あなたは、この1年間に社会貢献活動(※)に参加しましたか。また、今後参加したいと思いませんか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,307]

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO(非営利活動団体)活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。



・全体で見ると、「参加し、今後も参加したい」(33.7%)が3割を超えて最も高く、これと「参加したが、今後参加するかどうかわからない」(14.8%)、「参加したが、今後参加するつもりはない」(1.6%)の3つを合わせた『この1年間に参加経験あり』(50.1%)が5割となっている。

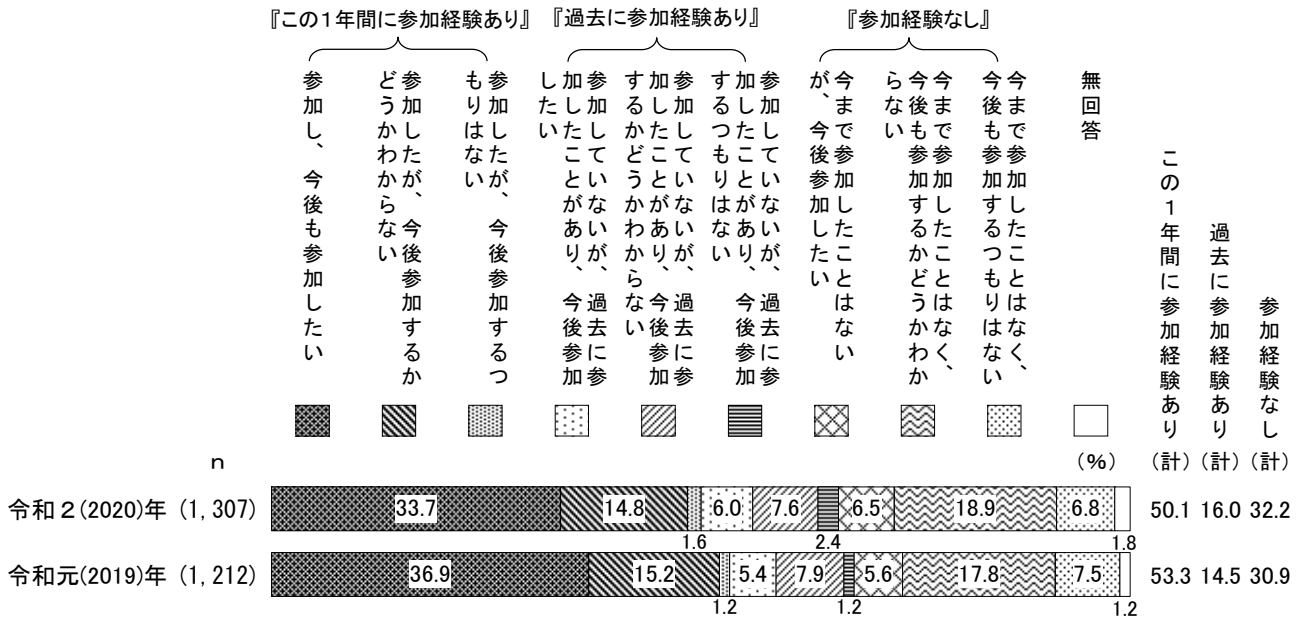
「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい」(6.0%)と「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない」(7.6%)、「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない」(2.4%)の3つを合わせた『過去に参加経験あり』(16.0%)は1割半ばとなっている。

「今まで参加したことはないが、今後参加したい」(6.5%)と「今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない」(18.9%)、「今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」(6.8%)の3つを合わせた『参加経験なし』(32.2%)は3割を超えている。

・性別で見ると、「参加したが、今後参加するかどうかわからない」では〈女性〉(16.2%)が〈男性〉(13.1%)より3.1ポイント高くなっている。

・性/年齢別で見ると、「参加し、今後も参加したい」では〈女性60~64歳〉が45.0%と高くなっている。『この1年間に参加経験あり』では〈女性60~64歳〉が61.7%と高くなっている。『過去に参加経験あり』では〈女性20歳代〉が28.3%と高くなっている。『参加経験なし』では〈男性20歳代〉が55.3%と高くなっている。

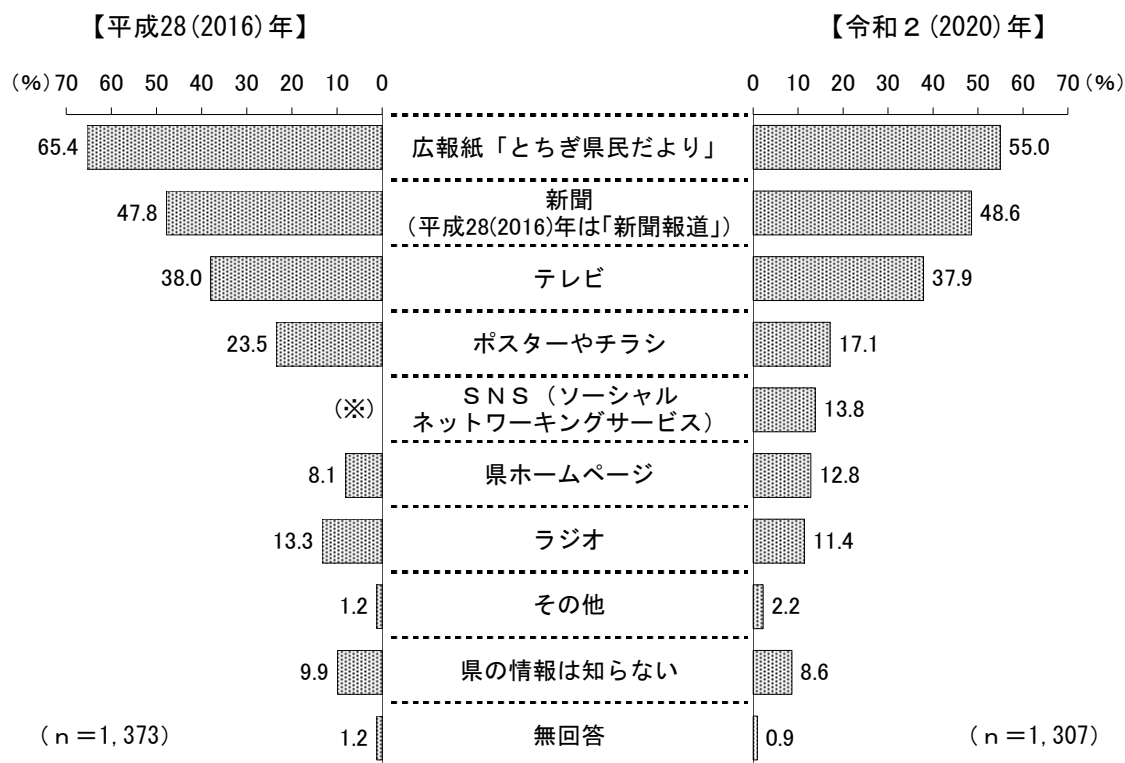
[過去の調査結果]



・ 令和元（2019）年の調査結果と比較すると、「参加し、今後も参加したい」が令和元（2019）年より3.2ポイント減少している。

(5) 県政情報の入手方法について

問10 あなたは、県の事業や催し、案内などの情報をどのような方法でお知りになりますか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1, 307]



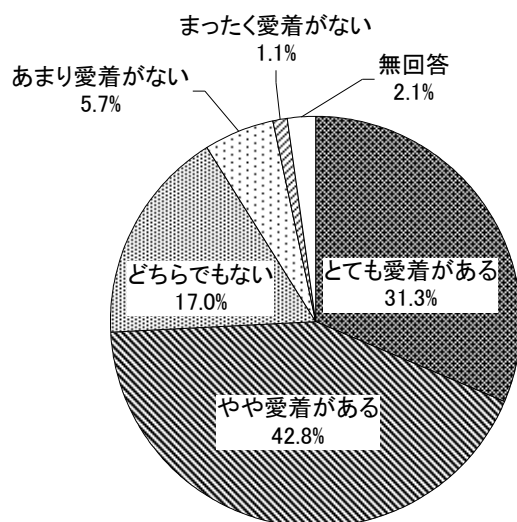
(※) 「SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)」は、今回調査で追加した選択肢である。

- ・全体で見ると、「広報紙『とちぎ県民だより』」(55.0%)が5割半ばで最も高く、次いで「新聞」(48.6%)、「テレビ」(37.9%)、「ポスターやチラシ」(17.1%)、「SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)」(13.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「ポスターやチラシ」では〈女性〉(20.1%)が〈男性〉(13.6%)より6.5ポイント高くなっている。「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈女性〉(57.2%)が〈男性〉(52.1%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈女性65～69歳〉が78.5%、〈男性70歳以上〉が74.7%と高くなっている。「新聞」では〈男性70歳以上〉が71.9%、〈女性70歳以上〉が67.5%と高くなっている。「テレビ」では〈女性70歳以上〉が52.7%、〈男性70歳以上〉が52.1%と高くなっている。「ポスターやチラシ」では〈女性20歳代〉が32.6%と高くなっている。「SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)」では〈女性20歳代〉が43.5%、〈女性30歳代〉が33.8%、〈男性20歳代〉が31.6%と高くなっている。
- ・平成28(2016)年の調査結果との比較は、一部の選択肢が変更・追加されているため参考にとどまるが、「県ホームページ」が4.7ポイント増加している。一方、「広報紙『とちぎ県民だより』」が10.4ポイント、「ポスターやチラシ」が6.4ポイント、それぞれ減少している。

4 栃木県への愛着と誇りについて

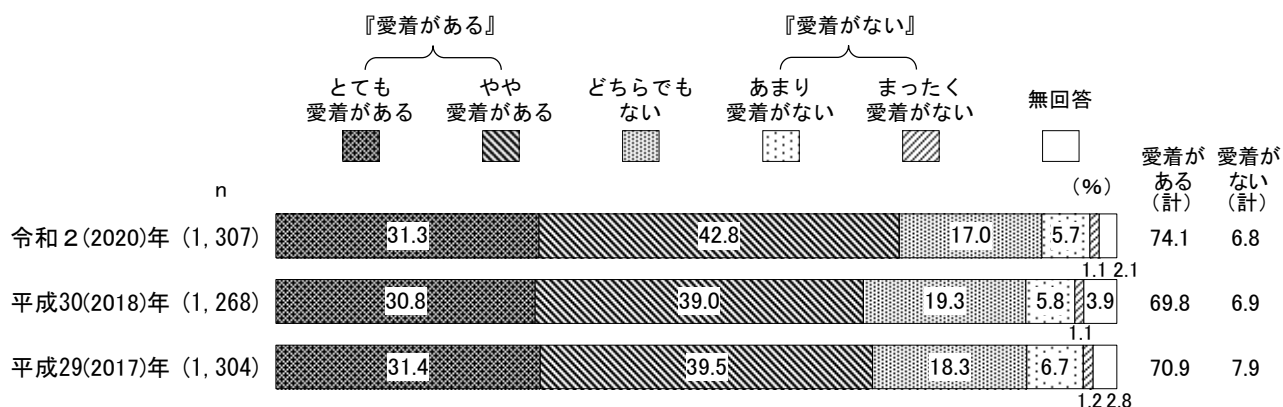
(1) 栃木県に対する愛着

問11 あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,307]



(n=1,307)

- ・全体で見ると、「ととも愛着がある」(31.3%)と「やや愛着がある」(42.8%)の2つを合わせた『愛着がある』(74.1%)が7割半ばと高くなっている。一方、「あまり愛着がない」(5.7%)と「まったく愛着がない」(1.1%)の2つを合わせた『愛着がない』(6.8%)が1割近くとなっている。また、「どちらでもない」(17.0%)が2割近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「ととも愛着がある」では〈男性70歳以上〉が40.4%、〈女性70歳以上〉が38.5%と高くなっている。『愛着がある』では〈女性60～64歳〉が85.0%と高くなっている。

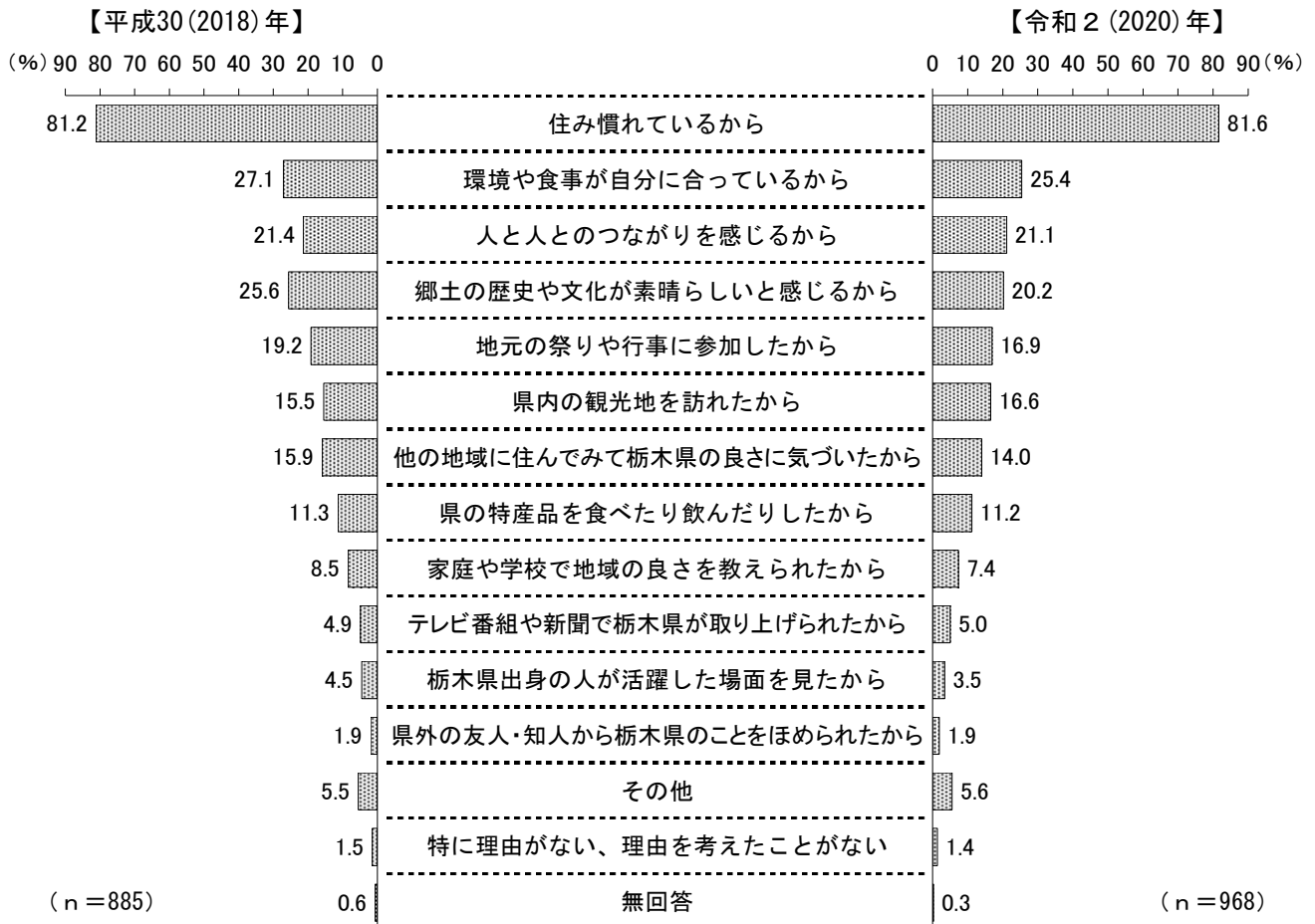


- ・過去の調査結果と比較すると、『愛着がある』が平成30(2018)年より4.3ポイント増加している。

(1-1) 栃木県に愛着を感じる理由

(問11で選択肢「とても愛着がある」、「やや愛着がある」を選んだ方のみお答えください)
問11-1 あなたが愛着を感じる理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

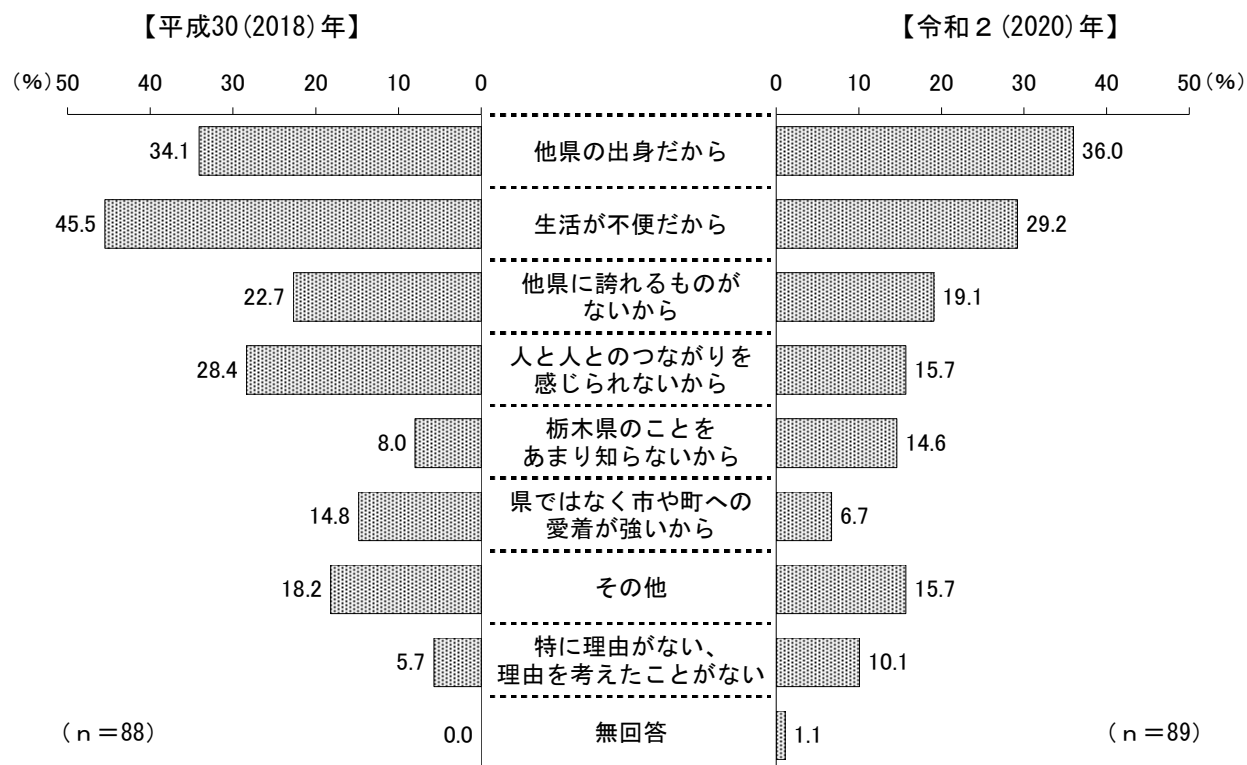
[n=968]



- 全体で見ると、「住み慣れているから」(81.6%)が8割を超えて最も高く、次いで「環境や食事が自分に合っているから」(25.4%)、「人と人とのつながりを感じるから」(21.1%)、「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」(20.2%)、「地元の祭りや行事に参加したから」(16.9%)の順となっている。
- 性別で見ると、「環境や食事が自分に合っているから」では〈女性〉(27.7%)が〈男性〉(22.3%)より5.4ポイント高くなっている。「人と人とのつながりを感じるから」では〈女性〉(23.3%)が〈男性〉(18.2%)より5.1ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「住み慣れているから」では〈女性65~69歳〉が92.9%と高くなっている。「環境や食事が自分に合っているから」では〈女性65~69歳〉が35.7%と高くなっている。「人と人とのつながりを感じるから」では〈女性70歳以上〉が40.5%、〈女性60~64歳〉が31.4%と高くなっている。「県内の観光地を訪れたから」では〈女性60~64歳〉が29.4%と高くなっている。「他の地域に住んでみて栃木県の良さに気づいたから」では〈女性20歳代〉が28.1%と高くなっている。
- 平成30(2018)年の調査結果と比較すると、「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」が5.4ポイント減少している。

(1-2) 栃木県に愛着を感じない理由

(問11で選択肢「あまり愛着がない」、「まったく愛着がない」を選んだ方のみお答えください)
 問11-2 あなたが愛着を感じない理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。
 [n=89]



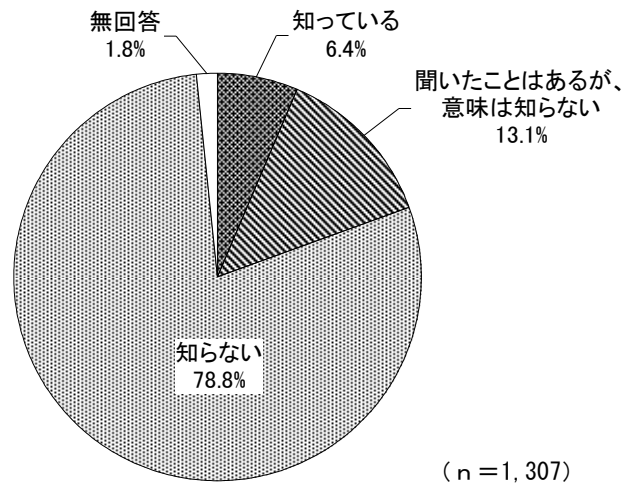
- ・全体で見ると、「他県の出身だから」(36.0%)が3割半ばで最も高く、次いで「生活が不便だから」(29.2%)、「他県に誇れるものがないから」(19.1%)、「人と人とのつながりを感じられないから」(15.7%)、「栃木県のことをあまり知らないから」(14.6%)の順となっている。
- ・平成30(2018)年の調査結果と比較すると、「栃木県のことをあまり知らないから」が6.6ポイント増加している。一方、「生活が不便だから」が16.3ポイント、「人と人とのつながりを感じられないから」が12.7ポイント、「県ではなく市や町への愛着が強いから」が8.1ポイント、それぞれ減少している。

(2) 「VERY GOOD LOCAL とちぎ」の認知度

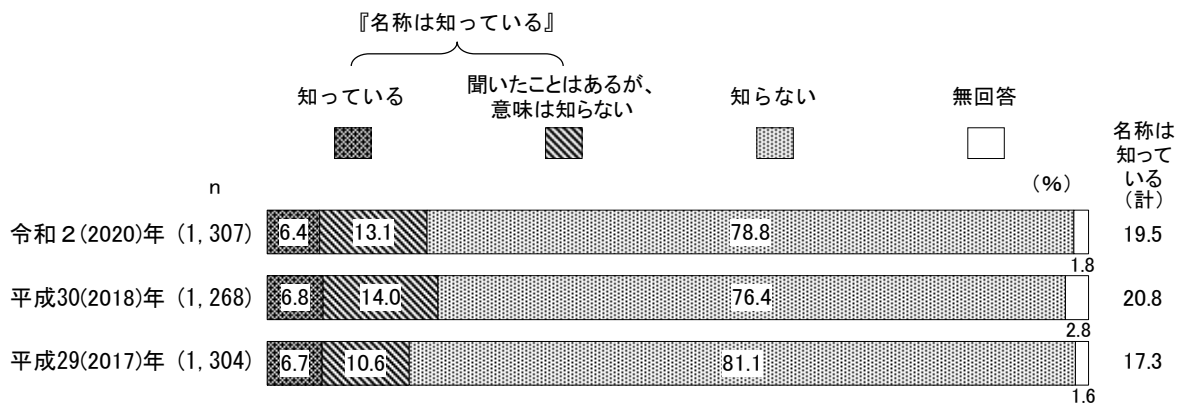
問12 あなたは、「VERY GOOD LOCAL とちぎ(ベリー グッド ローカル とちぎ)」
(※) というキャッチフレーズを知っていますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,307]

※ 「VERY GOOD LOCAL とちぎ」とは、充実した都市機能とともに、豊かな自然、優れた歴史・文化、人と人とのつながりなど、「ローカル（地方）」の良さを兼ね備えた栃木県の魅力・実力を表現した、とちぎブランド推進のキャッチフレーズです。



- ・全体で見ると、「知っている」(6.4%)と「聞いたことはあるが、意味は知らない」(13.1%)の2つを合わせた『名称は知っている』(19.5%)が2割となっている。一方、「知らない」(78.8%)が8割近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「知っている」では〈女性20歳代〉が15.2%となっている。『名称は知っている』では〈女性70歳以上〉が33.2%と高くなっている。「知らない」では〈男性30歳代〉が87.7%、〈女性40歳代〉が86.5%と高くなっている。

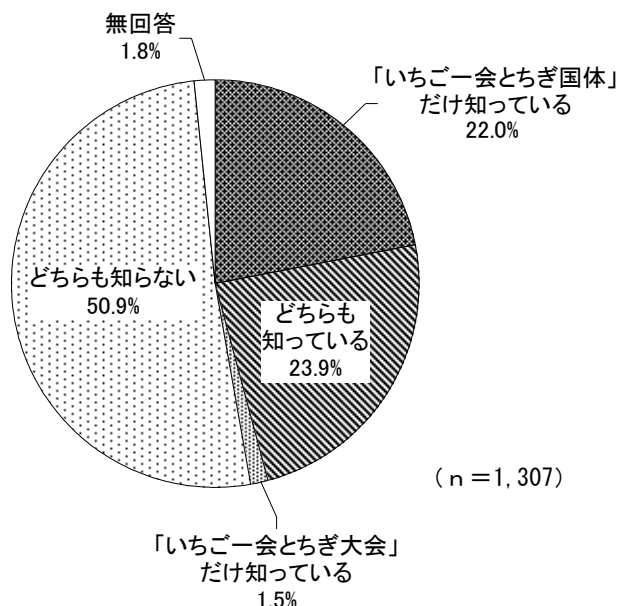


- ・過去の調査結果と比較すると、平成30(2018)年と大きな傾向の違いはみられない。

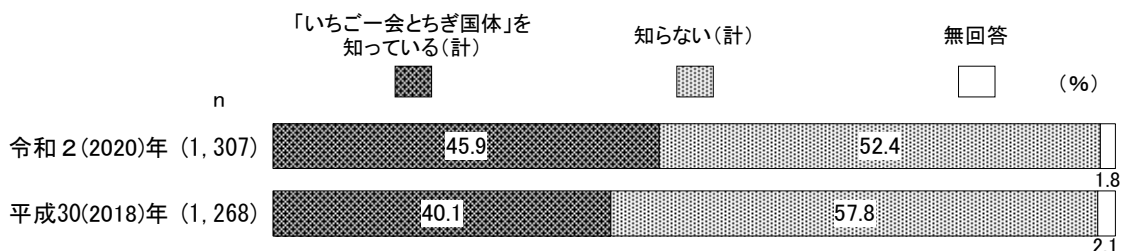
5 第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」及び第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」の開催について

(1) 「いちご一会とちぎ国体」「いちご一会とちぎ大会」の認知度

問13 あなたは、2022年に「いちご一会とちぎ国体」及び「いちご一会とちぎ大会」が栃木県で開催されることを知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,307]



- ・全体で見ると、「どちらも知っている」(23.9%)と『「いちご一会とちぎ国体」だけ知っている』(22.0%)の2つを合わせた『「いちご一会とちぎ国体」を知っている』(45.9%)が4割半ば、「どちらも知っている」(23.9%)と『「いちご一会とちぎ大会」だけ知っている』(1.5%)の2つを合わせた『「いちご一会とちぎ大会」を知っている』(25.4%)が2割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『「いちご一会とちぎ国体」を知っている』では〈男性〉(50.6%)が〈女性〉(41.7%)より8.9ポイント高くなっている。『「いちご一会とちぎ大会」を知っている』では〈男性〉(27.6%)が〈女性〉(22.9%)より4.7ポイント高くなっている。「どちらも知らない」では〈女性〉(54.6%)が〈男性〉(46.7%)より7.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『「いちご一会とちぎ国体」を知っている』では〈男性50歳代〉が55.8%、〈男性70歳以上〉が54.8%と高くなっている。『「いちご一会とちぎ大会」を知っている』では〈男性70歳以上〉が34.3%と高くなっている。「どちらも知らない」では〈女性30歳代〉が74.0%、〈女性20歳代〉が73.9%と高くなっている。

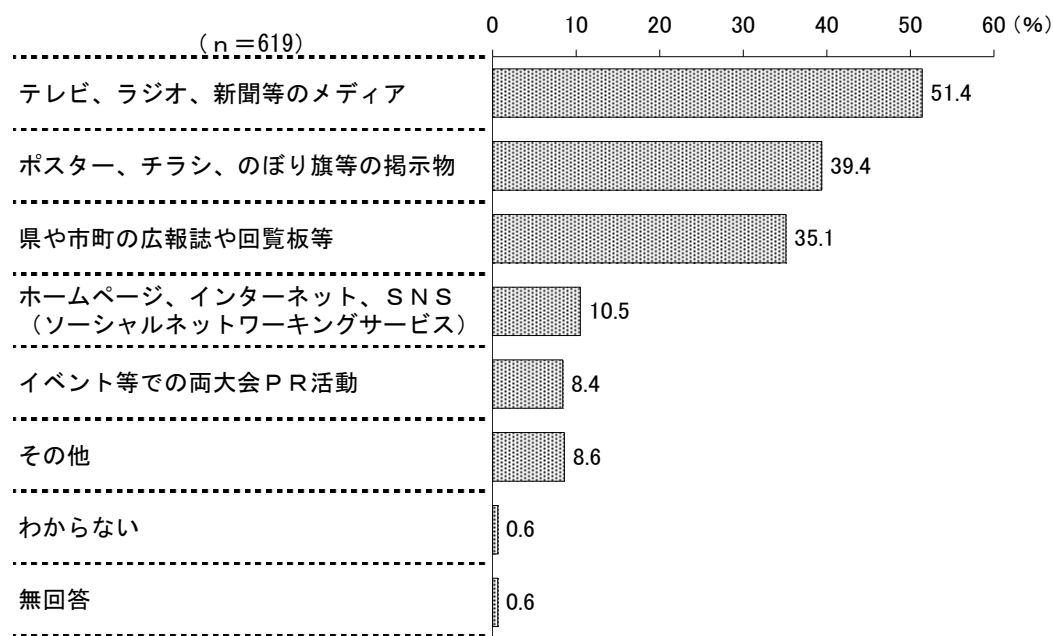


- ・平成30(2018)年調査では、「あなたは、2022年に、第77回国民体育大会を栃木県で開催することを知っていますか。次の中から1つ選んでください。」と質問していた。その結果と比較すると、『「いちご一会とちぎ国体」を知っている』は5.8ポイント増加している。

(1-1) 両大会が栃木県で開催されることを知った方法

(問13で選択肢「どちらも知っている」、「『いちご一会とちぎ国体』だけ知っている」、「『いちご一会とちぎ大会』だけ知っている」を選んだ方のみお答えください)

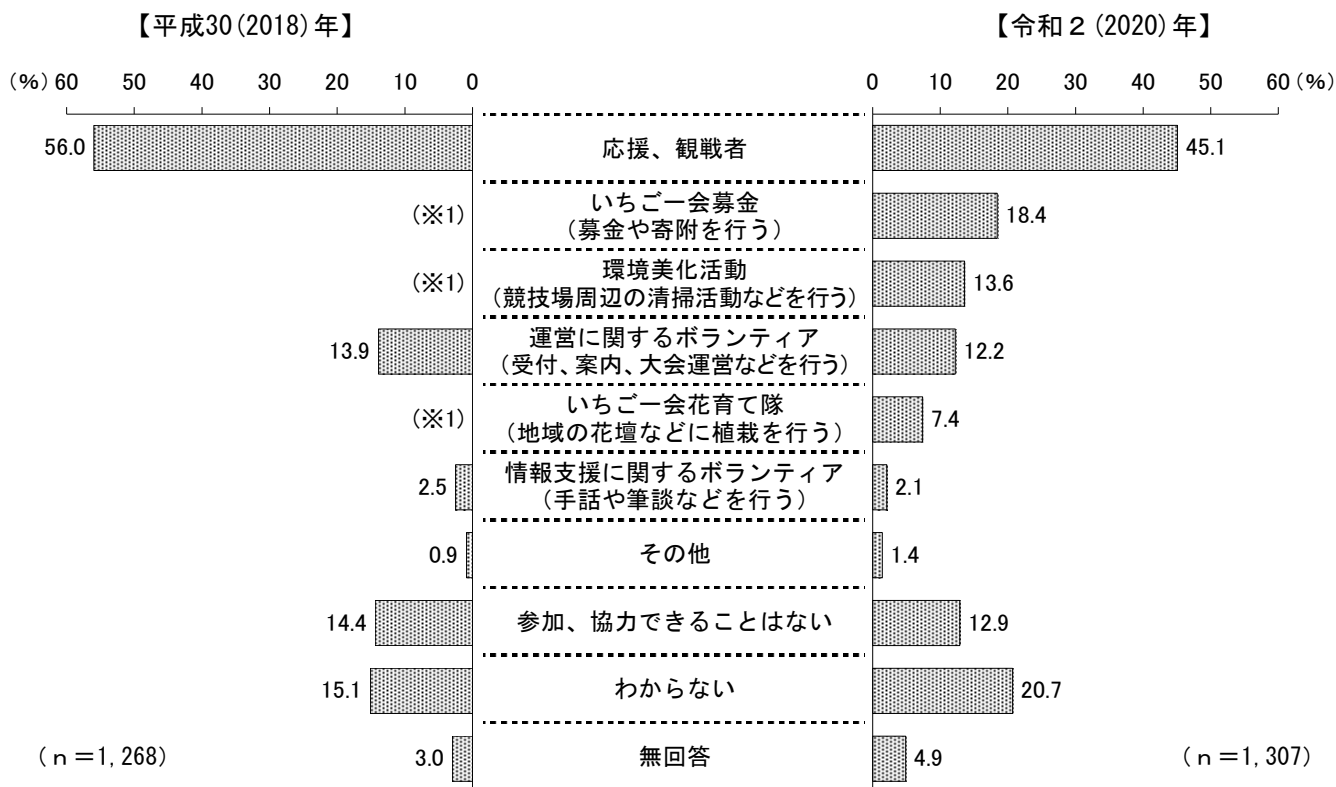
問13-1 あなたは、両大会が栃木県で開催されることを、どのような広報手段で知りましたか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=619]



- ・全体で見ると、「テレビ、ラジオ、新聞等のメディア」(51.4%)が5割を超えて最も高く、次いで「ポスター、チラシ、のぼり旗等の掲示物」(39.4%)、「県や市町の広報誌や回覧板等」(35.1%)、「ホームページ、インターネット、SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)」(10.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「県や市町の広報誌や回覧板等」では〈女性〉(38.9%)が〈男性〉(31.5%)より7.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「テレビ、ラジオ、新聞等のメディア」では〈女性60~64歳〉が77.4%、〈男性70歳以上〉が71.1%と高くなっている。「ポスター、チラシ、のぼり旗等の掲示物」では〈男性40歳代〉が61.5%と高くなっている。「県や市町の広報誌や回覧板等」では〈女性65~69歳〉が55.8%、〈女性70歳以上〉が52.1%と高くなっている。

(2) 両大会に参加・協力できる方法

問14 両大会を盛り上げていくためには、選手や競技役員以外にも1人でも多くの方のご参加、ご協力が必要です。あなたは、選手や競技役員以外でどのような形でなら参加、協力できると思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,307]



(※1) 「いちご一会募金(募金や寄附を行う)」、「いちご一会花育て隊(地域の花壇などに植栽を行う)」、「環境美化活動(競技場周辺の清掃活動などを行う)」の3つは、今回調査で追加した選択肢である。

(※2) 平成30(2018)年調査で選択肢に加えていた「県民運動(清掃活動や植栽活動などを行う)」(17.9%)と「広報に関するボランティア(国体のPR活動などを行う)」(8.3%)は、今回調査では選択肢に加えていない。

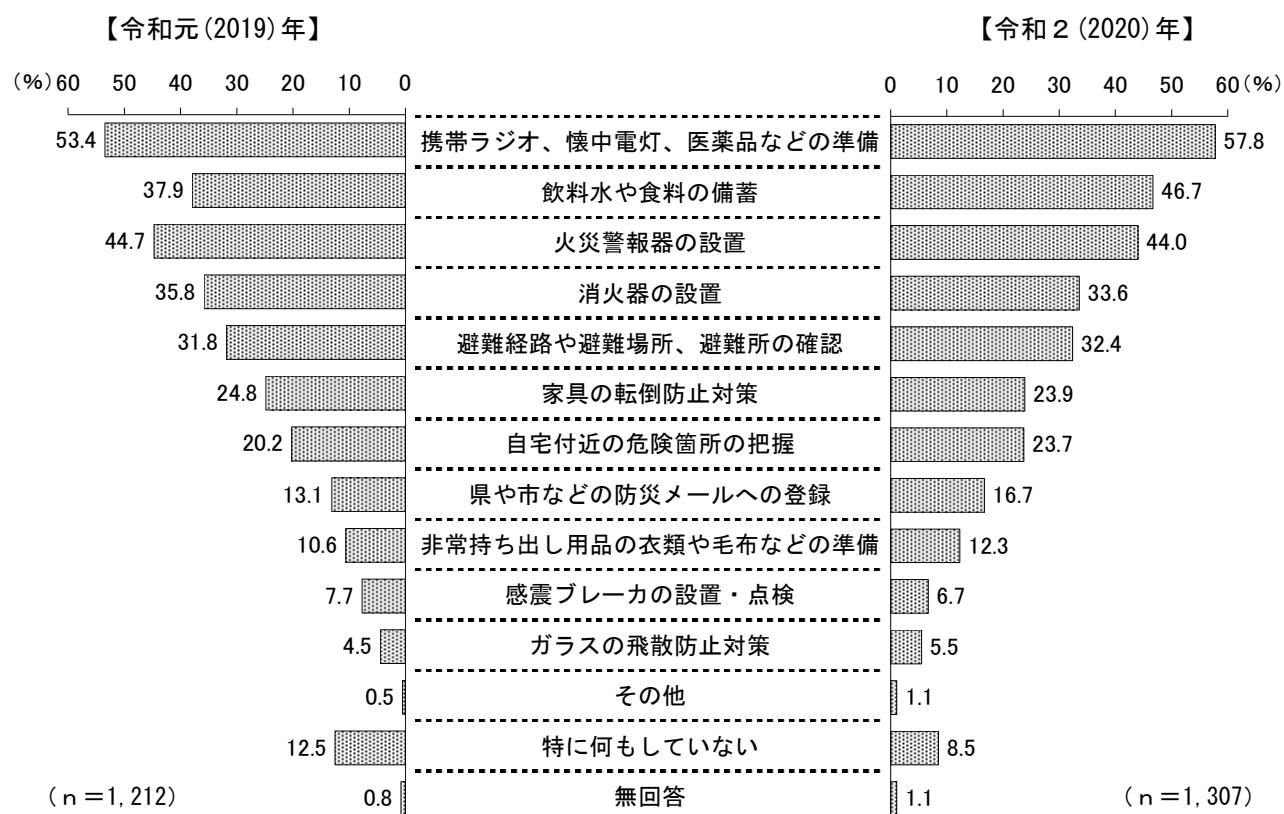
- ・全体で見ると、「応援、観戦者」(45.1%)が4割半ばで最も高く、次いで「いちご一会募金(募金や寄附を行う)」(18.4%)、「環境美化活動(競技場周辺の清掃活動などを行う)」(13.6%)、「運営に関するボランティア(受付、案内、大会運営などを行う)」(12.2%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「応援、観戦者」では〈男性〉(50.3%)が〈女性〉(41.6%)より8.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「応援、観戦者」では〈男性30歳代〉が59.6%、〈男性40歳代〉が55.0%と高くなっている。「いちご一会募金(募金や寄附を行う)」では〈女性40歳代〉が29.7%と高くなっている。「運営に関するボランティア(受付、案内、大会運営などを行う)」では〈女性20歳代〉が28.3%と高くなっている。「いちご一会花育て隊(地域の花壇などに植栽を行う)」では〈女性65~69歳〉が17.7%となっている。
- ・平成30(2018)年の調査結果との比較は、選択肢を今回調査で大幅に見直したため、比率を直接比較することができないことから、参考として示す。

6 地域防災について

(1) 災害に対する備え

問15 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,307]

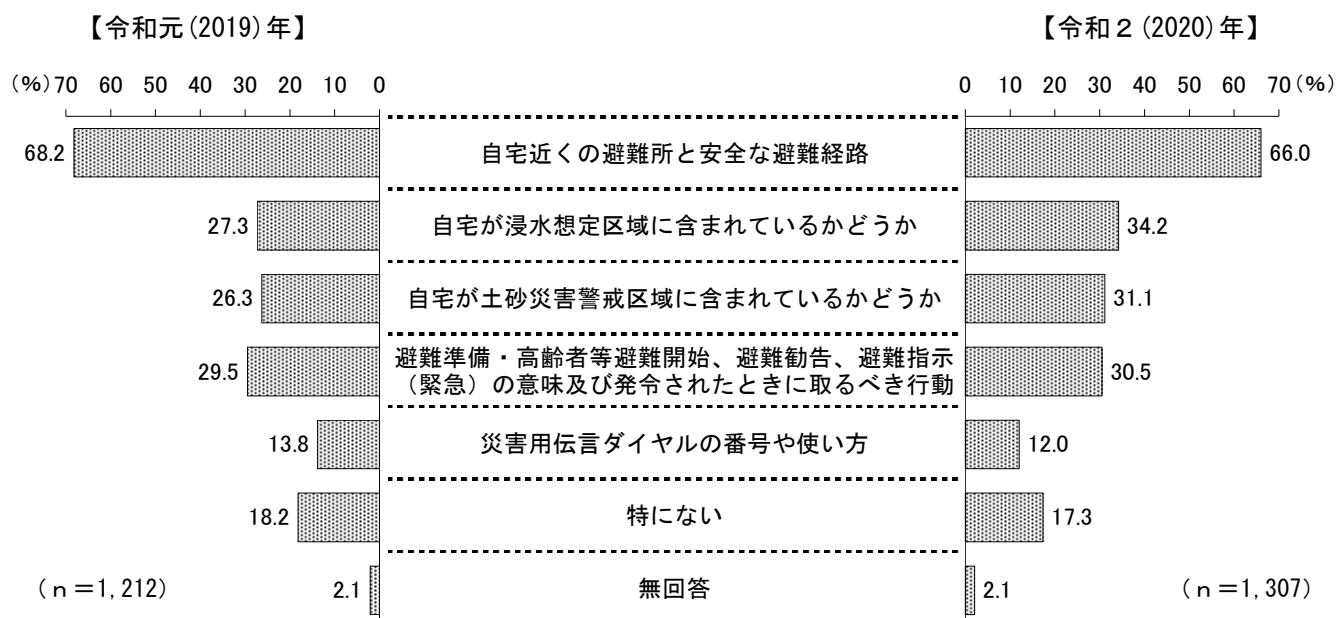
※ 感震ブレーカとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に、配線用ブレーカ又は漏電ブレーカなどを遮断する器具をいいます。



- ・全体で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」(57.8%)が6割近くで最も高く、次いで「飲料水や食料の備蓄」(46.7%)、「火災警報器の設置」(44.0%)、「消火器の設置」(33.6%)、「避難経路や避難場所、避難所の確認」(32.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性〉(35.0%)が〈男性〉(29.3%)より5.7ポイント高くなっている。「消火器の設置」では〈男性〉(36.3%)が〈女性〉(31.2%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈女性60～64歳〉が70.0%と高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈男性30歳代〉が57.9%と高くなっている。「消火器の設置」では〈男性65～69歳〉が60.6%、〈男性70歳以上〉が53.4%、〈女性60～64歳〉が46.7%と高くなっている。「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性65～69歳〉が43.0%と高くなっている。「自宅付近の危険箇所の把握」では〈男性70歳以上〉が32.9%と高くなっている。「県や市などの防災メールへの登録」では〈女性40歳代〉が31.5%と高くなっている。
- ・令和元(2019)年の調査結果と比較すると、「飲料水や食料の備蓄」が8.8ポイント、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」が4.4ポイント、それぞれ増加している。

(2) 災害の際に必要な情報について知っていること

問16 あなたは、災害の際に必要な情報について、どのようなことを知っていますか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1,307]

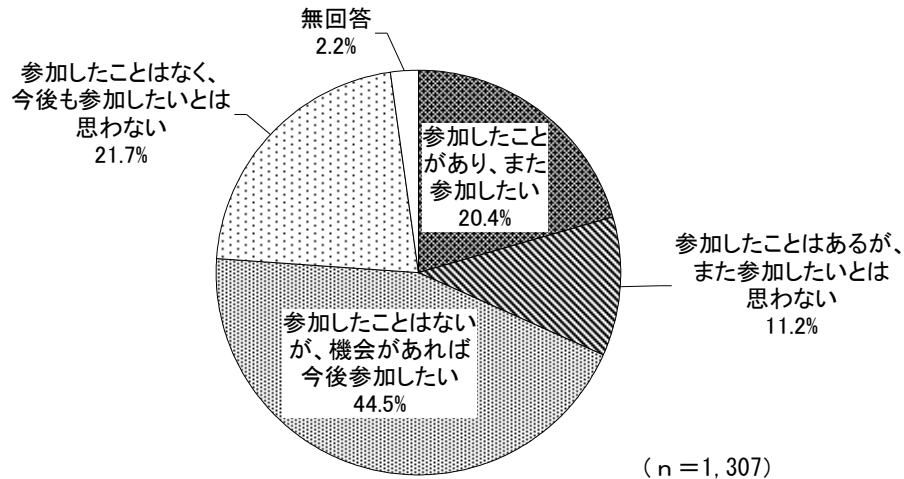


- ・全体で見ると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」(66.0%)が6割半ばで最も高く、次いで「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」(34.2%)、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」(31.1%)、「避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)の意味及び発令されたときに取るべき行動」(30.5%)、「災害用伝言ダイヤルの番号や使い方」(12.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)の意味及び発令されたときに取るべき行動」では〈女性〉(32.1%)が〈男性〉(29.0%)より3.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈女性40歳代〉が47.7%、〈男性40歳代〉が45.0%と高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈女性40歳代〉が40.5%と高くなっている。「避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)の意味及び発令されたときに取るべき行動」では〈女性65~69歳〉が45.6%と高くなっている。
- ・令和元(2019)年の調査結果と比較すると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」が6.9ポイント、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」が4.8ポイント、それぞれ増加している。

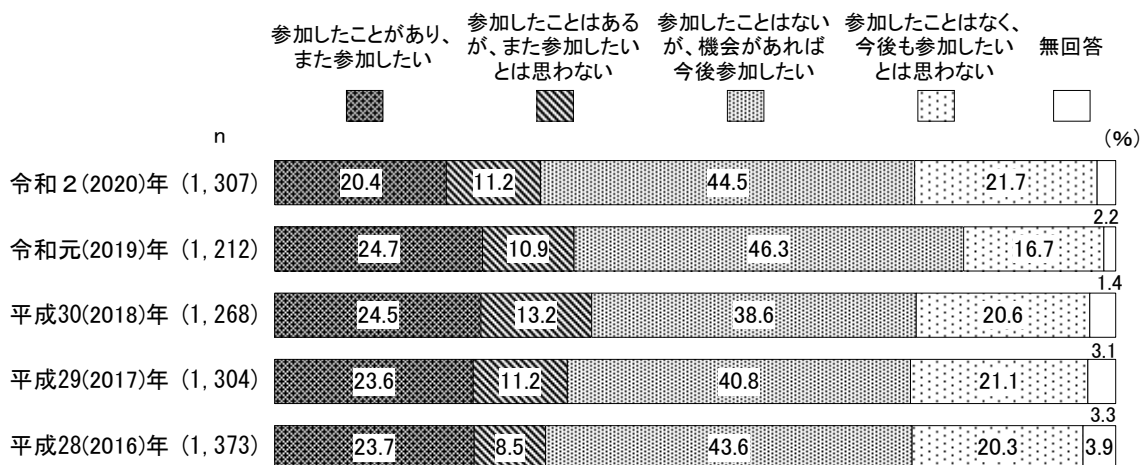
(3) 防災訓練の参加状況

問17 あなたは、県や市町、自治会、企業などが行っている防災訓練に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,307]



- ・全体で見ると、「参加したことがあり、また参加したい」(20.4%)が2割となっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」(44.5%)は4割半ばで、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」(21.7%)は2割を超えている。
- ・性別で見ると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性〉(48.3%)が〈男性〉(40.7%)より7.6ポイント高くなっている。「参加したことはあるが、また参加したいとは思わない」では〈男性〉(14.1%)が〈女性〉(8.8%)より5.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈女性60～64歳〉が31.7%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性30歳代〉が67.5%と高くなっている。「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」では〈男性20歳代〉が34.2%、〈男性40歳代〉が31.0%と高くなっている。



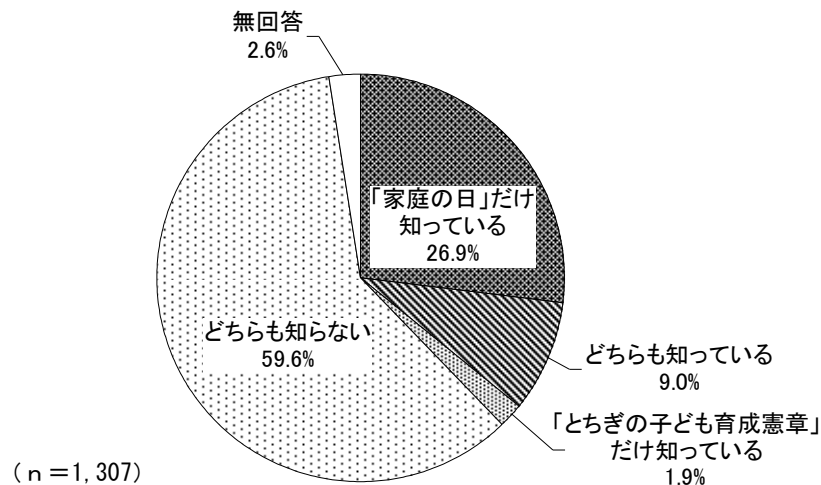
- ・過去の調査結果と比較すると、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が令和元(2019)年より5.0ポイント増加している。一方、「参加したことがあり、また参加したい」が令和元(2019)年より4.3ポイント減少している。

7 青少年の健全育成について

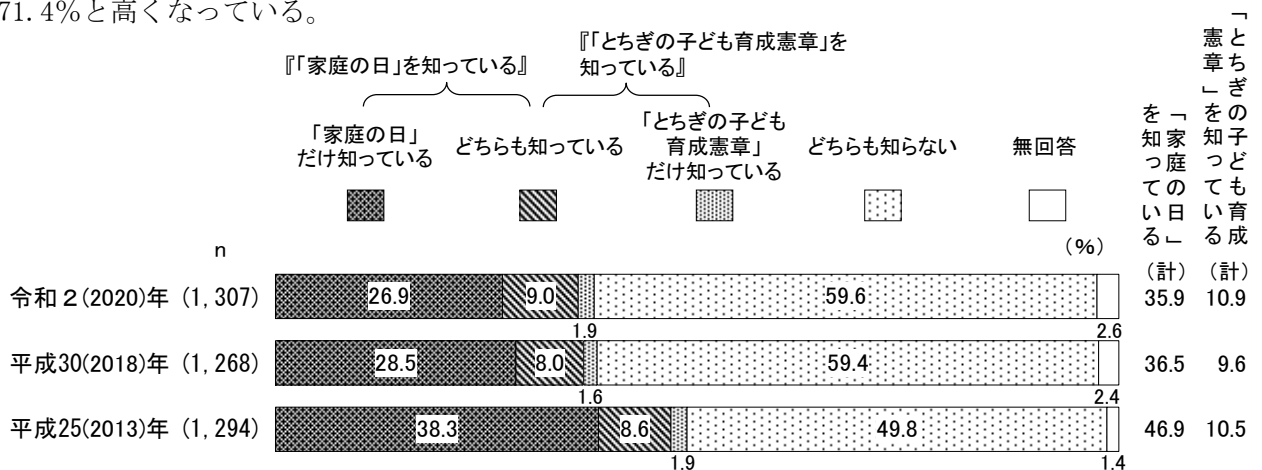
(1) 「家庭の日」「とちぎの子ども育成憲章」の認知度

問18 あなたは、「家庭の日(※1)」（毎月第3日曜日）及び「とちぎの子ども育成憲章(※2)」を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,307]

※1 「家庭の日」とは、家庭は、子どもが基本的な生活習慣や規範意識の基礎を身につけ、人格を形成する上で大きな役割を担う大切な場であることから、家族のふれあいつくりのきっかけとするために、県が定めたものです。
 ※2 「とちぎの子ども育成憲章」とは、子どもたちが夢や希望を持ち、心豊かでたくましく成長するために親や周りの大人がより積極的に子どもの成長に関わるための“基本理念”や“行動指針”として平成22（2010）年2月に県が制定したものです。



- 全体で見ると、「どちらも知っている」(9.0%)と『「家庭の日」だけ知っている』(26.9%)の2つを合わせた『「家庭の日」を知っている』(35.9%)が3割半ば、「どちらも知っている」(9.0%)と『「とちぎの子ども育成憲章」だけ知っている』(1.9%)の2つを合わせた『「とちぎの子ども育成憲章」を知っている』(10.9%)がほぼ1割となっている。
- 性別で見ると、『「家庭の日」を知っている』では〈女性〉(41.3%)が〈男性〉(29.8%)より11.5ポイント高くなっている。「どちらも知らない」では〈男性〉(66.3%)が〈女性〉(53.6%)より12.7ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、『「家庭の日」を知っている』では〈女性40歳代〉が54.0%、〈女性65～69歳〉が51.9%、〈女性50歳代〉が45.8%と高くなっている。「どちらも知らない」では〈男性20歳代〉が78.9%、〈女性20歳代〉が78.3%、〈男性30歳代〉が73.7%、〈男性65～69歳〉が71.8%、〈女性30歳代〉が71.4%と高くなっている。

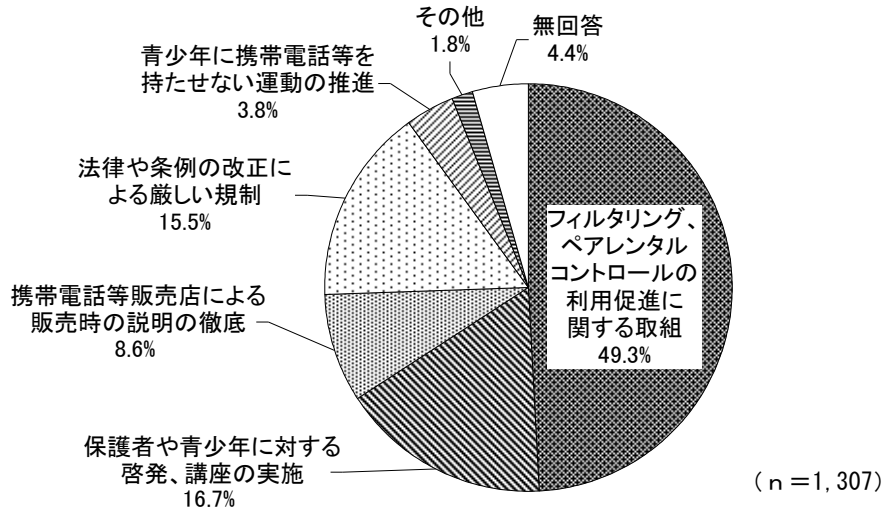


- 過去の調査結果と比較すると、平成30（2018）年調査と大きな傾向の違いはみられない。

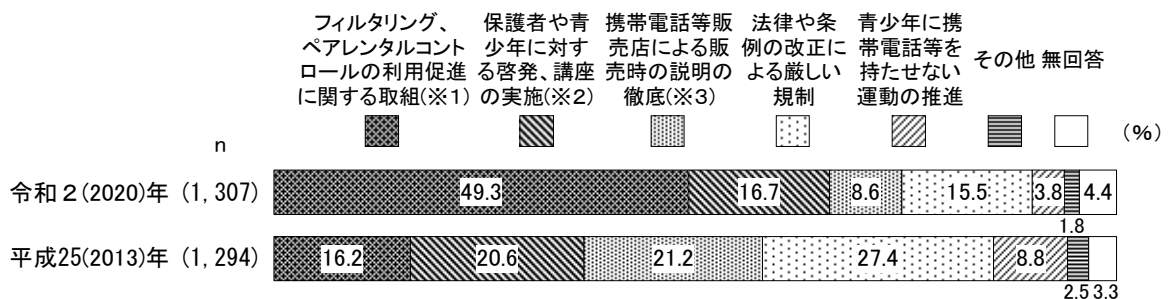
(2) 青少年が携帯電話(スマートフォン)を介したトラブルに巻き込まれないための取組

問19 あなたは、青少年(18歳未満)が携帯電話(スマートフォン)を介したトラブルに巻き込まれないようにするため、特にどのような取組が必要であると思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,307]

※1 フィルタリングとは、有害情報などが含まれる特定のサイトへのアクセスを制限するサービスのことをいいます。
 ※2 ペアレンタルコントロールとは、保護者が子どものスマートフォンなどの利用を制限する設定を行うことをいいます。



- 全体で見ると、「フィルタリング、ペアレンタルコントロールの利用促進に関する取組」(49.3%)がほぼ5割で最も高く、次いで「保護者や青少年に対する啓発、講座の実施」(16.7%)、「法律や条例の改正による厳しい規制」(15.5%)の順となっている。
- 性別で見ると、「保護者や青少年に対する啓発、講座の実施」では〈男性〉(21.3%)が〈女性〉(13.0%)より8.3ポイント高くなっている。「フィルタリング、ペアレンタルコントロールの利用促進に関する取組」では〈女性〉(52.9%)が〈男性〉(45.2%)より7.7ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「フィルタリング、ペアレンタルコントロールの利用促進に関する取組」では〈女性30歳代〉が71.4%、〈女性40歳代〉が61.3%と高くなっている。「保護者や青少年に対する啓発、講座の実施」では〈男性60~64歳〉が31.1%、〈男性20歳代〉が28.9%と高くなっている。



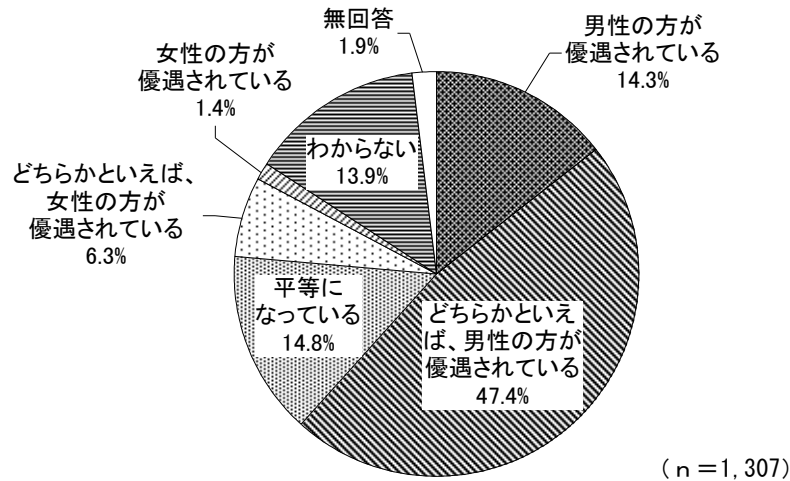
(※1) 「フィルタリング、ペアレンタルコントロールの利用促進に関する取組」は、平成25(2013)年調査では「フィルタリング利用促進に関する取組」としていた。
 (※2) 「保護者や青少年に対する啓発、講座の実施」は、平成25(2013)年調査では「保護者や青少年に対する啓発」としていた。
 (※3) 「携帯電話等販売店による販売時の説明の徹底」は、平成25(2013)年調査では「携帯電話販売事業者等による販売時の説明の徹底」としていた。

- 平成25(2013)年の調査結果との比較は、選択肢の文言の変更があるため参考にとどまるが、「フィルタリング、ペアレンタルコントロールの利用促進に関する取組」が33.1ポイント増加している。

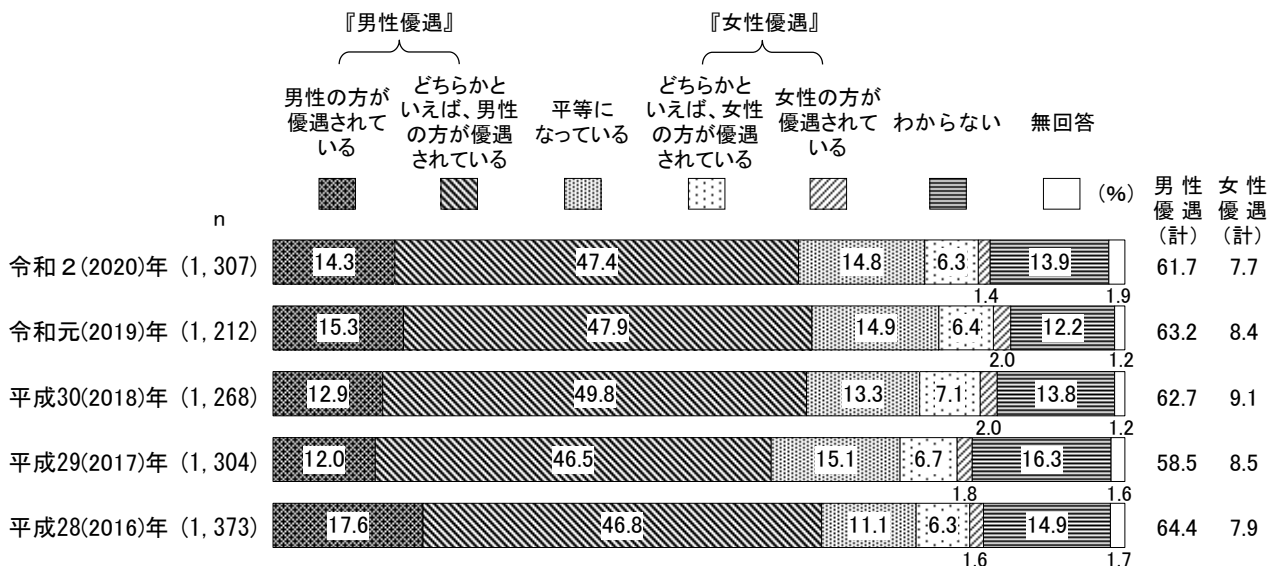
8 男女平等意識について

(1) 社会全体の中での男女の地位の平等感

問20 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,307]



- 全体で見ると、「男性の方が優遇されている」(14.3%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(47.4%)の2つを合わせた『男性優遇』(61.7%)が6割を超えて高くなっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(6.3%)と「女性の方が優遇されている」(1.4%)の2つを合わせた『女性優遇』(7.7%)が1割近くとなっている。また、「平等になっている」(14.8%)が1割半ばとなっている。
- 性別で見ると、『男性優遇』では〈女性〉(68.5%)が〈男性〉(54.1%)より14.4ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(13.2%)が〈女性〉(2.9%)より10.3ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、『男性優遇』では〈女性60~64歳〉が80.0%、〈女性50歳代〉が76.0%、〈女性30歳代〉が75.3%、〈女性65~69歳〉が74.7%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性30歳代〉が22.8%、〈男性20歳代〉が21.1%と高くなっている。

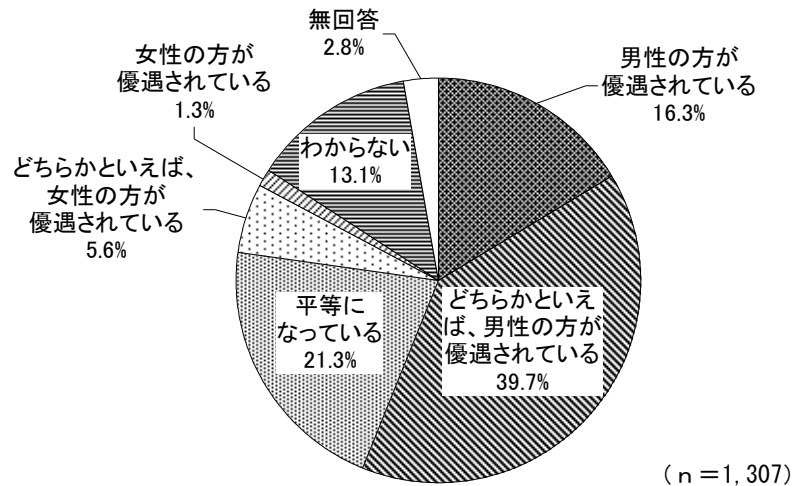


- 過去の調査結果と比較すると、令和元(2019)年と大きな傾向の違いはみられない。

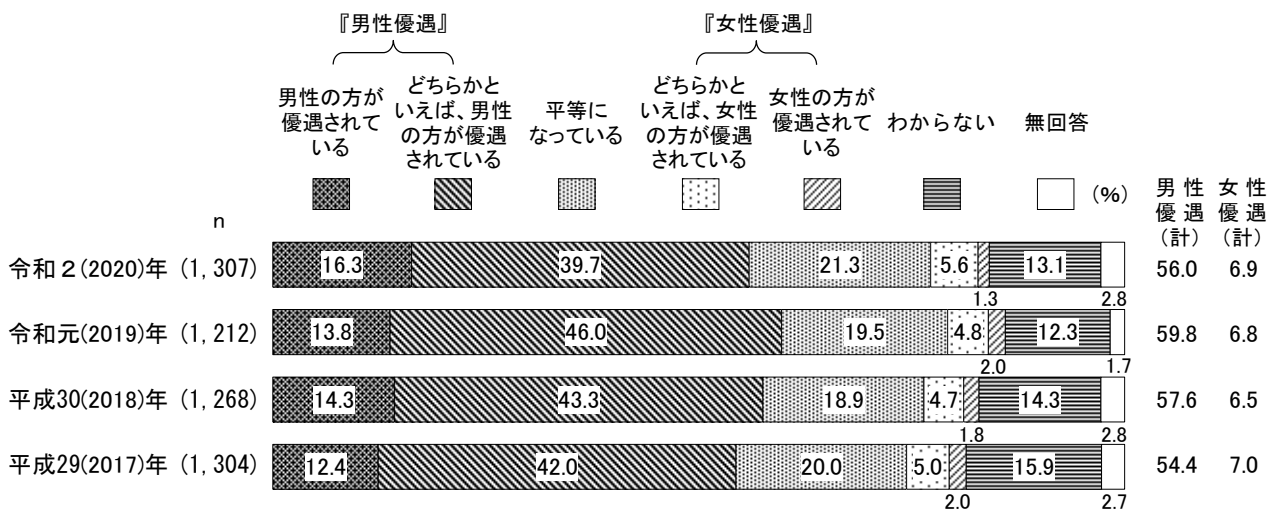
(2) 働く場での男女の地位の平等感

問21 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。(現在働いていない方も、イメージでお答えください。)

[n = 1,307]



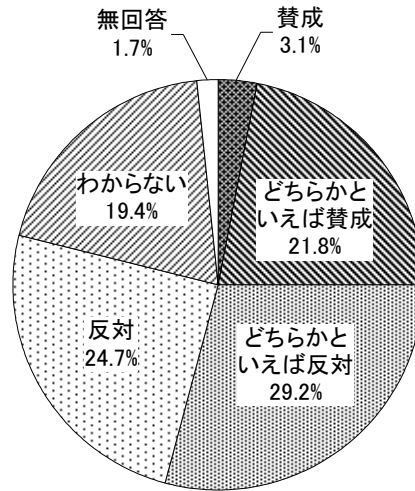
- 全体で見ると、「男性の方が優遇されている」(16.3%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(39.7%)の2つを合わせた『男性優遇』(56.0%)が5割半ばと高くなっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(5.6%)と「女性の方が優遇されている」(1.3%)の2つを合わせた『女性優遇』(6.9%)が1割近くとなっている。また、「平等になっている」(21.3%)が2割を超えている。
- 性別で見ると、『男性優遇』では〈女性〉(59.4%)が〈男性〉(52.3%)より7.1ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(10.6%)が〈女性〉(3.6%)より7.0ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、『男性優遇』では〈女性65~69歳〉が68.3%、〈女性60~64歳〉が66.6%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性50歳代〉が17.3%となっている。



- 過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が令和元(2019)年より3.8ポイント減少している。

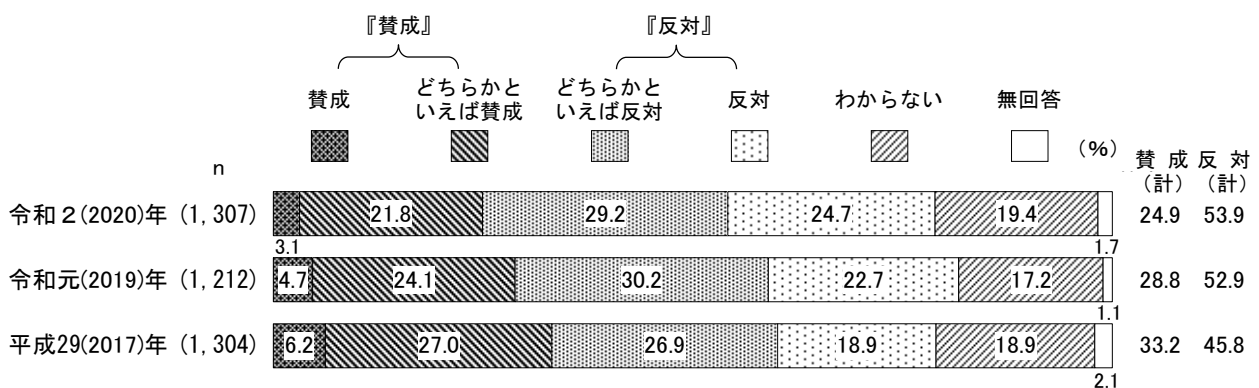
(3) 固定的な性別役割分担意識

問22 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように
 思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,307]



(n=1,307)

- ・全体で見ると、「賛成」(3.1%)と「どちらかといえば賛成」(21.8%)の2つを合わせた『賛成』(24.9%)が2割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば反対」(29.2%)と「反対」(24.7%)の2つを合わせた『反対』(53.9%)が5割を超えている。
- ・性別で見ると、『賛成』では〈男性〉(27.7%)が〈女性〉(22.7%)より5.0ポイント高くなっている。一方、『反対』では〈女性〉(58.8%)が〈男性〉(48.7%)より10.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『賛成』では〈女性70歳以上〉が40.2%、〈男性70歳以上〉が34.9%と高くなっている。一方、『反対』では〈女性30歳代〉が70.2%、〈女性60～64歳〉が66.6%、〈女性50歳代〉が65.4%と高くなっている。

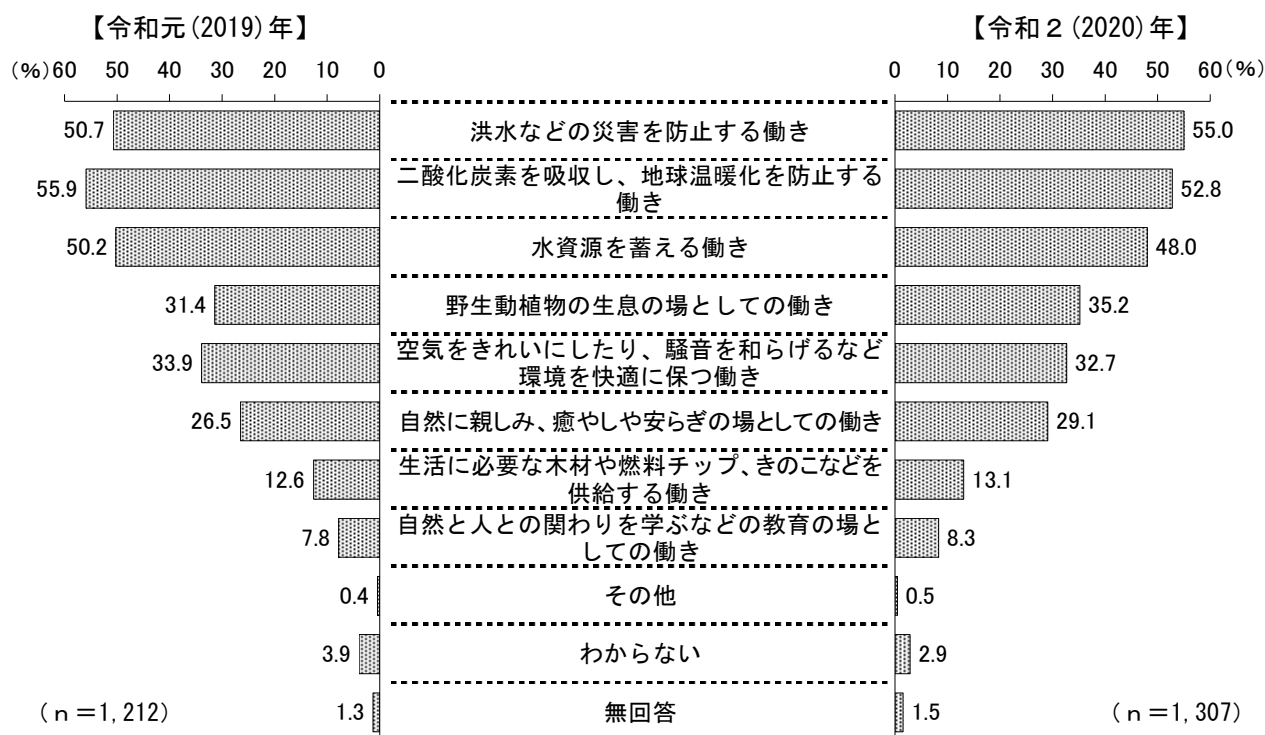


- ・過去の調査結果と比較すると、『賛成』が令和元(2019)年より3.9ポイント減少している。

9 とちぎの元気な森づくり県民税について

(1) 重要と考える森林の働き

問23 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,307]

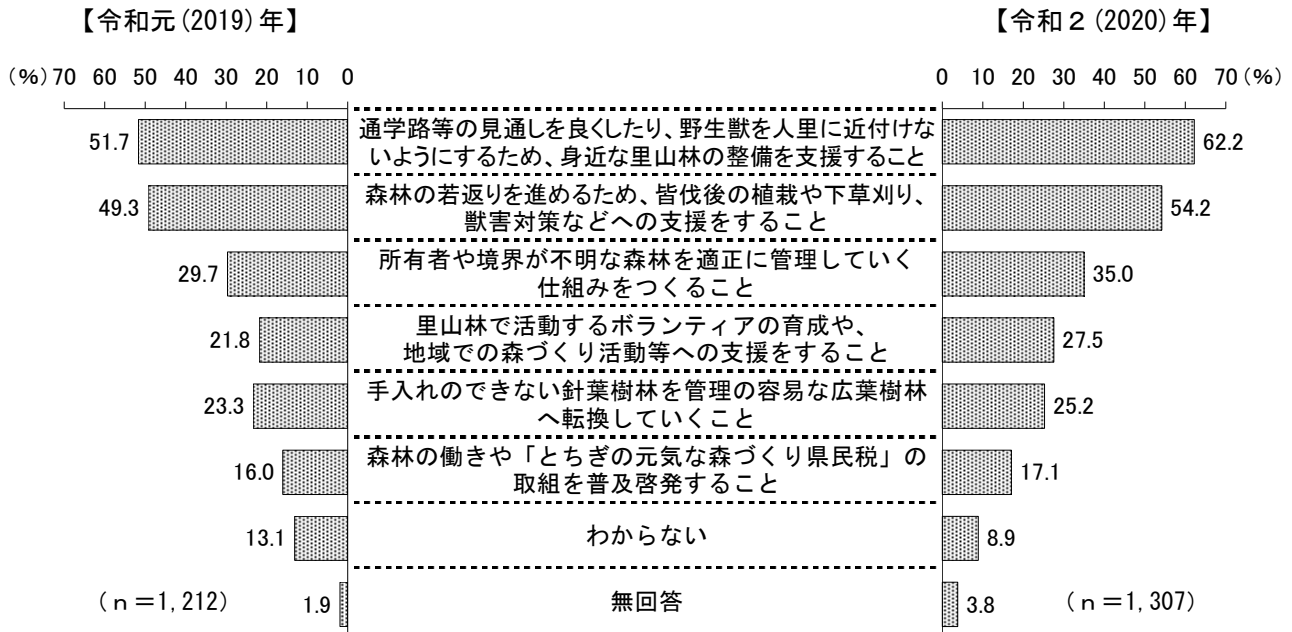


- ・全体で見ると、「洪水などの災害を防止する働き」(55.0%)が5割半ばで最も高く、次いで「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(52.8%)、「水資源を蓄える働き」(48.0%)、「野生動植物の生息の場としての働き」(35.2%)、「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」(32.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「水資源を蓄える働き」では〈男性〉(56.1%)が〈女性〉(41.6%)より14.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「水資源を蓄える働き」では〈男性70歳以上〉が63.7%と高くなっている。「野生動植物の生息の場としての働き」では〈女性30歳代〉が53.2%、〈男性40歳代〉が48.0%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」では〈男性30歳代〉が47.4%と高くなっている。「自然に親しみ、癒やしや安らぎの場としての働き」では〈女性20歳代〉が43.5%と高くなっている。
- ・令和元(2019)年の調査結果と比較すると、「洪水などの災害を防止する働き」が4.3ポイント、「野生動植物の生息の場としての働き」が3.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」が3.1ポイント減少している。

(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの

問24 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,307]



(※) 令和元(2019)年調査で選択肢に加えていた「とちぎ材(栃木県産の木材)を積極的に使っていくため、公共施設などの木造化・木製品整備の支援をすること」(25.8%)は、今回調査では選択肢に加えていない。

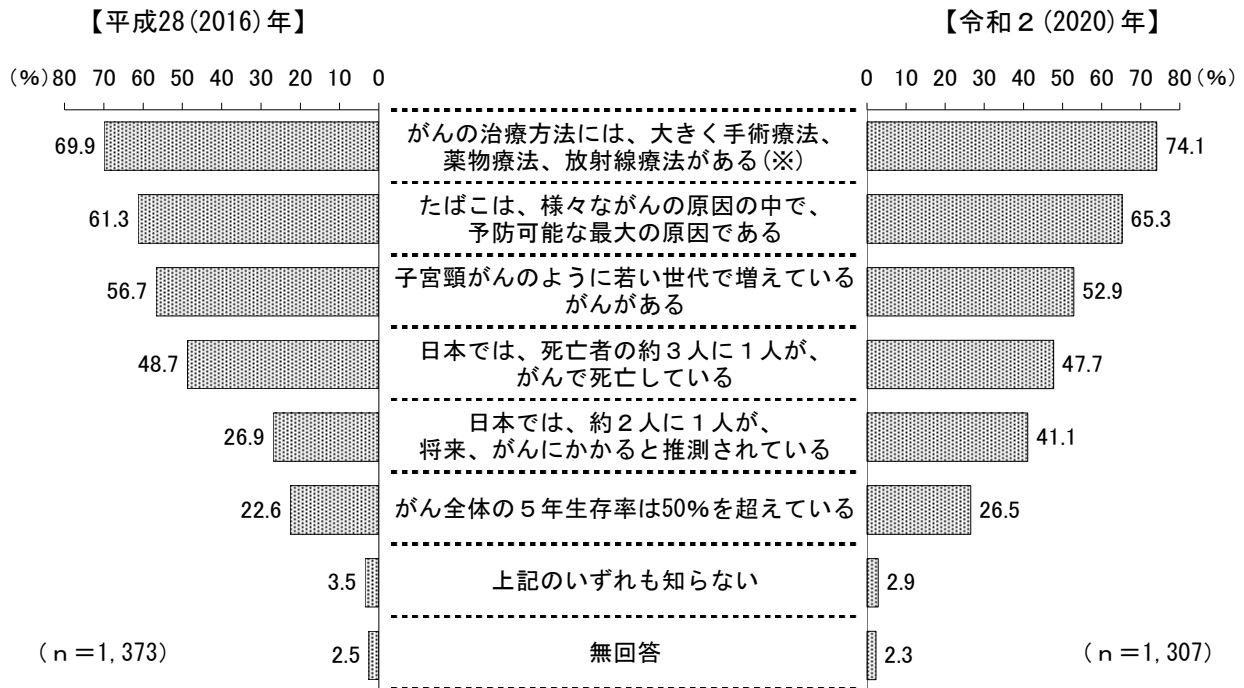
- 全体で見ると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」(62.2%)が6割を超えて最も高く、次いで「森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」(54.2%)、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」(35.0%)、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」(27.5%)、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」(25.2%)の順となっている。
- 性別で見ると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性〉(28.8%)が〈女性〉(22.3%)より6.5ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈男性20歳代〉が73.7%と高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈男性20歳代〉が52.6%と高くなっている。「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」では〈男性70歳以上〉が43.2%と高くなっている。「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈女性60~64歳〉が36.7%、〈男性65~69歳〉が36.6%と高くなっている。
- 令和元(2019)年の調査結果との比較は、今回調査で選択肢を一部削除しているため参考にとどまるが、上位3項目は令和元(2019)年と同じ順位となっている。

10 とちぎのがん対策等について

(1) がんについて知っていること

問25 がんについてあなたが知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 307]

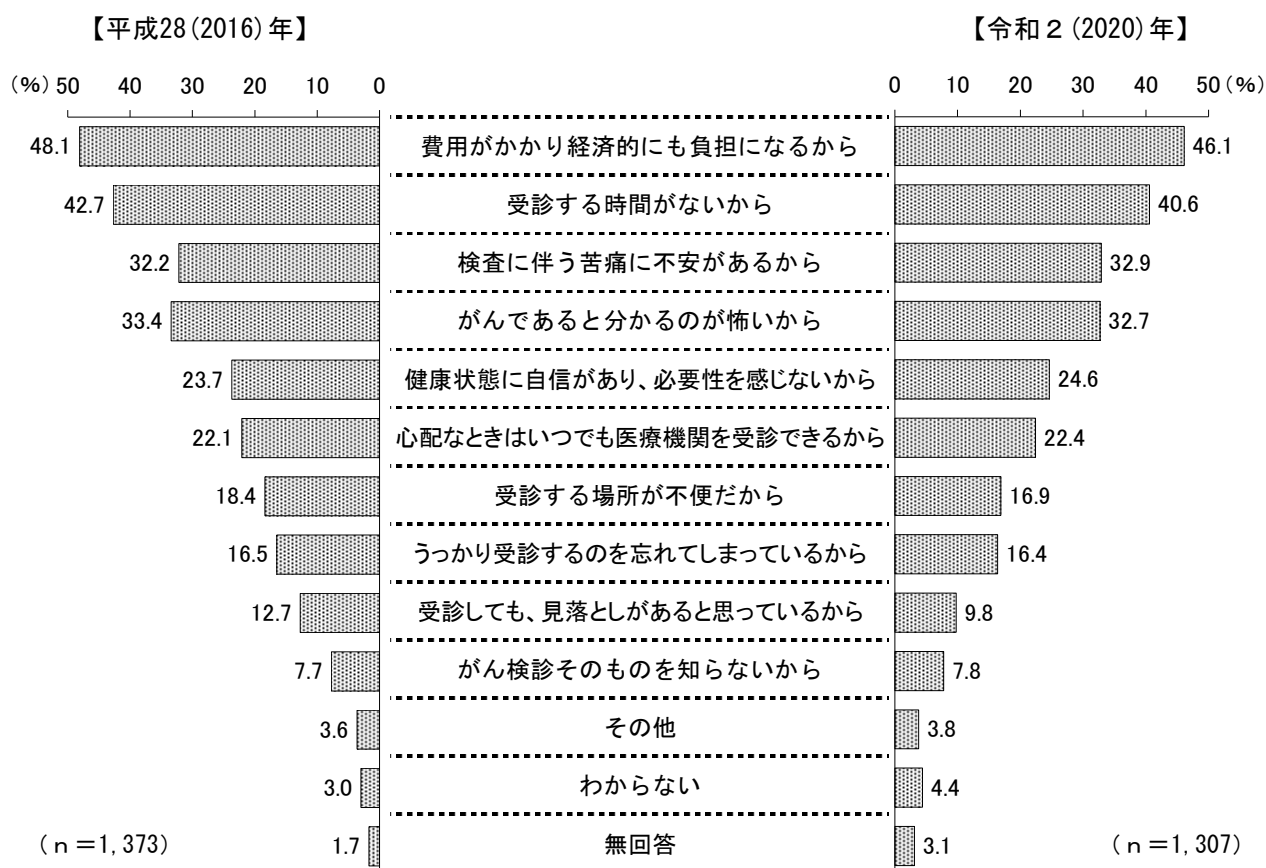


(※) 「がんの治療方法には、大きく手術療法、薬物療法、放射線療法がある」は、平成28(2016)年調査では「がんの治療方法には、大きく手術療法、化学療法、放射線療法がある」としていた。

- ・全体で見ると、「がんの治療方法には、大きく手術療法、薬物療法、放射線療法がある」(74.1%)が7割半ばで最も高く、次いで「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防可能な最大の原因である」(65.3%)、「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」(52.9%)、「日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している」(47.7%)、「日本では、約2人に1人が、将来、がんにかかる」と推測されている」(41.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」では〈女性〉(64.2%)が〈男性〉(40.4%)より23.8ポイント高くなっている。「日本では、約2人に1人が、将来、がんにかかる」と推測されている」では〈女性〉(45.8%)が〈男性〉(35.7%)より10.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「がんの治療方法には、大きく手術療法、薬物療法、放射線療法がある」では〈女性50歳代〉が84.2%と高くなっている。「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」では〈女性30歳代〉が77.9%、〈女性40歳代〉が77.5%、〈女性50歳代〉が70.7%、〈女性20歳代〉が69.6%と高くなっている。「日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している」では〈男性20歳代〉が57.9%と高くなっている。「日本では、約2人に1人が、将来、がんにかかる」と推測されている」では〈女性65~69歳〉が55.7%、〈女性60~64歳〉が53.3%、〈女性50歳代〉が51.9%と高くなっている。
- ・平成28(2016)年の調査結果との比較は、一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、「日本では、約2人に1人が、将来、がんにかかる」と推測されている」が14.2ポイント増加している。

(2) がん検診を受診しない人が多い理由

問26 がん検診の受診率は、40～50%程度となっていますが、欧米諸国と比較すると依然として低い状況です。あなたは、多くの方ががん検診を受けないのはなぜだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,307]

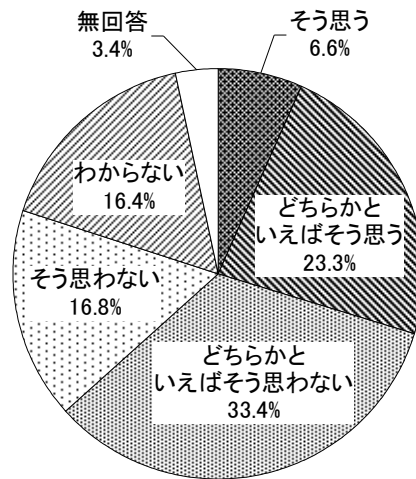


- ・全体で見ると、「費用がかかり経済的にも負担になるから」(46.1%)が4割半ばで最も高く、次いで「受診する時間がないから」(40.6%)、「検査に伴う苦痛に不安があるから」(32.9%)、「がんであると分かるのが怖いから」(32.7%)、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」(24.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈女性〉(40.3%)が〈男性〉(24.8%)より15.5ポイント高くなっている。「がんであると分かるのが怖いから」では〈女性〉(36.1%)が〈男性〉(29.1%)より7.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「費用がかかり経済的にも負担になるから」では〈女性30歳代〉が66.2%、〈男性40歳代〉が63.0%、〈男性50歳代〉が59.6%と高くなっている。「受診する時間がないから」では〈女性40歳代〉が64.0%、〈女性20歳代〉が63.0%、〈男性40歳代〉が60.0%、〈女性30歳代〉が59.7%、〈男性30歳代〉が59.6%と高くなっている。「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈女性50歳代〉が52.6%、〈女性65～69歳〉が50.6%と高くなっている。「がんであると分かるのが怖いから」では〈女性70歳以上〉が43.2%と高くなっている。
- ・平成28(2016)年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

(3) がんの治療・検査のために通院しながら働き続ける社会の環境

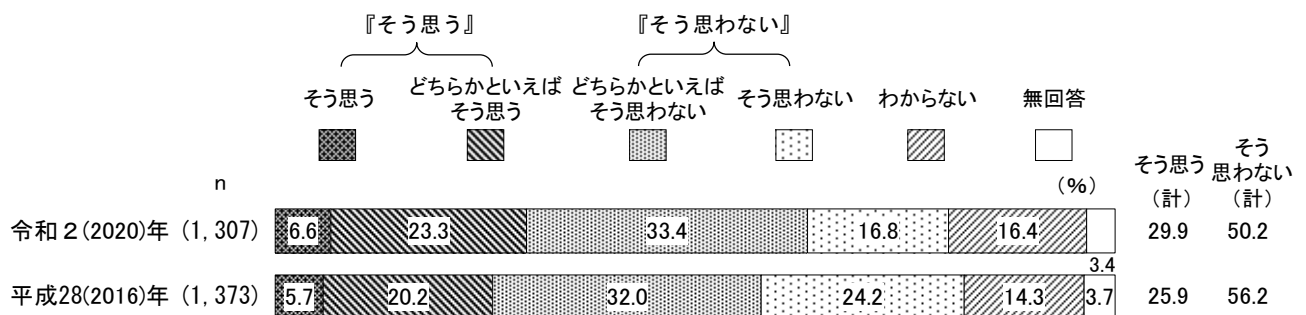
問27 現在の日本の社会では、がんの治療や検査のために2週間に1度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 307]



(n = 1, 307)

- ・全体で見ると、「そう思う」(6.6%)と「どちらかといえばそう思う」(23.3%)の2つを合わせた『そう思う』(29.9%)が3割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(33.4%)と「そう思わない」(16.8%)の2つを合わせた『そう思わない』(50.2%)が5割となっている。
- ・性別で見ると、『そう思う』では〈男性〉(34.0%)が〈女性〉(26.4%)より7.6ポイント高くなっている。一方、『そう思わない』では〈女性〉(53.3%)が〈男性〉(47.5%)より5.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『そう思う』では〈男性60～64歳〉が44.3%と高くなっている。一方、『そう思わない』では〈男性20歳代〉が76.3%、〈女性30歳代〉が65.0%、〈女性40歳代〉が63.9%と高くなっている。

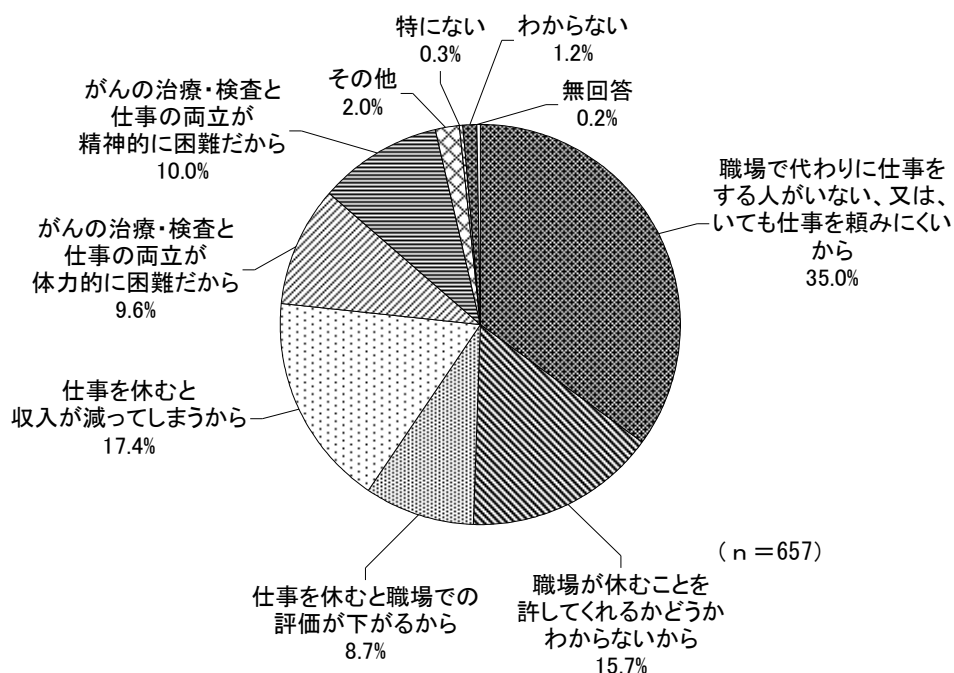


- ・平成28(2016)年の調査結果と比較すると、『そう思う』が4.0ポイント増加している。一方、『そう思わない』が6.0ポイント減少している。

(3-1) がんの治療・検査のために通院しながら働き続けるための妨げになること

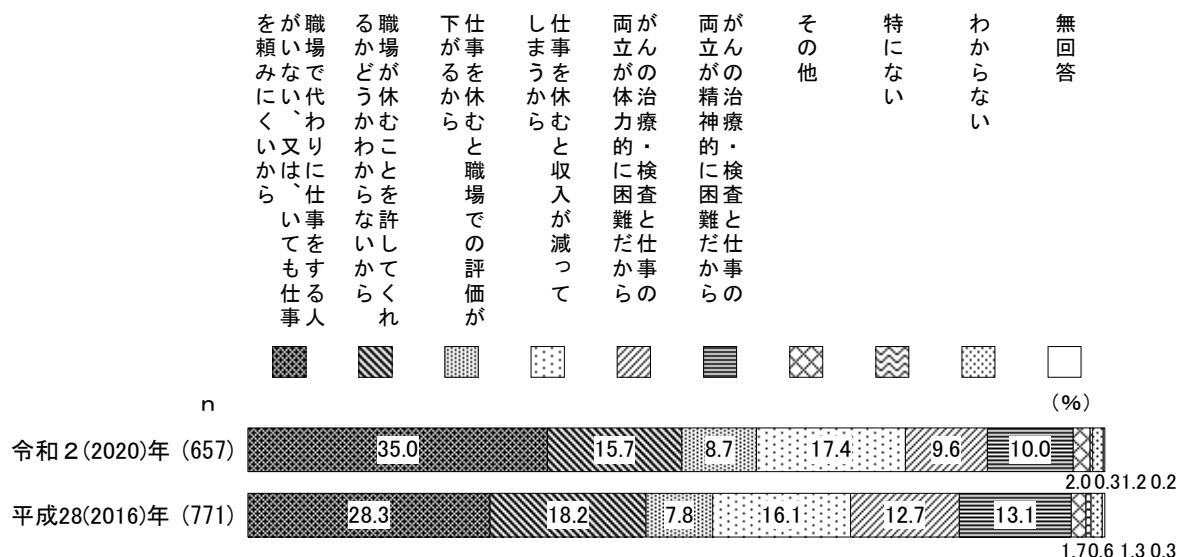
(問27で選択肢「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を選んだ方のみお答えください)

問27-1 がんの治療や検査のために2週間に1度程度病院に通う必要がある場合、働き続けることを難しくさせている最も大きな理由は何だと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=657]



- ・全体で見ると、「職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから」(35.0%)が3割半ばで最も高く、次いで「仕事を休むと収入が減ってしまうから」(17.4%)、「職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから」(15.7%)、「がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから」(10.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」では〈女性〉(12.5%)が〈男性〉(5.3%)より7.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから」では〈女性30歳代〉が50.0%と高くなっている。「仕事を休むと収入が減ってしまうから」では〈女性50歳代〉が26.8%と高くなっている。「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」では〈女性60～64歳〉が21.2%と高くなっている。

[過去の調査結果]

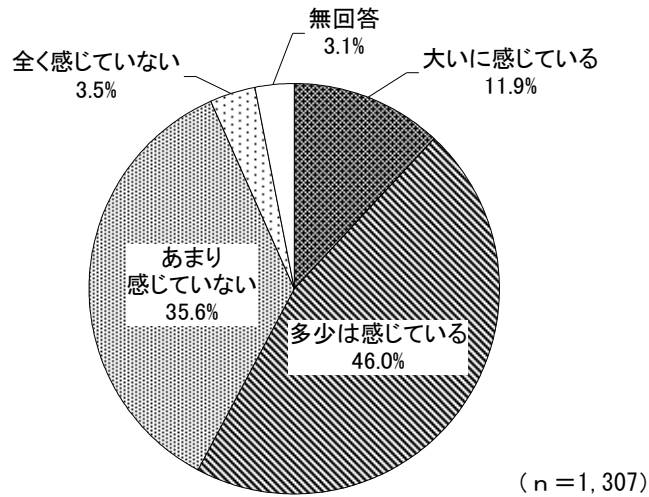


- 平成28（2016）年の調査結果と比較すると、「職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから」が6.7ポイント増加している。一方、「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」と「がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから」がともに3.1ポイント減少している。

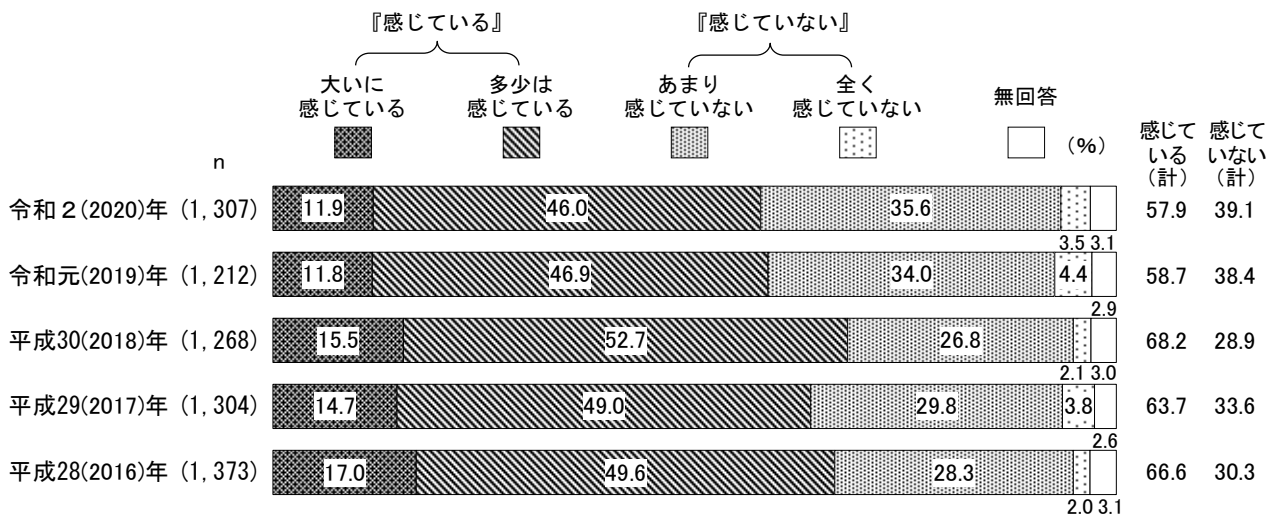
11 食の安全・安心について

(1) 食品の安全性に対する不安

問28 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,307]



- ・全体で見ると、「大いに感じている」(11.9%)と「多少は感じている」(46.0%)の2つを合わせた『感じている』(57.9%)が6割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」(35.6%)と「全く感じていない」(3.5%)の2つを合わせた『感じていない』(39.1%)がほぼ4割となっている。
- ・性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(61.2%)が〈男性〉(54.1%)より7.1ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉(43.6%)が〈女性〉(35.7%)より7.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『感じている』では〈女性60~64歳〉が70.0%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性20歳代〉が60.5%、〈女性20歳代〉が58.7%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、令和元(2019)年調査と大きな傾向の違いはみられない。

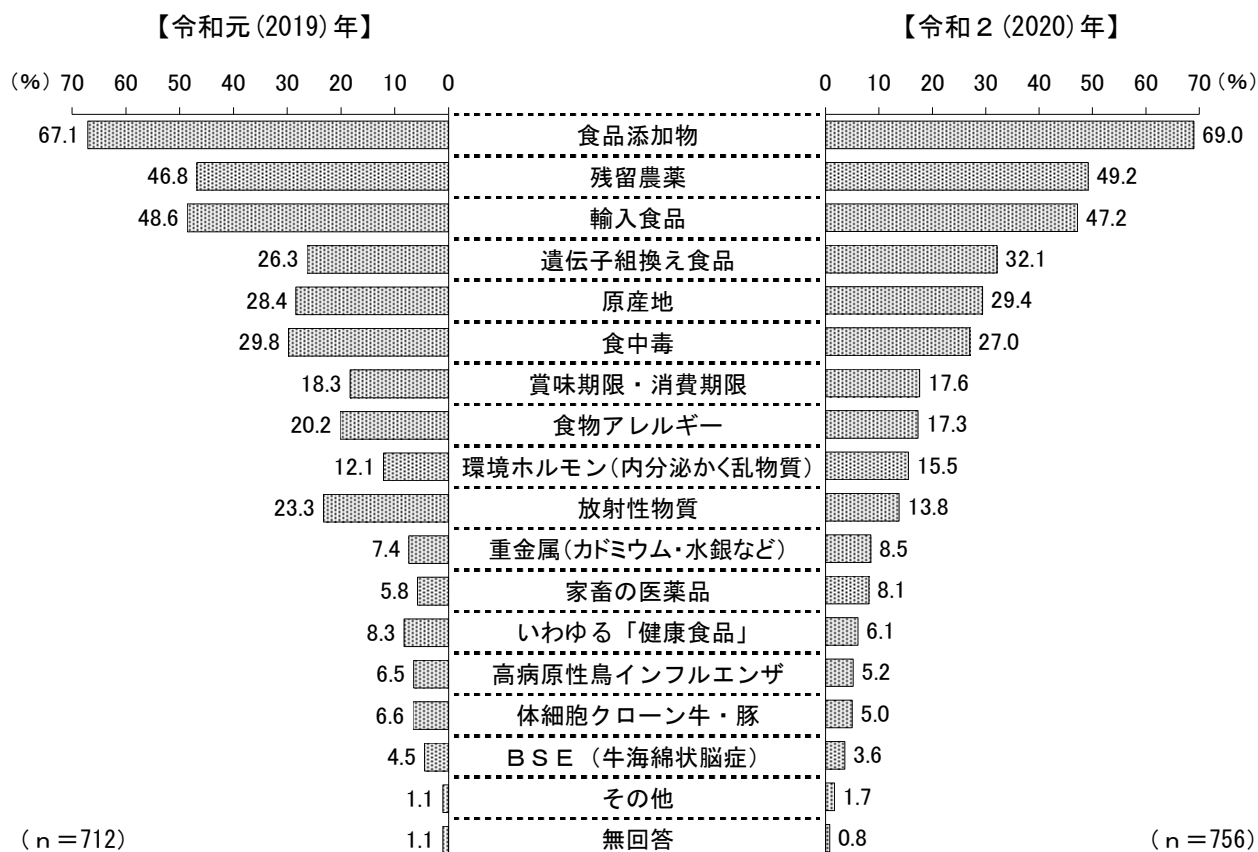
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの

(問28で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問28-1 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。

次の中から4つまで選んでください。

[n=756]



- 全体で見ると、「食品添加物」(69.0%)がほぼ7割で最も高く、次いで「残留農薬」(49.2%)、「輸入食品」(47.2%)、「遺伝子組換え食品」(32.1%)、「原産地」(29.4%)の順となっている。
- 性別で見ると、「食品添加物」では〈女性〉(73.1%)が〈男性〉(63.2%)より9.9ポイント高くなっている。「輸入食品」では〈男性〉(50.2%)が〈女性〉(44.6%)より5.6ポイント高くなっている。「食物アレルギー」では〈女性〉(19.8%)が〈男性〉(14.2%)より5.6ポイント高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈男性〉(20.4%)が〈女性〉(15.3%)より5.1ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性65~69歳〉が79.2%、〈女性70歳以上〉が77.9%と高くなっている。「残留農薬」では〈男性70歳以上〉が63.4%と高くなっている。「輸入食品」では〈男性65~69歳〉が70.5%と高くなっている。「原産地」では〈男性60~64歳〉が46.9%と高くなっている。「食中毒」では〈男性30歳代〉が46.7%と高くなっている。
- 令和元(2019)年の調査結果と比較すると、「遺伝子組換え食品」が5.8ポイント、「環境ホルモン(内分泌かく乱物質)」が3.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「放射性物質」が9.5ポイント減少している。

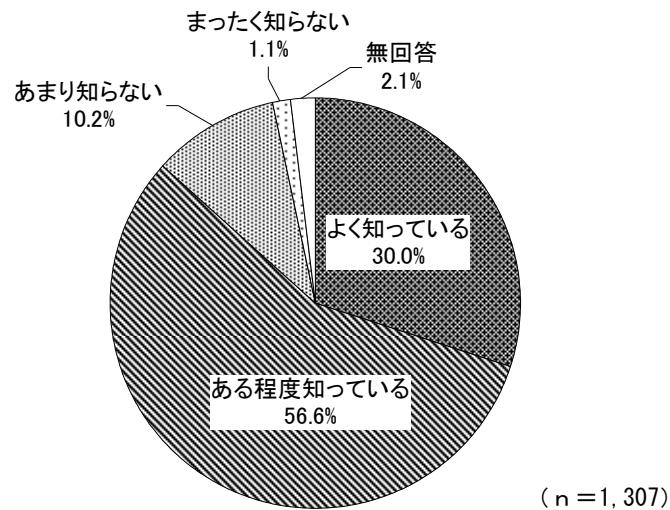
12 食品ロスの削減について

(1) 食品ロスの問題の認知度

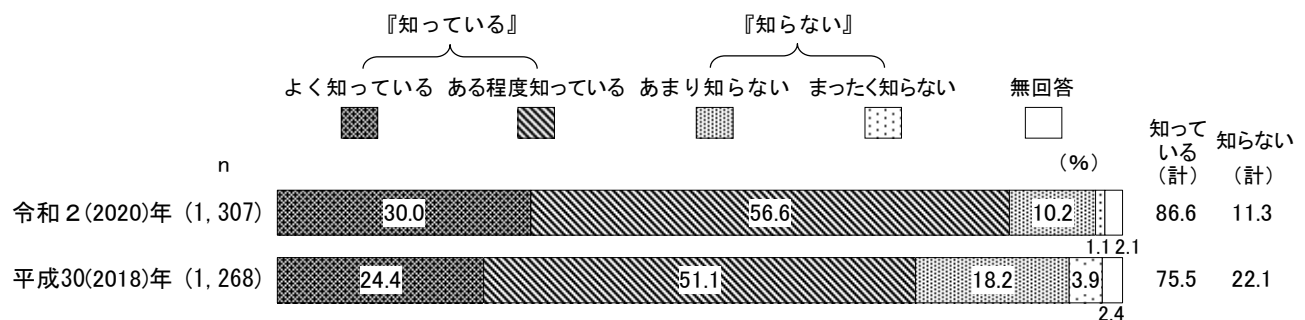
問29 あなたは、「食品ロス」(※)の問題を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,307]

※ 食品ロスとは、食べ残しや賞味期限切れの食品など、本来食べられる部分が捨てられたものをいいます。



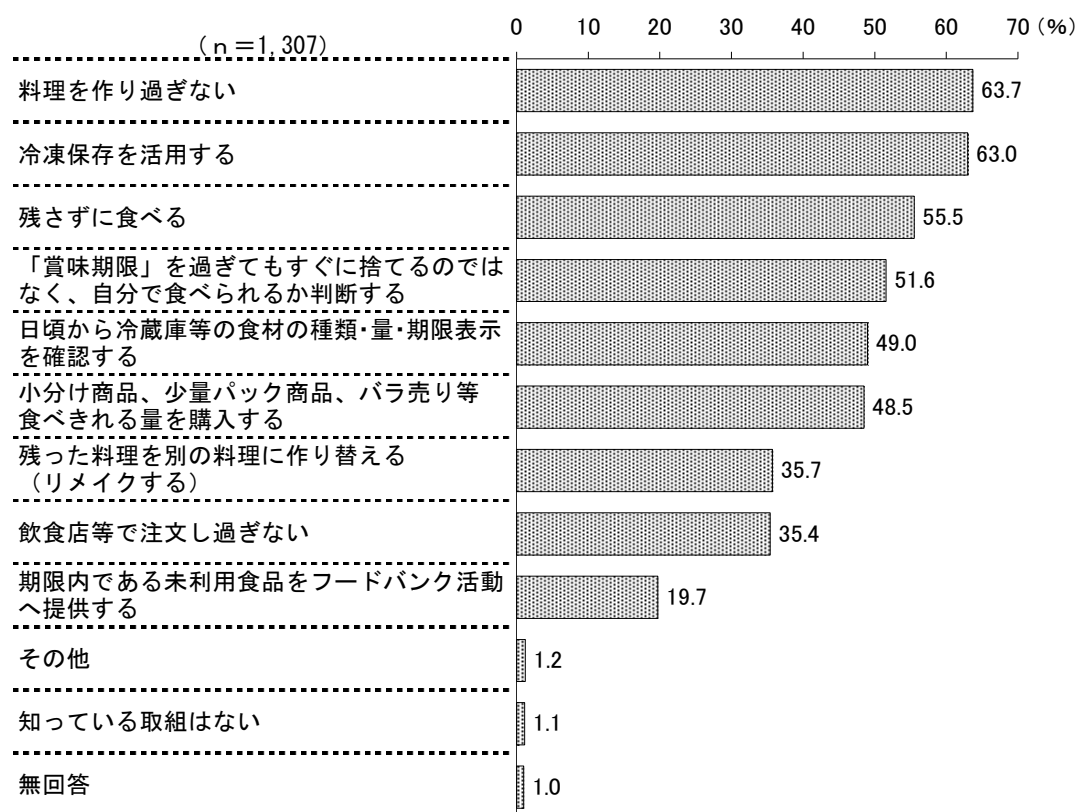
- ・全体で見ると、「よく知っている」(30.0%)と「ある程度知っている」(56.6%)の2つを合わせた『知っている』(86.6%)が9割近くと高くなっている。一方、「あまり知らない」(10.2%)と「まったく知らない」(1.1%)の2つを合わせた『知らない』(11.3%)が1割を超えている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「よく知っている」では〈男性70歳以上〉が41.8%と高くなっている。一方、『知らない』では〈男性30歳代〉が24.5%と高くなっている。



- ・平成30(2018)年の調査結果と比較すると、『知っている』が11.1ポイント増加している。一方、『知らない』が10.8ポイント減少している。

(2) 食品ロスが発生させないための取組で知っていること

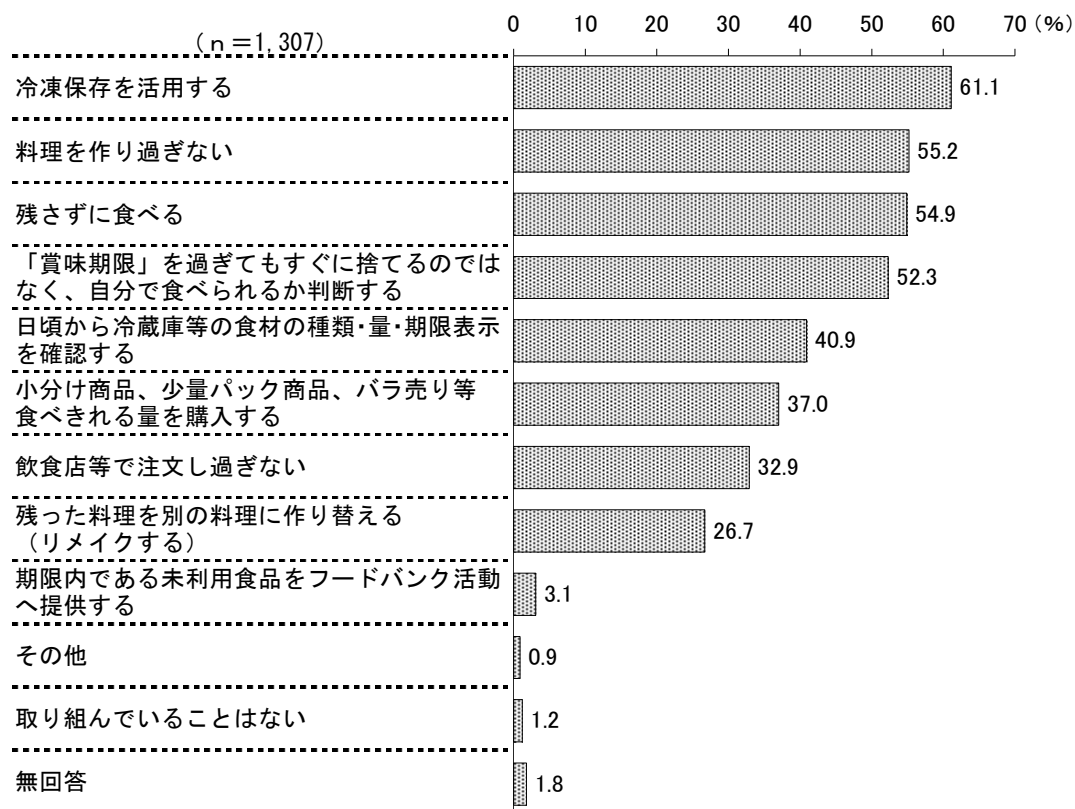
問30 あなたが知っている、食品ロスが発生させない（食品を無駄にしない）ための取組はどのようなものですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,307]



- ・全体で見ると、「料理を作り過ぎない」（63.7%）が6割を超えて最も高く、次いで「冷凍保存を活用する」（63.0%）、「残さずに食べる」（55.5%）、「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」（51.6%）、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」（49.0%）、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する」（48.5%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する」では〈女性〉（57.1%）が〈男性〉（38.7%）より18.4ポイント高くなっている。「残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）」では〈女性〉（43.5%）が〈男性〉（26.5%）より17.0ポイント高くなっている。「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」では〈女性〉（56.2%）が〈男性〉（40.7%）より15.5ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「料理を作り過ぎない」では〈男性70歳以上〉が73.3%と高くなっている。「冷凍保存を活用する」では〈女性40歳代〉が73.9%と高くなっている。「残さずに食べる」では〈女性30歳代〉が74.0%、〈女性40歳代〉が73.9%と高くなっている。「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する」では〈女性40歳代〉が64.9%、〈女性50歳代〉が62.4%と高くなっている。

(3) 食品ロスが発生させないために現在取り組んでいること

問31 あなたが現在行っている、食品ロスが発生させない（食品を無駄にしない）ための取組はどのようなものですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,307]



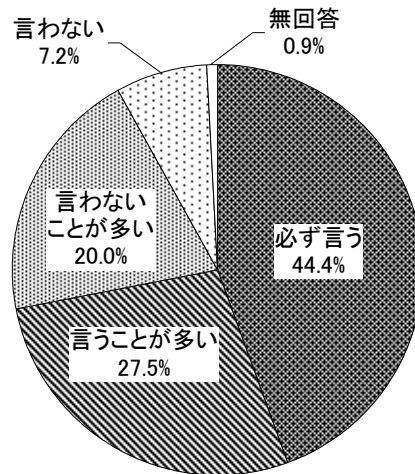
- ・全体で見ると、「冷凍保存を活用する」(61.1%)が6割を超えて最も高く、次いで「料理を作り過ぎない」(55.2%)、「残さずに食べる」(54.9%)、「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」(52.3%)、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」(40.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」では〈女性〉(49.0%)が〈男性〉(31.5%)より17.5ポイント高くなっている。「冷凍保存を活用する」では〈女性〉(68.8%)が〈男性〉(51.6%)より17.2ポイント高くなっている。「残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)」では〈女性〉(33.4%)が〈男性〉(18.8%)より14.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「冷凍保存を活用する」では〈女性30歳代〉が80.5%と高くなっている。「料理を作り過ぎない」では〈女性70歳以上〉が67.5%と高くなっている。「残さずに食べる」では〈女性20歳代〉が73.9%、〈男性20歳代〉が73.7%、〈男性40歳代〉が73.0%と高くなっている。「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」では〈女性50歳代〉が60.9%と高くなっている。

13 食に関する意識と実践について

(1) 食事の際「いただきます」を言っているか

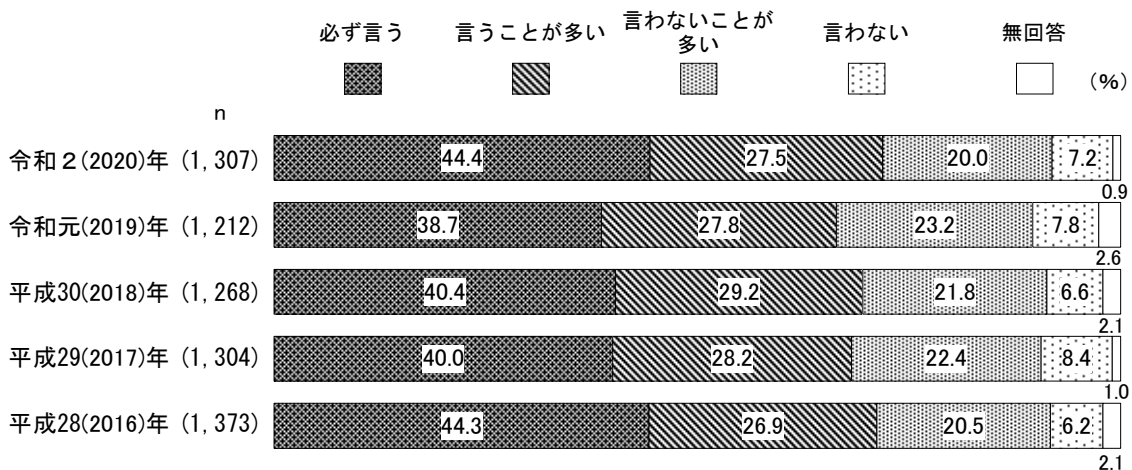
問32 あなたは、食事の際「いただきます」を言いますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,307]



(n=1,307)

- ・全体で見ると、「必ず言う」(44.4%)が4割半ばと高くなっている。「言うことが多い」(27.5%)は3割近くで、「言わないことが多い」(20.0%)は2割となっている。
- ・性別で見ると、「必ず言う」では〈女性〉(46.5%)が〈男性〉(41.9%)より4.6ポイント高くなっている。「言うことが多い」では〈女性〉(30.5%)が〈男性〉(24.1%)より6.4ポイント高くなっている。「言わないことが多い」では〈男性〉(23.5%)が〈女性〉(17.3%)より6.2ポイント高くなっている。「言わない」では〈男性〉(10.1%)が〈女性〉(4.5%)より5.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「必ず言う」では〈女性40歳代〉が58.6%、〈女性20歳代〉が56.5%と高くなっている。「言うことが多い」では〈女性30歳代〉が37.7%と高くなっている。「言わないことが多い」では〈男性20歳代〉が34.2%、〈男性65~69歳〉が31.0%、〈男性70歳以上〉が30.8%と高くなっている。「言わない」では〈男性65~69歳〉が22.5%と高くなっている。

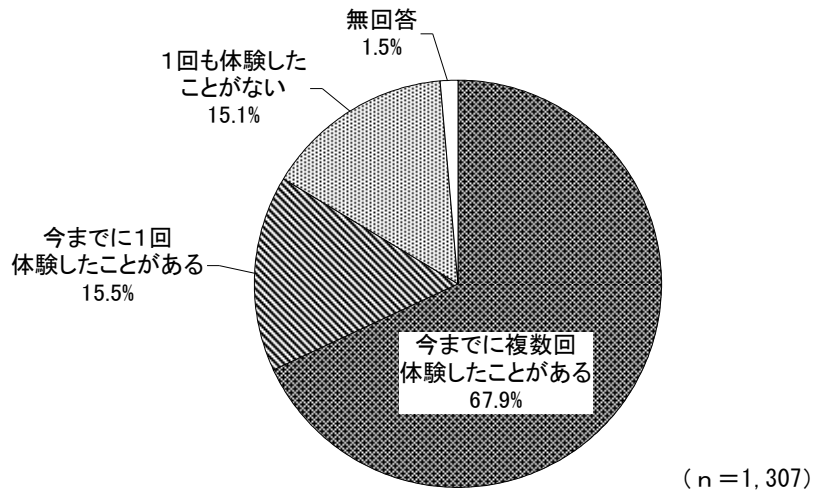


- ・過去の調査結果と比較すると、「必ず言う」が令和元(2019)年より5.7ポイント増加している。一方、「言わないことが多い」が令和元(2019)年より3.2ポイント減少している。

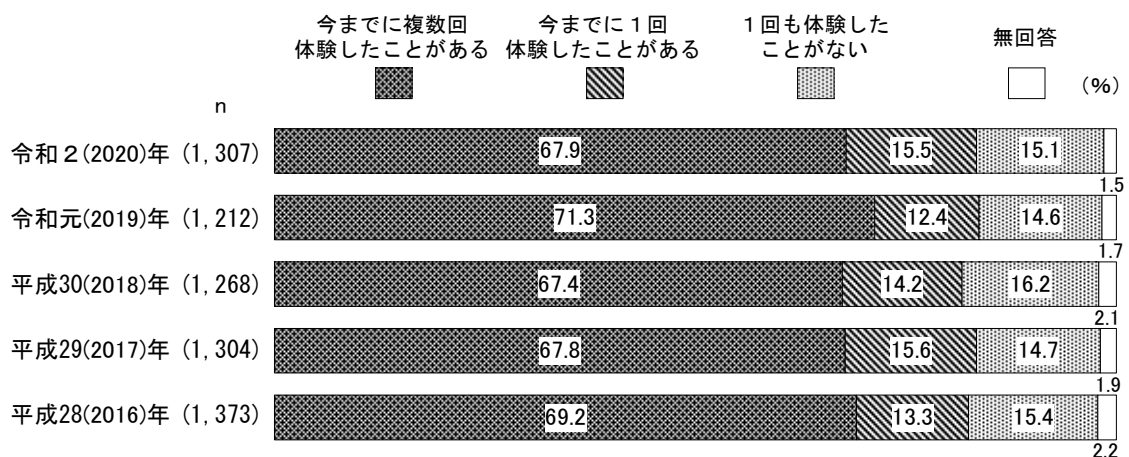
(2) 農業体験をした経験

問33 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなどの農業体験をしたことがありますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,307]



- ・全体で見ると、「今までに複数回体験したことがある」(67.9%)が7割近くと高くなっている。「今までに1回体験したことがある」(15.5%)と「1回も体験したことがない」(15.1%)はともに1割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性30歳代〉が81.8%、〈男性30歳代〉が80.7%と高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈女性70歳以上〉が27.8%、〈男性65～69歳〉が25.4%と高くなっている。



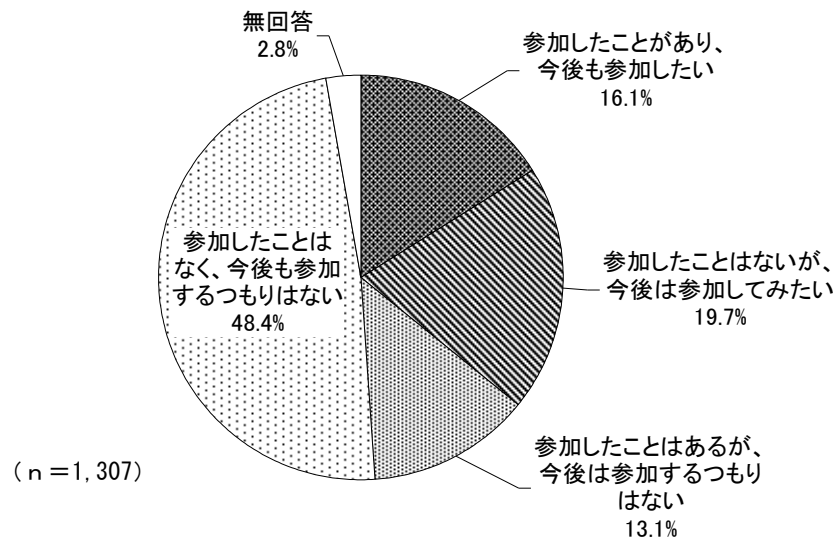
- ・過去の調査結果と比較すると、「今までに複数回体験したことがある」が令和元(2019)年より3.4ポイント減少している。一方、「今までに1回体験したことがある」が令和元(2019)年より3.1ポイント増加している。

14 農村地域における協働活動について

(1) 農村地域における協働活動への参加経験・参加意向

問34 あなたは、農村地域における協働活動（※）に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,307]

※ 農村地域における協働活動とは、農村地域と都市住民が連携し、援農（田畑の草刈りや水路の清掃、獣害を防止するための柵の設置等）や地域活動（生き物観察や動植物の保護などの環境保全、お祭りなど地域行事や伝統行事の継承）等に参加することをいいます。

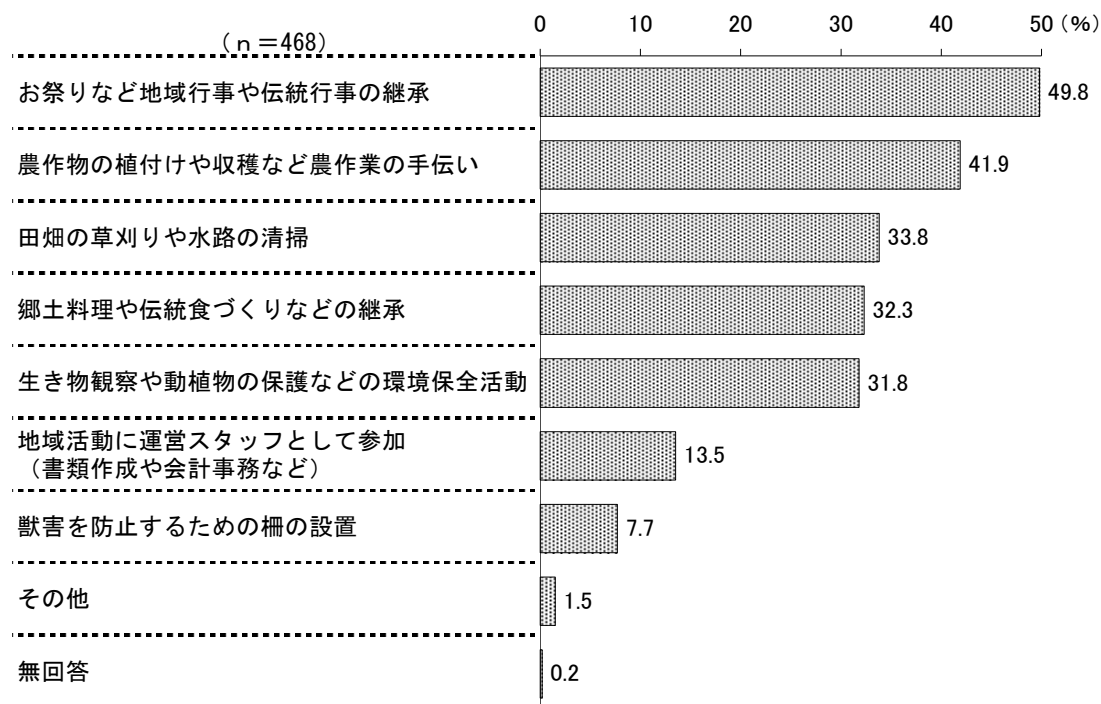


- ・全体で見ると、「参加したことがあり、今後も参加したい」（16.1%）と「参加したことはないが、今後は参加してみたい」（19.7%）の2つを合わせた『参加したい』（35.8%）が3割半ばとなっている。一方、「参加したことはあるが、今後は参加するつもりはない」（13.1%）と「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」（48.4%）の2つを合わせた『参加するつもりはない』（61.5%）が6割を超えている。
- ・性別で見ると、『参加したい』では〈男性〉（38.5%）が〈女性〉（33.5%）より5.0ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「参加したことがあり、今後も参加したい」では〈女性20歳代〉が28.3%と高くなっている。『参加したい』では〈女性20歳代〉が54.4%、〈男性50歳代〉が46.1%と高くなっている。一方、『参加するつもりはない』では〈女性65～69歳〉が73.5%と高くなっている。

(1-1) 今後参加してみたい協働活動

(問34で選択肢「参加したことがある、今後も参加したい」、「参加したことはないが、今後は参加してみたい」を選んだ方のみお答えください)

問34-1 あなたが、今後参加してみたい協働活動は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=468]

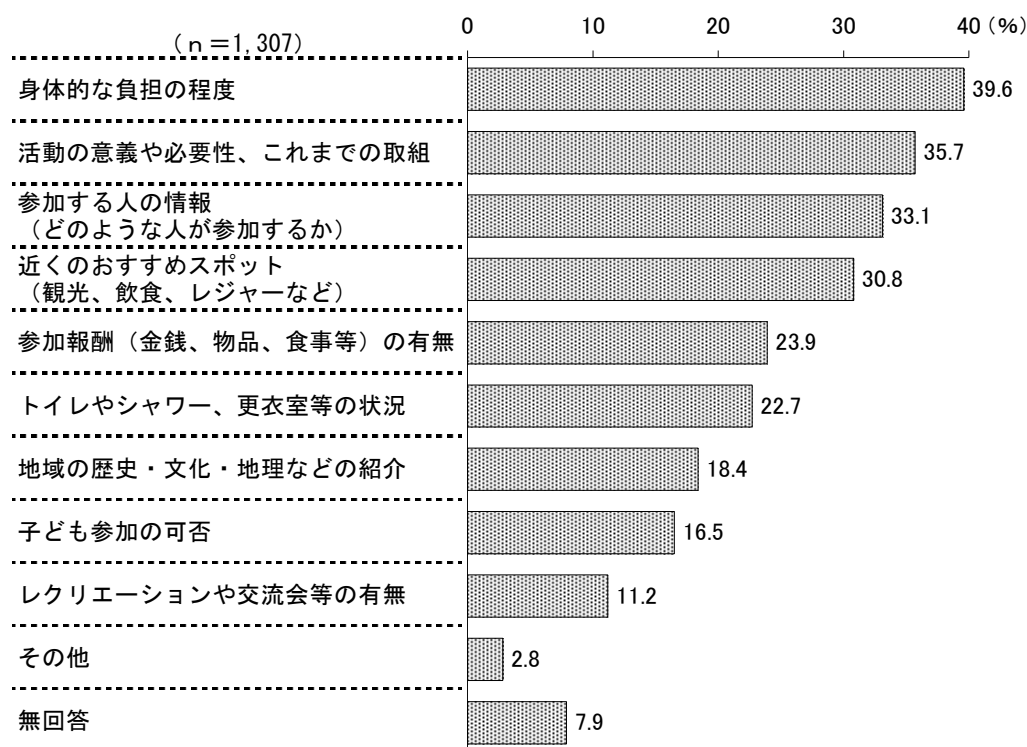


- ・全体で見ると、「お祭りなど地域行事や伝統行事の継承」(49.8%)が5割で最も高く、次いで「農作物の植付けや収穫など農作業の手伝い」(41.9%)、「田畑の草刈りや水路の清掃」(33.8%)、「郷土料理や伝統食づくりなどの継承」(32.3%)、「生き物観察や動植物の保護などの環境保全活動」(31.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「郷土料理や伝統食づくりなどの継承」では〈女性〉(42.2%)が〈男性〉(22.2%)より20.0ポイント高くなっている。「田畑の草刈りや水路の清掃」では〈男性〉(43.5%)が〈女性〉(23.7%)より19.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「お祭りなど地域行事や伝統行事の継承」では〈女性40歳代〉が61.7%、〈女性70歳以上〉が60.5%と高くなっている。「農作物の植付けや収穫など農作業の手伝い」では〈女性30歳代〉が60.0%と高くなっている。「郷土料理や伝統食づくりなどの継承」では〈女性70歳以上〉が50.0%、〈女性50歳代〉が47.8%と高くなっている。「生き物観察や動植物の保護などの環境保全活動」では〈女性30歳代〉が50.0%と高くなっている。

(2) 農村地域における協働活動に参加するために必要な情報

問35 あなたは、開催日時や場所、活動内容等の基本情報のほかに、どのような情報があると、参加しやすい、参加したくなると思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 307]



- ・全体で見ると、「身体的な負担の程度」(39.6%)が4割で最も高く、次いで「活動の意義や必要性、これまでの取組」(35.7%)、「参加する人の情報(どのような人が参加するか)」(33.1%)、「近くのおすすめスポット(観光、飲食、レジャーなど)」(30.8%)、「参加報酬(金銭、物品、食事等)の有無」(23.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「トイレやシャワー、更衣室等の状況」では〈女性〉(27.5%)が〈男性〉(17.6%)より9.9ポイント高くなっている。「身体的な負担の程度」では〈女性〉(43.4%)が〈男性〉(35.0%)より8.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「身体的な負担の程度」では〈女性60～64歳〉が51.7%、〈女性50歳代〉が50.4%と高くなっている。「活動の意義や必要性、これまでの取組」では〈女性30歳代〉が48.1%、〈男性65～69歳〉が47.9%と高くなっている。「参加する人の情報(どのような人が参加するか)」では〈女性20歳代〉が47.8%、〈女性30歳代〉が44.2%、〈女性40歳代〉が44.1%と高くなっている。「近くのおすすめスポット(観光、飲食、レジャーなど)」では〈男性20歳代〉が52.6%、〈女性20歳代〉が47.8%と高くなっている。「参加報酬(金銭、物品、食事等)の有無」では〈男性20歳代〉が57.9%、〈女性20歳代〉が50.0%と高くなっている。

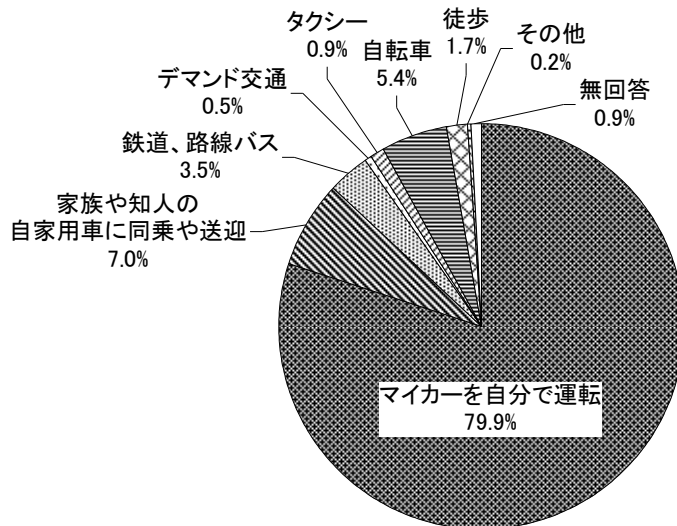
15 新技術を活用した公共交通について

(1) 日常生活における交通手段

問36 あなたは日常生活において、どのような交通手段を利用していますか。次の中から1つ選んでください。(複数ある場合は最も利用回数が多いものを選んでください。)

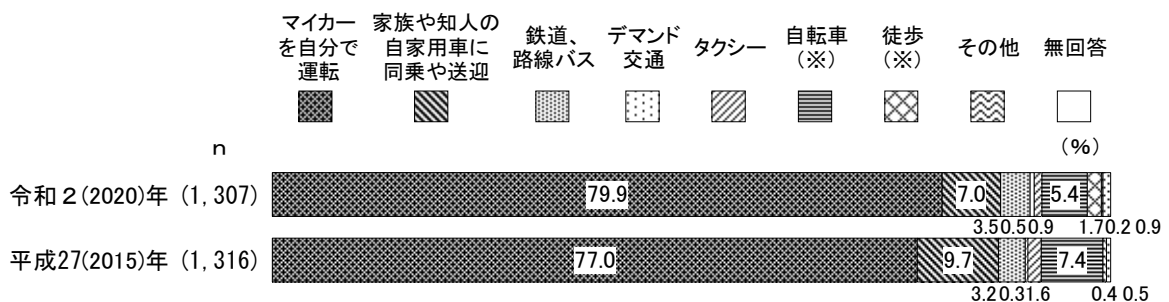
[n=1,307]

※ デマンド交通とは、地域の移動手段として市町村が運行している予約型の公共交通のことをいいます。



(n=1,307)

- ・全体で見ると、「マイカーを自分で運転」(79.9%)が8割で最も高く、次いで「家族や知人の自家用車に同乗や送迎」(7.0%)、「自転車」(5.4%)、「鉄道、路線バス」(3.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「マイカーを自分で運転」では〈男性〉(85.9%)が〈女性〉(74.6%)より11.3ポイント高くなっている。「家族や知人の自家用車に同乗や送迎」では〈女性〉(10.8%)が〈男性〉(2.7%)より8.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「マイカーを自分で運転」では〈女性40歳代〉が95.5%、〈女性30歳代〉が92.2%、〈男性50歳代〉が91.3%、〈男性40歳代〉が91.0%、〈男性65～69歳〉が90.1%と高くなっている。「家族や知人の自家用車に同乗や送迎」では〈女性70歳以上〉が27.8%と高くなっている。



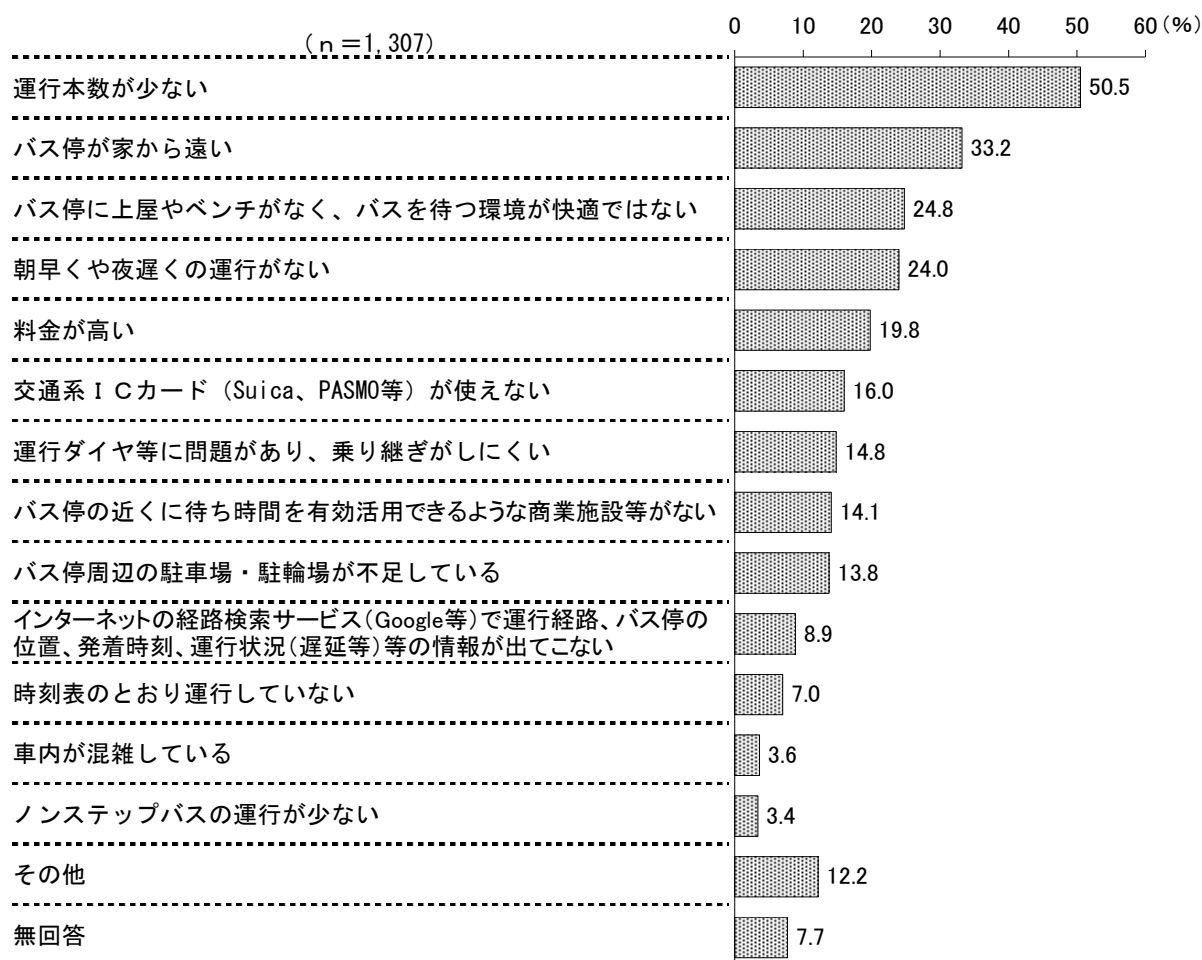
(※) 「自転車」と「徒歩」は、平成27(2015)年調査では1つの選択肢「徒歩、自転車」(7.4%)としていた。作図の便宜上、平成27(2015)年調査の「徒歩、自転車」(7.4%)は「自転車」の項目に示した。

- ・平成27(2015)年の調査結果との比較は、一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 路線バスに対する不満

問37 少子高齢化が進行する中、県では公共交通の確保・充実に向けた取組を進めています。あなたは、路線バスのどのような点に不満を感じていますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,307]

※ ノンステップバスとは、バスの床面を低くして乗降ステップをなくし、バリアフリー化されたバスのことをいいます。



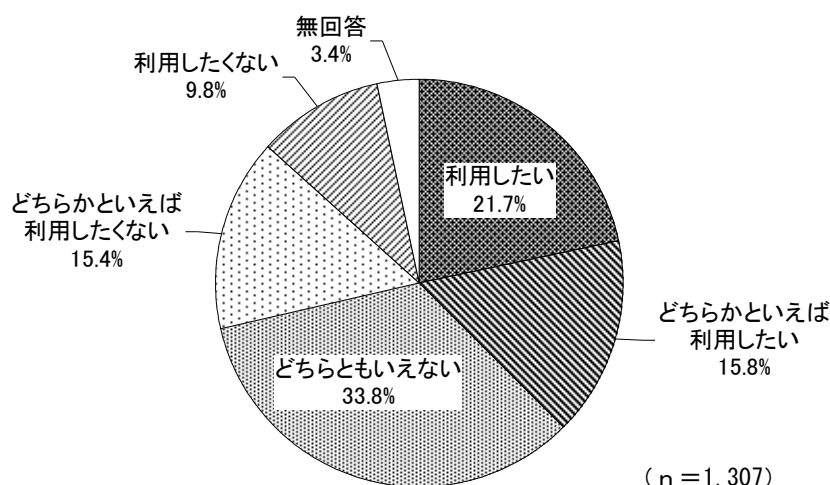
- ・全体で見ると、「運行本数が少ない」(50.5%)がほぼ5割で最も高く、次いで「バス停が家から遠い」(33.2%)、「バス停に上屋やベンチがなく、バスを待つ環境が快適ではない」(24.8%)、「朝早くや夜遅くの運行がない」(24.0%)、「料金が低い」(19.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「バス停が家から遠い」では〈女性〉(35.3%)が〈男性〉(30.8%)より4.5ポイント高くなっている。「バス停に上屋やベンチがなく、バスを待つ環境が快適ではない」では〈女性〉(26.9%)が〈男性〉(22.8%)より4.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「運行本数が少ない」では〈女性20歳代〉が73.9%、〈男性40歳代〉が64.0%、〈女性30歳代〉が62.3%と高くなっている。「バス停が家から遠い」では〈女性30歳代〉が44.2%と高くなっている。「朝早くや夜遅くの運行がない」では〈男性20歳代〉が39.5%、〈女性20歳代〉が39.1%と高くなっている。「料金が低い」では〈女性50歳代〉が32.3%と高くなっている。「交通系 ICカード (Suica、PASMO等) が使えない」では〈女性20歳代〉が41.3%と高くなっている。

(3) 自動運転システムが導入された路線バスの利用意向

問38 現在、運転手不足などの理由により、バス路線の維持が困難な状況となっており、解決策の1つとして、路線バスに自動運転システムを導入する取組が進められています。

あなたは、自身が日常生活において路線バスを利用するとなった場合、自動運転システムが導入されたバスを利用したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

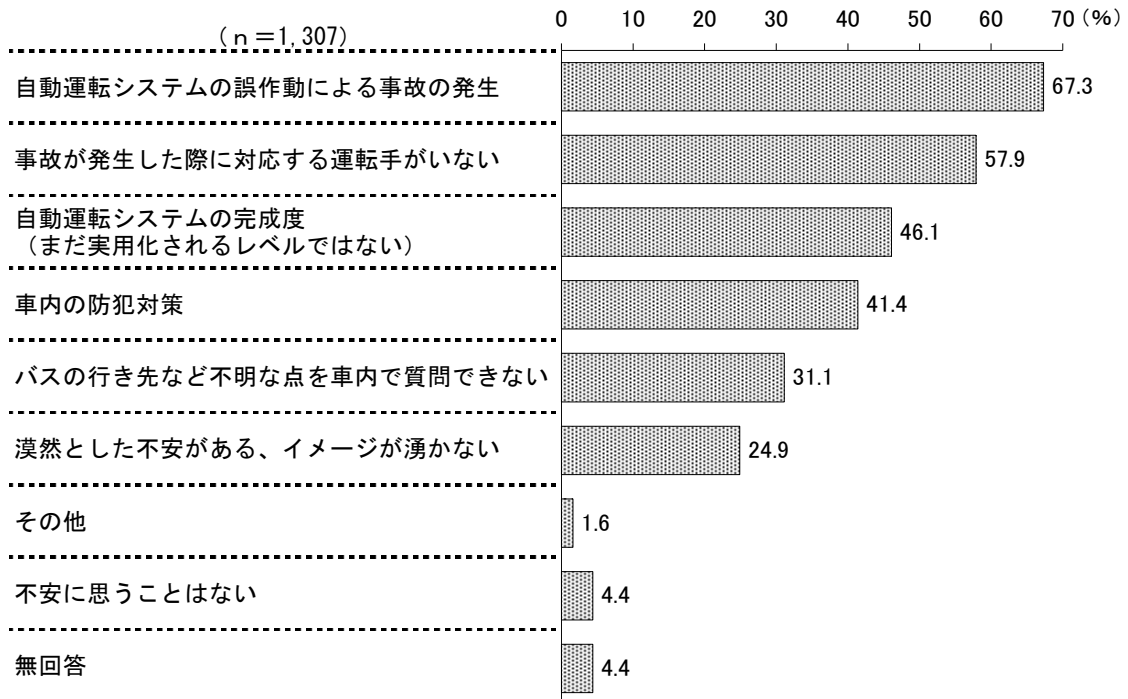
[n = 1,307]



- ・全体で見ると、「利用したい」(21.7%)と「どちらかといえば利用したい」(15.8%)の2つを合わせた『利用したい』(37.5%)が4割近くとなっている。一方、「どちらかといえば利用したくない」(15.4%)と「利用したくない」(9.8%)の2つを合わせた『利用したくない』(25.2%)が2割半ばとなっている。また、「どちらともいえない」(33.8%)が3割を超えている。
- ・性別で見ると、『利用したい』では〈男性〉(47.8%)が〈女性〉(29.2%)より18.6ポイント高くなっている。一方、『利用したくない』では〈女性〉(28.7%)が〈男性〉(20.7%)より8.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『利用したい』では〈男性50歳代〉が52.9%、〈男性30歳代〉が52.6%、〈男性40歳代〉が51.0%、〈男性65～69歳〉が50.8%と高くなっている。一方、『利用したくない』では〈女性65～69歳〉が35.5%と高くなっている。

(4) 路線バスに自動運転システムを導入することへの不安

問39 あなたは、路線バスに自動運転システムを導入することについて不安に思うことはありますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,307]



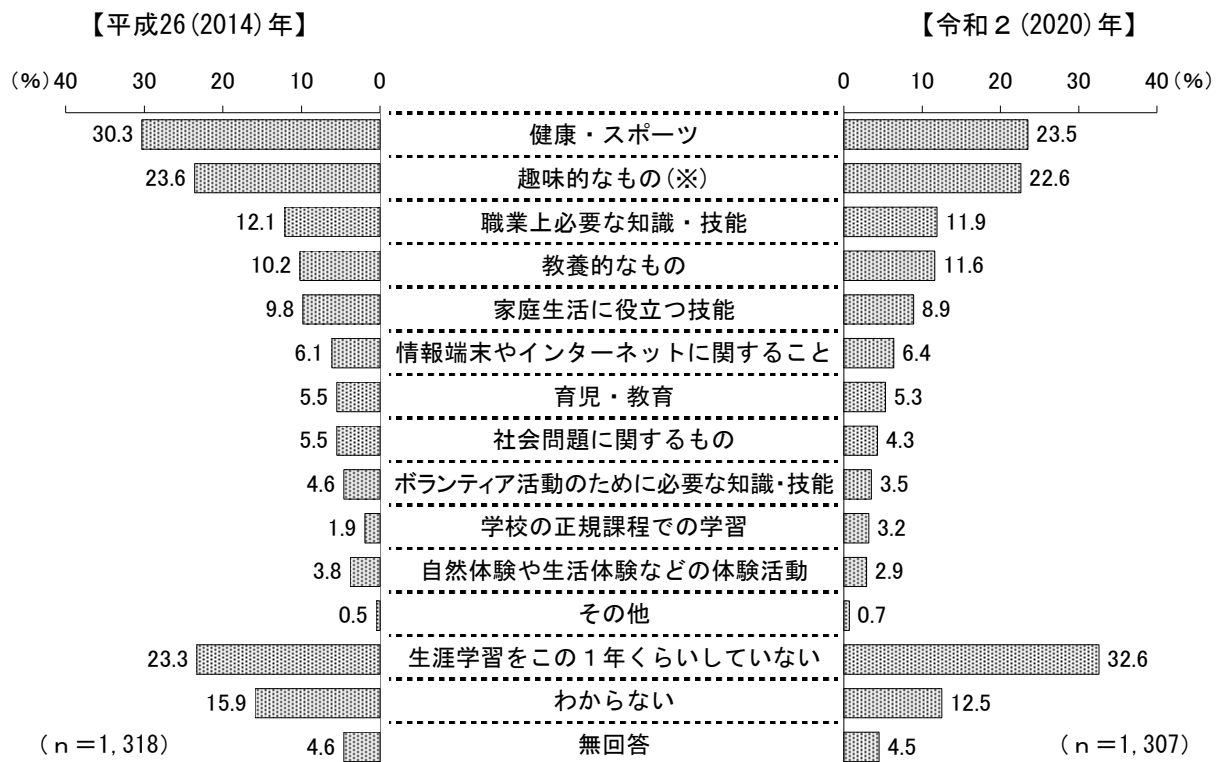
- ・全体で見ると、「自動運転システムの誤作動による事故の発生」(67.3%)が7割近くで最も高く、次いで「事故が発生した際に対応する運転手がない」(57.9%)、「自動運転システムの完成度(まだ実用化されるレベルではない)」(46.1%)、「車内の防犯対策」(41.4%)、「バスの行き先など不明な点を車内で質問できない」(31.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「車内の防犯対策」では〈女性〉(47.1%)が〈男性〉(35.7%)より11.4ポイント高くなっている。「漠然とした不安がある、イメージが湧かない」では〈女性〉(29.8%)が〈男性〉(19.8%)より10.0ポイント高くなっている。「自動運転システムの完成度(まだ実用化されるレベルではない)」では〈男性〉(50.6%)が〈女性〉(42.6%)より8.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「自動運転システムの誤作動による事故の発生」では〈女性40歳代〉が84.7%、〈女性30歳代〉が84.4%と高くなっている。「事故が発生した際に対応する運転手がない」では〈女性60~64歳〉が71.7%と高くなっている。「自動運転システムの完成度(まだ実用化されるレベルではない)」では〈男性40歳代〉が58.0%と高くなっている。「車内の防犯対策」では〈女性40歳代〉が59.5%、〈女性60~64歳〉が56.7%、〈女性30歳代〉が54.5%と高くなっている。

16 生涯学習について

(1) 最近1年間に行った生涯学習の種類

問40 あなたは、この1年くらいの中に、生涯学習をしたことがありますか。次の中からいくつかを選んでください。 [n=1,307]

※ 生涯学習とは、人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校での学習や、公民館などにおける講座等の学習はもとより、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などの様々な学習活動のことをいいます。



(※) 「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など)」は、平成26(2014)年調査では「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」としていた。

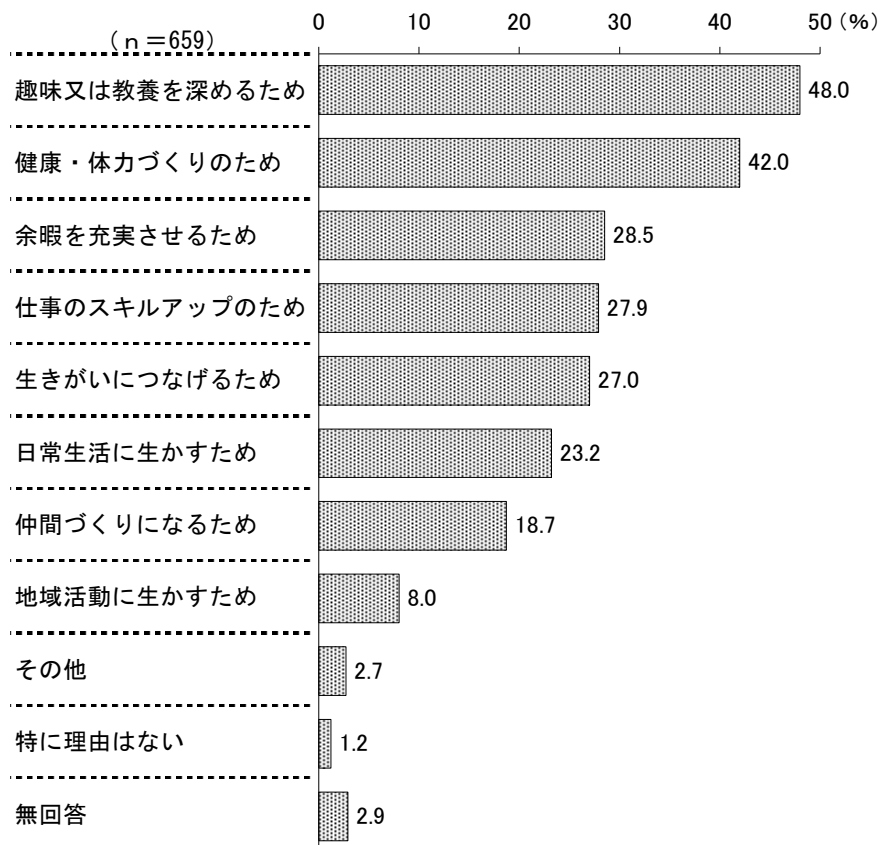
- ・全体で見ると、「健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)」(23.5%)が2割を超えて最も高く、次いで「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など)」(22.6%)、「職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)」(11.9%)、「教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)」(11.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「家庭生活に役立つ技能」では〈女性〉(12.0%)が〈男性〉(5.0%)より7.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康・スポーツ」では〈男性30歳代〉が36.8%と高くなっている。「趣味的なもの」では〈女性20歳代〉が30.4%、〈女性70歳以上〉が30.2%と高くなっている。「職業上必要な知識・技能」では〈男性20歳代〉と〈男性30歳代〉がともに26.3%、〈女性30歳代〉が22.1%と高くなっている。「情報端末やインターネットに関すること」では〈男性20歳代〉が26.3%と高くなっている。「育児・教育」では〈女性30歳代〉が23.4%と高くなっている。「生涯学習をこの1年くらいしていない」では〈男性65~69歳〉が43.7%と高くなっている。
- ・平成26(2014)年の調査結果と比較すると、「健康・スポーツ」が6.8ポイント減少している。一方、「生涯学習をこの1年くらいしていない」が9.3ポイント増加している。

(1-1) 生涯学習を行った理由

(問40で選択肢「1」～「12」(この1年くらいの間に生涯学習を行った)を選んだ方のみ
お答えください)

問40-1 あなたが、生涯学習を行った理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 659]

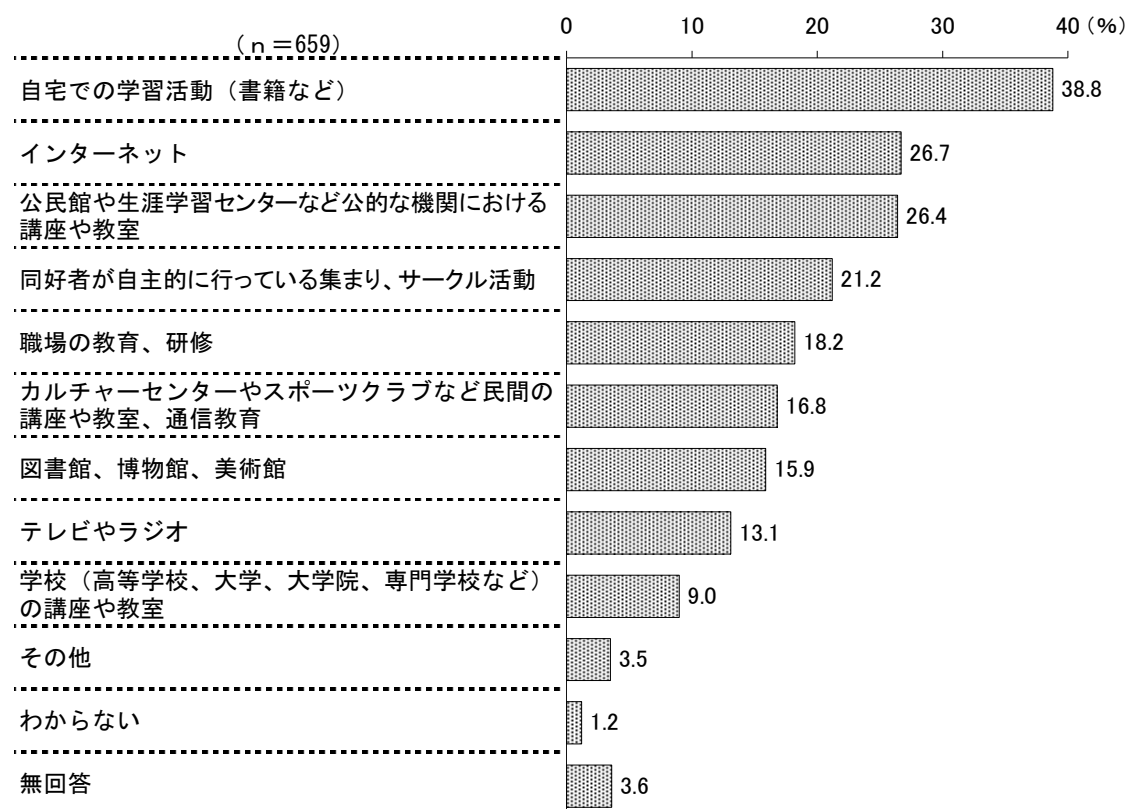


- ・全体で見ると、「趣味又は教養を深めるため」(48.0%)が5割近くで最も高く、次いで「健康・体力づくりのため」(42.0%)、「余暇を充実させるため」(28.5%)、「仕事のスキルアップのため」(27.9%)、「生きがいにつなげるため」(27.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「日常生活に生かすため」では〈女性〉(27.8%)が〈男性〉(17.8%)より10.0ポイント高くなっている。「仲間づくりになるため」では〈女性〉(21.5%)が〈男性〉(15.5%)より6.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康・体力づくりのため」では〈女性70歳以上〉が59.7%、〈男性70歳以上〉が55.9%と高くなっている。「仕事のスキルアップのため」では〈男性40歳代〉が50.0%、〈女性30歳代〉が47.8%と高くなっている。「生きがいにつなげるため」では〈女性70歳以上〉が40.3%、〈女性65～69歳〉が40.0%と高くなっている。「日常生活に生かすため」では〈女性30歳代〉が41.3%と高くなっている。「仲間づくりになるため」では〈女性70歳以上〉が44.4%、〈男性70歳以上〉が28.8%と高くなっている。

(1-2) 生涯学習を行った場所・形態

(問40で選択肢「1」～「12」(この1年くらいの間に生涯学習を行った)を選んだ方のみ
お答えください)

問40-2 あなたは、この1年くらいの間に、どのような場所や形態で生涯学習をしましたか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=659]



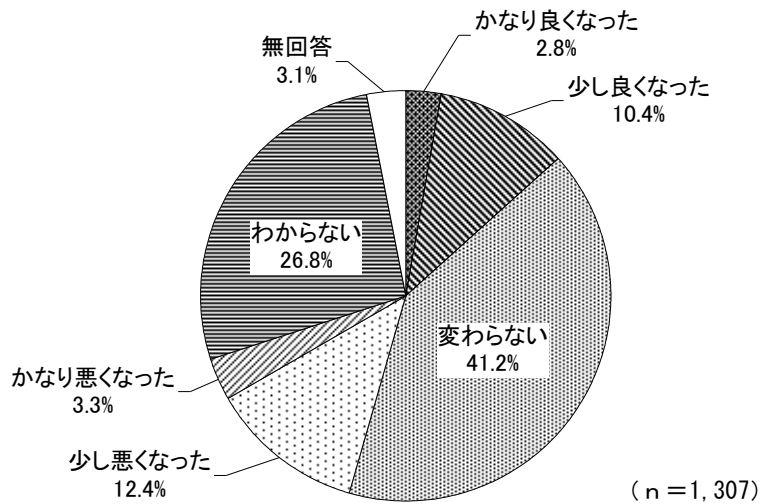
- ・全体でみると、「自宅での学習活動 (書籍など)」(38.8%) が4割近くで最も高く、次いで「インターネット」(26.7%)、「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室」(26.4%)、「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」(21.2%)、「職場の教育、研修」(18.2%) の順となっている。
- ・性別でみると、「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室」では〈女性〉(30.7%) が〈男性〉(21.5%) より9.2ポイント高くなっている。「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育」では〈女性〉(20.9%) が〈男性〉(12.5%) より8.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「自宅での学習活動 (書籍など)」では〈女性20歳代〉が63.3%と高くなっている。「インターネット」では〈男性30歳代〉が48.8%、〈女性30歳代〉が47.8%と高くなっている。「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室」では〈男性70歳以上〉が54.2%、〈女性70歳以上〉が51.4%、〈女性65～69歳〉が42.9%と高くなっている。

17 犯罪と治安対策について

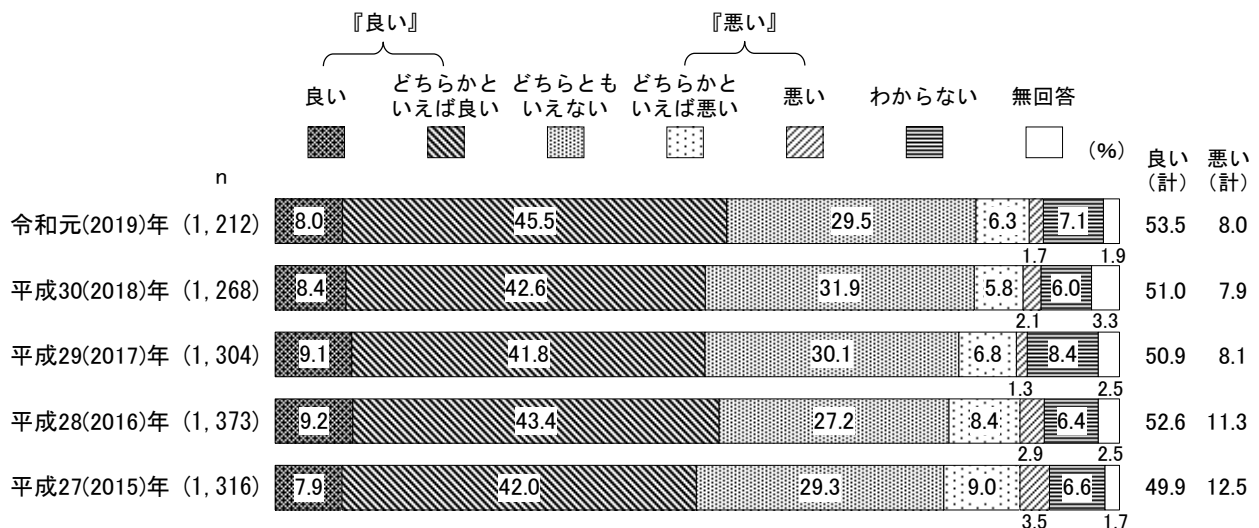
(1) 県内の治安状況の変化

問41 県内の治安は、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,307]



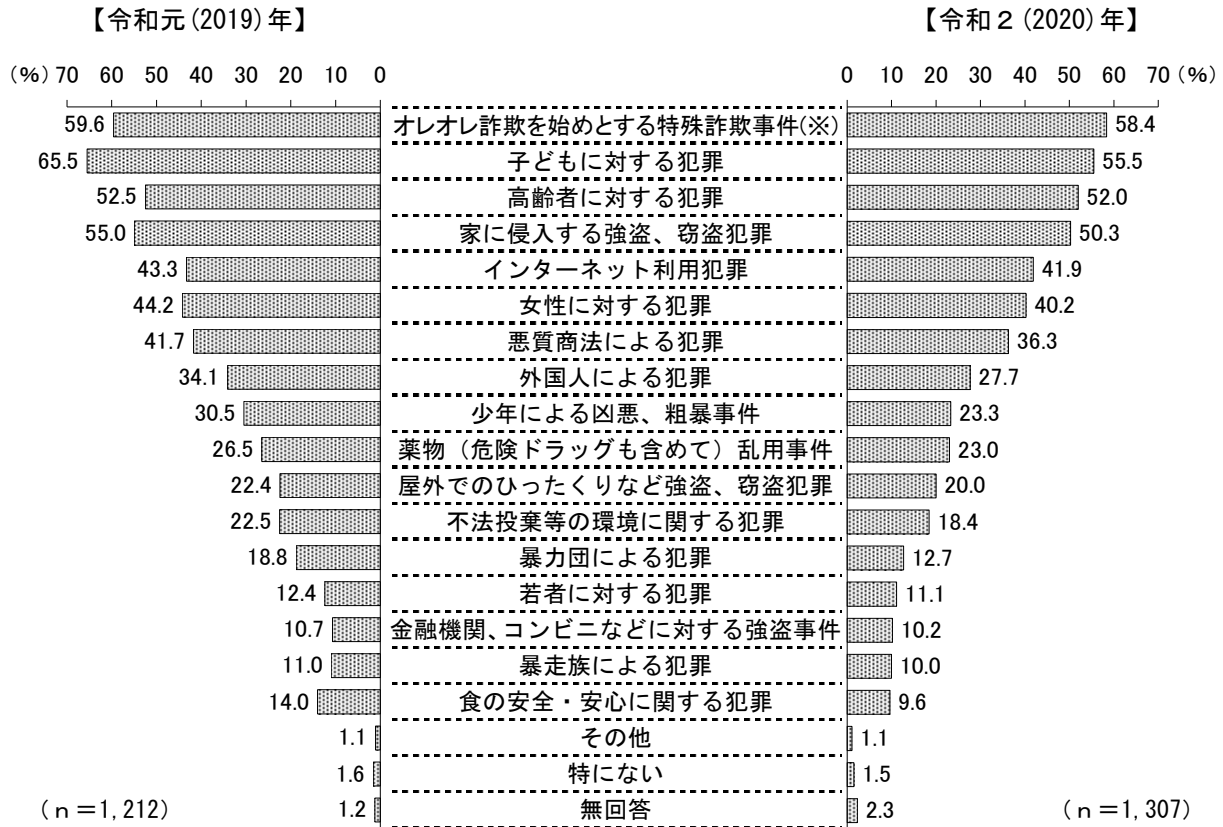
- 全体で見ると、「かなり良くなった」(2.8%)と「少し良くなった」(10.4%)の2つを合わせた『良くなった』(13.2%)が1割を超えている。一方、「少し悪くなった」(12.4%)と「かなり悪くなった」(3.3%)の2つを合わせた『悪くなった』(15.7%)が1割半ばとなっている。また、「変わらない」(41.2%)が4割を超えている。
- 性別で見ると、『良くなった』では〈男性〉(16.6%)が〈女性〉(10.7%)より5.9ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、『良くなった』では〈男性70歳以上〉が24.6%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性65～69歳〉が24.0%と高くなっている。「変わらない」では〈男性30歳代〉が56.1%と高くなっている。
- 過去の調査では、「あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。」と質問していた。また、選択肢も異なるため、参考として過去の調査結果を示す。



(2) 不安を感じる犯罪

問42 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,307]

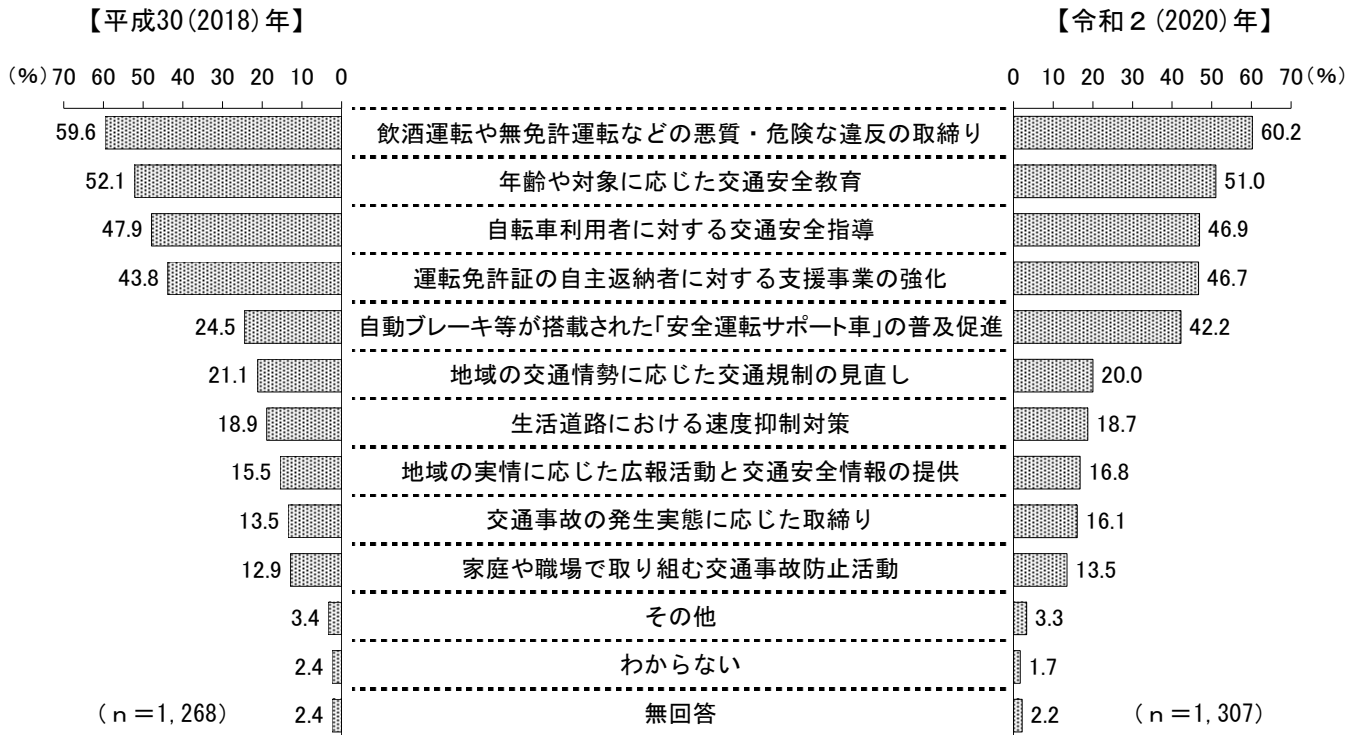


(※)「オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件」は、令和元(2019)年調査では「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」としていた。

- 全体で見ると、「オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件」(58.4%)が6割近くで最も高く、次いで「子どもに対する犯罪」(55.5%)、「高齢者に対する犯罪」(52.0%)、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(50.3%)、「インターネット利用犯罪」(41.9%)の順となっている。
- 性別で見ると、「高齢者に対する犯罪」では〈女性〉(58.1%)が〈男性〉(46.2%)より11.9ポイント高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性〉(46.2%)が〈男性〉(34.3%)より11.9ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈女性60~64歳〉が78.3%、〈男性65~69歳〉が71.8%と高くなっている。「子どもに対する犯罪」では〈女性30歳代〉が80.5%、〈女性40歳代〉が76.6%、〈男性40歳代〉が74.0%、〈男性30歳代〉が71.9%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈女性70歳以上〉が69.2%、〈女性65~69歳〉が64.6%と高くなっている。「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性50歳代〉が61.7%と高くなっている。「インターネット利用犯罪」では〈女性50歳代〉が63.9%、〈女性40歳代〉が59.5%、〈女性30歳代〉が57.1%、〈男性40歳代〉が56.0%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性40歳代〉が62.2%、〈女性30歳代〉が58.4%、〈女性20歳代〉が56.5%、〈女性50歳代〉が54.9%と高くなっている。
- 令和元(2019)年の調査結果と比較すると、「子どもに対する犯罪」が10.0ポイント、「少年による凶悪、粗暴事件」が7.2ポイント、「外国人による犯罪」が6.4ポイント、「暴力団による犯罪」が6.1ポイント、「悪質商法による犯罪」が5.4ポイント、それぞれ減少している。

(3) 交通事故を抑止するための対策

問43 交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。次の中からいくつか選んでください。 [n = 1, 307]



- ・全体で見ると、「飲酒運転や無免許運転などの悪質・危険な違反の取締り」(60.2%)が6割で最も高く、次いで「年齢や対象に応じた交通安全教育」(51.0%)、「自転車利用者に対する交通安全指導」(46.9%)、「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」(46.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し」では〈男性〉(23.5%)が〈女性〉(17.6%)より5.9ポイント高くなっている。「飲酒運転や無免許運転などの悪質・危険な違反の取締り」では〈女性〉(63.7%)が〈男性〉(58.0%)より5.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「年齢や対象に応じた交通安全教育」では〈女性30歳代〉が71.4%、〈女性40歳代〉が68.5%と高くなっている。「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」では〈女性50歳代〉が57.9%と高くなっている。「地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し」では〈男性65~69歳〉が32.4%と高くなっている。「生活道路における速度抑制対策」では〈男性65~69歳〉が29.6%と高くなっている。
- ・平成30(2018)年の調査結果と比較すると、「自動ブレーキ等が搭載された『安全運転サポート車』の普及促進」が17.7ポイント増加している。

VERY 
GOOD
LOCAL

とちぎ

令和2（2020）年度

栃木県政世論調査

調査報告書（概要版）

令和2（2020）年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市塙田1-1-20
電話（028）623-2158